

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法における評価の意味を理解し、様々な対象者に作業療法評価を実践するための基本的知識と技能が修得できる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①作業療法過程における評価の意味を説明できる。</li> <li>②作業療法における評価の目的と主眼について理解する。</li> <li>③作業療法における評価の手順について理解する。</li> <li>④作業療法における評価を構成する、観察・面接・検査・測定について理解する。</li> <li>⑤作業療法における観察やそのための環境設定の重要性を学ぶ。</li> <li>⑥面接の各手法とメリットデメリットが説明できる。</li> <li>⑦再評価と作業療法の効果判定における意義を説明できる。</li> </ol>
授業の概要	<p>作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、作業療法の過程における評価の意味を理解し、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、各領域ごとに学ぶ各評価指標の基本となる力を修得することが目的となる。</p>

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。</p> <p>【key words】 作業療法における評価</p> <p>【授業概要】 作業療法における評価について理解するために、まず、医療行為における評価の重要性について学ぶ。そして、作業療法を実施するうえでのエビデンスとその重要性を理解する。また、評価の意味assessmentとevaluationの違いから解釈というプロセスを理解する。その後、ICFや人の作業を評価する視点などについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定教科書①作業療法評価学のP.3～7, 指定教科書②ICFのP.3～23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記指定教科書を事前に熟読 復習：講義内容についての振り返り、次回1回目小テスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
	第2回	<p>作業療法過程と評価について</p> <p>【key words】 作業療法過程、小テスト</p> <p>【授業概要】 第1回目小テストの実施(第1回講義内容) 作業療法過程における評価の意味合いについて理解するため、作業療法の実践課程について改めて理解し、情報収集・面接・観察についての概要と意味について理解する。 また、評価の手順と評価の手段について学ぶとともに、作業療法におけるゴール設定に評価結果を活用するための考え方を学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定教科書①作業療法評価学のP.7～22</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記指定か所に目を通してから受講することを前提とする。 次回第2回目の小テスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 150分</p>

	<p>第3回 再評価と作業療法の効果判定  <b>【key words】</b>  効果判定、再評価、記録・報告  <b>【授業概要】</b>  2回目小テストの実施（第2回講義内容）  作業療法における効果判定はどのように行うべきか。作業療法の再評価と効果判定についてその考え方を学び、作業療法における再評価の意味や適切なアウトカム指標について理解する。  また、作業療法における、記録・報告の意義についても学ぶ  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定教科書①作業療法評価学のP. 23～33  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回の講義範囲に目を通してから参加すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第4回 面接について  <b>【key words】</b>  面接、COPM、環境設定  <b>【授業概要】</b>  面接の目的や環境設定の工夫、位置関係やコミュニケーション手法について学ぶ。面接における一般的注意事項についても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定教科書①作業療法評価学のP. 36～46  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回の講義範囲に目を通してから参加すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第5回 情報収集と観察について  <b>【key words】</b>  情報収集、観察  <b>【授業概要】</b>  また、カルテなどからの情報収集の目的と手法について考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定教科書①作業療法評価学のP. 9～11, P. 46～52  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回の講義範囲に目を通してから参加すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第6回 精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる  <b>【key words】</b>  ICF  <b>【授業概要】</b>  ICFの分類項目を用いて精神機能など、目に見えにくい障害も含め、ひとの生活機能にかかわる要素を構造的に捉える。また、自分自身や周囲の人について、実際にICFの項目に当てはめて考えてみる。  ICFについて、1年次のリハビリテーション入門の授業を基に振り返りをしてから参加すること  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定教科書②  世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類、中央法規、2002   <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習については指定教科書②の「まえがき～P. 23まで」を読んでおくこと。  今回はICFに関する用語のテストを行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  150分</p> <p>第7回 意識の評価とバイタルサインの測定、形態計測  <b>【key words】</b>  バイタルサイン、意識、JCS、GCS、形態計測  <b>【授業概要】</b>  第3回小テスト（第6回講義内容：ICFの用語）  バイタルサインと意識の評価、形態計測について概要を学ぶとともに、実際に一部を体験する  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定教科書① P. 53～71  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の指定範囲を熟読した後に講義に参加すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  150分</p> <p>第8回 まとめ  <b>【key words】</b>  まとめ、小テスト  <b>【授業概要】</b>  第4回小テスト（第7回講義内容）  本科目で学んだ事の総まとめ。作業療法における評価とは？について、再度振り返り考える。今までの資料をまとめる今までの資料をまとめる  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  これまでの講義内容と資料をまとめ、期末試験に向けた準備を行う。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  授業内で提示する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  150分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	作業療法学生としてふさわしい受講態度で臨むこと。 実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シヤトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	各講義は予習を前提に進める。また、講義を受講するだけでは理解が難しい。單元ごとに小テストを実施するので一つずつしっかりと理解を積み重ねること。
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他曜日においては要予約
評価方法	期末筆記試験50%、小テスト・期末課題50%
教科書	①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院 ②世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類. 中央法規. 2002
参考書	・澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版 ・日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学. 協同医書出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。 ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。 ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。</p>		
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。		
■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度 【key words】</p> <p>③ボランティアに臨む姿勢や態度について考える 「学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア」 【課題】 ①目標シートを完成させて提出する。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【授業概要】 学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア・学士力とボランティアの関わりについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明と記入 ②ボランティアの種類及び参加方法の説明 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 ボランティア講和 【key words】 ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア 【授業概要】 上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、ボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。また、ボランティア申し込み方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 ボランティア活動をどう考えるか：ポートフォリオの活用 【key words】 ボランティア、ポートフォリオ</p>		

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>車椅子体験</p> <p>【key words】</p> <p>車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。</p> <p>車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、対象者の心理面に配慮した適切な介助方法について考える。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①次回のグループ発表用のレジュメ（A4用紙1枚）を指定した期日までに提出すること。詳細は後日掲示します。</p> <p>②ポートフォリオを作成する。</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>車椅子体験まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>前期の振り返り</p> <p>【key words】</p> <p>2分間スピーチ、発表</p> <p>【授業概要】</p> <p>前期に参加したボランティアについて、ポートフォリオをもとに振り返り、自分が体験したこと、学んだことについて2分間スピーチを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①夏季休暇中のボランティア活動計画を立案する</p> <p>②ポートフォリオを作成する。</p> <p>③夏季休暇中のボランティア活動については、活動報告書・ポートフォリオを随時記入・作成し、後期開始時に提出すること。</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画</p> <p>【key words】</p> <p>企画、運営</p> <p>【授業概要】</p> <p>上級生から昨年度のクリスマス会の内容・様子、反省点について話を聞き、今年度のクリスマス会の内容を検討する。ボランティア委員を中心に、各専攻での企画・担当を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①夏季休暇中に参加したボランティア活動を踏まえて、後期のボランティア活動計画を立案する。</p> <p>②前期の活動について、各自中間振り返り票に記入し、日付の所にファイリングし、ポートフォリオを提出する。</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画、内容の検討</p> <p>【key words】</p> <p>企画、構成、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>ボランティア委員を中心に、各専攻で企画を考え、クリスマス会の内容・流れを決める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①ポートフォリオを作成する。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担</p> <p>【key words】</p> <p>企画、役割分担、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>クリスマス会について事前・当日の役割分担を行う。当日までのスケジュールを決め、各担当で行動計画を立てる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①各専攻の企画及び全体の企画書（予算案を含む）を作成し、提出する。</p> <p>②企画書が受理され、予算が配布されてから、各グループで準備を開始すること。</p> <p>③ポートフォリオを作成する</p>

	<p>第10回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 クリスマス会予演会</p> <p>【key words】 企画運営、予演会、課題抽出</p> <p>【授業概要】 各専攻で準備した企画・クリスマス会を模擬的に実施する。また、他専攻の企画に参加し、気づいたことや注意点を伝え、改善点を共有する。役割分担や流れについて再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会前日までに全ての準備を終了すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回</p> <p>クリスマス会</p> <p>【key words】 地域交流、コミュニケーション、企画運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回</p> <p>クリスマス会</p> <p>【key words】 地域交流、コミュニケーション、企画運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①クリスマス会における担当の企画および全体について、良くできた点・反省点とその改善策について、各自でまとめておく。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回</p> <p>クリスマス会の振り返り、まとめ</p> <p>【key words】 振り返り、問題点抽出、改善策</p> <p>【授業概要】 クリスマス会の取り組みを通して良くできた点、反省点とその改善策を各専攻で話し合い、まとめ、両専攻で共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回</p> <p>1年間のボランティア活動の発表</p> <p>【key words】 2分間スピーチ、発表</p> <p>【授業概要】 1年間のボランティア活動を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①1年間のボランティア活動の経験を振り返って、成長報告書を記載（鉛筆にて下書き）し、次回講義に持参すること。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回</p> <p>ボランティア活動のまとめ（自己分析・他者評価）</p> <p>【key words】 自己分析、他者評価</p> <p>【授業概要】 1年間のボランティアの目標、活動内容を確認し、自己分析を行う。また、自己の活動を評価表をもとに、他者から客観的評価をしてもらう。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①成長報告書を清書し、ポートフォリオにファイリングする。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意すること。</p> <p>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめてい</p>

	きます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。 依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	月曜日 16:30～17:00
評価方法	ポートフォリオ70% ボランティア参加状況18% 授業内発表12% <ポートフォリオ採点基準> ①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点） ②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点） ③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点） ④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点） ⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やかに提出できている（12点） <ボランティア参加状況評価基準> ①年間6回以上の依頼ボランティア・継続ボランティアに参加（18点） <授業内発表評価基準> ①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点） ②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点） 所々不十分（3点） 不十分（1点） ③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点） ④時間：1分45秒以上2分以内（3点） 1分30秒以上1分45秒以内（2点） 1分30秒以内、2分以上（0点）
教科書	ボランティアハンドブック
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容  アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない  情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない  ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他  その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
宮寺亮輔			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。 〔到達目標〕 ①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。 ②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。 ③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。 ④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。 ⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。</p>		
授業の概要	<p>ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。 実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門の実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門の実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／文献抄読 【key words】 基礎作業学、文献検索 【授業概要】 ・科目オリエンテーション。授業目的と各回の授業の進行について説明する。 ・作業科学、治療理論、治療的適応・作業科学に関連する文献検索。 ・調べた文献を要約し、他者に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学で文献検索をする手段を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第2回 文献抄読 【key words】 基礎作業学、作業科学、文献検索 【授業概要】 ・第1回に引き続き、検索した文献を抄読していく。 ・作業科学に関連する文献検索・抄読。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		



<p>第3回</p>	<p>意図した文献を検索する方法や検索した文献を整理する方法を調べて参加する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  文献抄読：レポート  <b>【key words】</b>  基礎作業学、作業科学、文献検索  <b>【授業概要】</b>  ・第2回に引き続き、検索した文献を抄読し、他者に説明できるまでを準備する。  ・作業科学に関連する文献検索・抄読作業科学関連の文献について調べ、自己の考えをまとめる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  シラバス  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  自己の文献について要約する項目を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
<p>第4回</p>	<p>木工  <b>【key words】</b>  木工、製図  <b>【授業概要】</b>  ・個人作業。木工（製図）。  ・集成材を用いた作品の木取り図および完成図を方眼紙に書き出す。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  製図が終わらなかった者は次回までに提出すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
<p>第5回</p>	<p>木工  <b>【key words】</b>  木工、製図、木取り、墨付け  <b>【授業概要】</b>  ・木工作業で使用する道具およびその使用方法、手順等に関する説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
<p>第6回</p>	<p>木工  <b>【key words】</b>  木工、製図、木取り、墨付け、切断  <b>【授業概要】</b>  ・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。  ・木工における適応・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
<p>第7回</p>	<p>木工  <b>【key words】</b>  木工、木取り、墨付け、切断  <b>【授業概要】</b>  ・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。  ・木工における適応・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
<p>第8回</p>	<p>木工  <b>【key words】</b>  木工、加工、仮組、くぎ打ち  <b>【授業概要】</b>  ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う  ・木工における適応・段階づけの説明  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，</p>

第9回	<p>pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術. 成美堂出版編集部, 2008.  【課題・予習・復習・授業準備指示】  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分  木工  【key words】  木工、加工、仕上げ  【授業概要】  ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。  ・段階づけの説明。  【教科書ページ・参考文献】  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術. 成美堂出版編集部, 2008.  【課題・予習・復習・授業準備指示】  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>作業特性の分析（木工）  【key words】  木工、作業特性の分析  【授業概要】  ・完成作品を互いに鑑賞する。  ・木工作业における包括的作業分析チェックリストの作成。  【教科書ページ・参考文献】  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, pp. 48-57, 2012.  ②深見悦司：週末木工術. 成美堂出版編集部, 2008.  ③配布資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  次回、エプロン・ジャージ・タオル持参、陶芸のデザインを考えてくる。次回までに、包括的作業分析チェックリストを作成しておく。  【予習復習に必要な想定時間】  予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p>
第11回	<p>陶芸  【key words】  陶芸  【授業概要】  ・個人作業。陶芸を開始。  ・陶芸の進行の概要説明、用いられる道具や技法に関する説明。  【教科書ページ・参考文献】  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, pp. 66-80, 2012.  ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸. Gakken, 2009.  【課題・予習・復習・授業準備指示】  粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第12回	<p>陶芸  【key words】  陶芸、形成、土練り  【授業概要】  ・各工程（土練り～形成）での作成方法。  ・作成のポイントについての説明、形成作業。  ・陶芸における適応・段階づけの説明。  【教科書ページ・参考文献】  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, pp. 66-80, 2012.  ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸. Gakken, 2009.  【課題・予習・復習・授業準備指示】  粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第13回	<p>陶芸  【key words】  陶芸、土練り、形成  【授業概要】  ・各工程（土練り～形成）での作成方法。  ・作成のポイントについての説明、形成作業。  ・陶芸における適応・段階づけの説明。  【教科書ページ・参考文献】  ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, pp. 66-80, 2012.  ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸. Gakken, 2009.  【課題・予習・復習・授業準備指示】  粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>

第14回	<p>陶芸</p> <p>【key words】 陶芸、高台作り、装飾、乾燥</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高台作り、装飾、修正について説明。</li> <li>・高台作り、装飾、修正を行う。</li> <li>・素焼きをする上での注意点を説明する。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012.</p> <p>②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。修正に使用する布巾を用意すること。素焼きと本焼きの際の温度管理について事前学習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第15回	<p>陶芸</p> <p>【key words】 陶芸、釉掛け、本焼き</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釉掛けについての説明と釉掛け。</li> <li>・本焼きについての説明。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012.</p> <p>②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 作品の形状に合わせて、満遍なく釉掛けするために必要な環境設定を検討しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第16回	<p>作業特性の分析（陶芸）</p> <p>【key words】 陶芸、作業特性の分析</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品を互いに鑑賞する。</li> <li>・陶芸作業における包括的作業分析チェックリストの作成。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012.</p> <p>②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>③配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p>
第17回	<p>木版画</p> <p>【key words】 木版画、下絵、模写</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同作業。木版画を開始。</li> <li>・デザインを決め、下絵の作成をする。</li> <li>・下絵をトレーシングペーパーに写す、ベニヤ板への模写。</li> <li>・木版画における適応・段階づけの説明。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社。pp. 58-65, 2012.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自下絵のデザインを事前に検討しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第18回	<p>木版画</p> <p>【key words】 木版画、下絵、模写</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを決め、下絵の作成をする。</li> <li>・下絵をトレーシングペーパーに写す、ベニヤ板への模写。</li> <li>・木版画における適応・段階づけの説明。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社。pp. 58-65, 2012.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 木くずが出ることを想定した服装で参加すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第19回	<p>木版画</p> <p>【key words】 木版画、彫刻</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回に引き続き、グループメンバーと調整を図りながら、彫りの作業を進める。</li> <li>・木版画における適応・段階づけの説明。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社。</p>

第20回	<p>pp. 58-65, 2012.  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  木くずが出ることを想定した服装で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>木版画  <b>【key words】</b>  木版画、彫刻  <b>【授業概要】</b>  ・前回に引き続き、グループメンバーと調整を図りながら、彫りの作業を進める。  ・木版画における適応・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社.  pp. 58-65, 2012.</p>
第21回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  木くずが出ることを想定した服装で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>木版画  <b>【key words】</b>  木版画、刷り、仕上げ  <b>【授業概要】</b>  ・刷りの準備、刷り（4～6枚）、タイトル付け、仕上げ。  ・作品のタイトルを決める。  ・木版画における適応・段階付けの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社.  pp. 58-65, 2012.</p>
第22回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  墨を扱うことを想定した服装で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>作業特性の分析（木版画）  <b>【key words】</b>  木版画、作業特性の分析  <b>【授業概要】</b>  ・完成した作品を互いに鑑賞する。  ・木版画作業における包括的作業分析チェックリストの作成。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社.  pp. 58-65, 2012.</p>
第23回	<p>②配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  チェックリストが仕上がらなかった者は、次回までに仕上げしておく。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p> <p>個別作業予定表作り  <b>【key words】</b>  個別作業、事例、作業予定表  <b>【授業概要】</b>  ・個人作業。個別作業を開始。  ・事例提示および事例に提供する作業活動について考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  特になし</p>
第24回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  今までに作成した作品や作業特性の分析レポートを振り返り、製作する作品を検討しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>個別作業予定表作り  <b>【key words】</b>  個別作業、事例、作業予定表  <b>【授業概要】</b>  ・予定表通りに製作を開始。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  文献検索および個別作業の予定表の作成予定表が仕上がらなかった者は仕上げで提出すること。  個別作業に用いる材料、道具の購入をしておく。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p>
第25回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>個別作業  <b>【key words】</b>  個別作業、事例、作業予定表  <b>【授業概要】</b>  ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。  ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  特になし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>

	<p>予習90分／復習90分 個別作業 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える不足している材料・道具は持参する。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第26回</p> <p>予習90分／復習90分 個別作業 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第27回</p> <p>予習90分／復習90分 個別作業 【key words】 個別作業、事例 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。必要に応じて道具を追加してもよい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第28回</p> <p>予習90分／復習90分 計画の振り返り 【key words】 個別作業、事例、段階付け 【授業概要】 ・完成した作品を互いに鑑賞する。 ・作業終了者から、個別作業振り返りシートの作成に入る。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作業特性のレポートは期末試験前までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第29回</p> <p>学んだことの振り返り 【key words】 作業特性の分析、適応・段階付け、振り返り 【授業概要】 ・これまで学んだことの総括。 ・作業分析シートの振り返り。 ・試験範囲の伝達。 【教科書ページ・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社 2012 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第30回</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。 ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照にすること。 〔受講のルール〕 ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。 ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。分からない箇所はそのままにせず、 次回の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	火曜日9時～12時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	授業内小テスト（論述・客観）50%、包括的作業分析チェックリスト50%
教科書	古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社, 2012

参考書	①中村隆一，他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版, 2003 ②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 新版. 三輪書店, 2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として14年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹・古田常人			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解し、身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。 ②評価の妥当性・信頼性について説明することができる。 ③身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げることができる。 ④各検査項目の基本的な方法を理解し、実践することができる。</p>		
授業の概要	<p>作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、生活の基盤となる身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/評価概論/意識の評価 【key words】 評価、妥当性、信頼性、意識レベル 【授業概要】 作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理について学ぶ。また、目的とする内容を適切に評価するために重要となる評価の妥当性・信頼性について学ぶ。 対象者の全身状態を知る手がかりとなる意識の評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P1-33、P53-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第2回 関節可動域測定① 【key words】 ROM測定 【授業概要】 関節の可動範囲を測定する関節可動域測定の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。基本的な測定手順・注意事項・角度計の扱い方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P72-95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分/実技練習150分</p> <p>第3回 関節可動域測定② 【key words】 ROM測定、グループ学習 【授業概要】 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定でき</p>		

第4回	<p>ることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P72-95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 関節可動域測定③ 【key words】 ROM測定、グループ学習 【授業概要】 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P72-95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 関節可動域測定④</p>
第5回	<p>【key words】 ROM測定、グループ学習 【授業概要】 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P72-95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 関節可動域測定④</p>
第6回	<p>筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ① 【key words】 MMT 【授業概要】 徒手的に抵抗を与え筋力を測定する徒手筋力検査 (MMT) の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。基本的な測定方法・手順、判定基準、注意事項を学ぶ。また、標準化された機器を用いた握力・ピンチ力測定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P96-113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ②</p>
第7回	<p>【key words】 MMT、グループ学習 【授業概要】 徒手筋力検査 (MMT) の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P96-113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ③</p>
第8回	<p>【key words】 MMT、グループ学習 【授業概要】 徒手筋力検査 (MMT) の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P96-113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分／実技練習150分 筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ④</p>
第9回	<p>【key words】 MMT、グループ学習 【授業概要】</p>



第10回	<p>徒手筋力検査 (MMT) の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P96-113  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分  筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ⑤  <b>【key words】</b>  MMT、グループ学習  <b>【授業概要】</b>  徒手筋力検査 (MMT) の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P96-113  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分</p>
第11回	<p>筋力検査 徒手筋力検査 (MMT) ⑥  <b>【key words】</b>  MMT、グループ学習  <b>【授業概要】</b>  徒手筋力検査 (MMT) の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P96-113  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分</p>
第12回	<p>知覚検査①  <b>【key words】</b>  知覚検査、簡易知覚検査  <b>【授業概要】</b>  生活の中で行われる各種動作を遂行する上で、運動機能とともに重要となる知覚・感覚の評価の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。簡易知覚検査の測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P114-129  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分</p>
第13回	<p>知覚検査②  <b>【key words】</b>  知覚検査、識別知覚検査、識別能検査  <b>【授業概要】</b>  識別知覚検査、識別能検査の測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P114-129  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分</p>
第14回	<p>筋緊張検査／反射検査  <b>【key words】</b>  筋緊張、深部腱反射、病的反射  <b>【授業概要】</b>  脳血管疾患などに伴う筋緊張異常の程度を知る筋緊張検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。  神経経路や中枢神経系の診断として用いられる反射検査 (腱反射・病的反射) の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。各測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P130-137、P151-159  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習として実技練習を必ず行うこと。  Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習30分／実技練習150分</p>
第15回	<p>バランス機能検査／リーチ機能検査／まとめ  <b>【key words】</b>  立位・座位バランス、静的・動的バランス、リーチ機能</p>

	<p>【授業概要】 基本動作・日常生活動作の基盤となる座位・立位の姿勢を保つバランス機能とリーチ機能の検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。 各測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 P138-150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習として実技練習を必ず行うこと。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分/実技練習150分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	・実技を行うので、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・測定、検査の実技テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 〔野口〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 60% <input type="checkbox"/> 関節可動域測定 実技テスト 20% <input type="checkbox"/> 徒手筋力検査 (MMT) 実技テスト 20%
教科書	①標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版, 医学書院, 2017 ②新・徒手筋力検査法 原著第9版, 協同医書出版社, 2014
参考書	社団法人 日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 第3巻 作業療法評価学, 協同医書出版社, 2009
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。 身体機能に関する評価を臨床業務として行っていた経験が、科目内で活かされている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。 ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。 ③脳血管疾患と頭部外傷の違いを説明することができる。</p>
授業の概要	本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本的事項の復習。</p> <p>【key words】 脳血管障害、ICF、</p> <p>【授業概要】 作業療法の流れ学ぶ事項の確認、学習課題の抽出を行った後、ICFや作業療法の流れについて復習する。また、脳血管障害についての復習を行う。また、第3回の学習に向けて、事前に「連合反応、共同運動、ブルンストロームステージテスト」について調べたことをレポートとしてまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記教科書ページを確認する。 復習：上位・下位運動ニューロン、錐体路障害について、脳血管障害について、クリニカルパス、脳の可塑性について調べる(第3回提出)。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第2回	<p>脳血管障害の各病期における作業療法の流れについて学ぶ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Cerebral Vascular Accident (CVA)に対するOTの各病期ごとの流れを把握できるように学習する。また、クリニカルパスで全体の流れを把握する。各病期のOTの役割について。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第3回	<p>共同運動と連合反応について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 上位運動ニューロン障害の特徴について動画を通じて臨床像を学ぶとともに、そのメカニズムについて理解する。レポート提出(詳細は第1回目参照)。配布資料をよく読んでおくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

第4回	<p>中枢性運動麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 中枢性運動麻痺の回復過程について学ぶとともに、末梢性麻痺との違いについても学ぶ。又、その評価であるBr, Stageや上田による1 2段階法について知る。配布資料をよく読むこと。第6回目にBr, Stageの小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>中枢神経障害による運動麻痺の回復（前回の続き） 不随意運動、運動失調について</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 中枢神経障害による運動麻痺の回復とその過程について復習する。また、不随運動についてその分類について学ぶ。次回 Br, Stage の小テスト</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>不随意運動、失調について、Br. Stageテストの小テスト</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 不随意運動について分類や原因について学び、実際の動画を見て臨床像をイメージできるようにする。 Br. stageテストを中心にここまでの学習状況について小テストで確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 CVA急性期におけるOTの実際について学ぶ。バイタルチェックなどのリスク管理の他にポジショニングについては実際に行いながら学ぶ。また、pusher syndromeについても学ぶ。予習しておくこと（第9回までに麻痺の回復ステージに応じた治療を各班で考えておく）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>具体的介入法・亜急性期～回復期：神経筋促通法や最新の機器を用いたリハビリテーションなどについて、特徴と適応について調べる</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 機能回復訓練の適応について学ぶとともに、実技を行いながらそのポイントを学ぶ。予習しておくこと（第9回までに麻痺の回復ステージに応じた治療を各班で考えておく）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	<p>具体的介入法・回復期：上位運動ニューロン障害に対するアプローチについて調べたことを発表する</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 上位運動ニューロン障害によって生じる運動麻痺の回復段階に応じActivity の選定方法について学ぶ。 また、各グループで調べたことを発表する。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、手指の基本的機能と書字訓練</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 上肢機能をreach, grasp, move, position, release, に分けてそれぞれどのように分析し、アプローチを考えるか実技を通して学ぶ。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  <b>第11回</b> 具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、ADLに配慮したアプローチ  【key words】</p> <p>【授業概要】  Activityレベルの問題とその背景にあるBody functions &amp; structures レベルの問題との関連について片麻痺のADLへのアプローチについて考える。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  <b>第12回</b> 脳血管障害の各病期におけるOTの役割  【key words】</p> <p>【授業概要】  CVAにおけるOTの役割について考えるとともに、CVAケースに対する評価項目についてDiscussionする。回復段階に応じた身体機能のアプローチについて復習してまとめる  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  <b>第13回</b> 外傷性脳損傷における作業療法  【key words】</p> <p>【授業概要】  頭部外傷と脳挫傷の分類、症状、CVAとの症状の違い、高次脳機能障害について学ぶ。課題提出（詳細は第11回を参照）  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  <b>第14回</b> 外傷性脳損傷の続き、OTの流れ（脳血管障害のモデルケースを通して学ぶ）  【key words】</p> <p>【授業概要】  頭部外傷のOTの流れについて学ぶとともに、高次脳機能障害の代表的な症状について学ぶ。期末試験の準備をし、わからない点などをまとめておく  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  <b>第15回</b> 病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。 本科目のまとめ。  【key words】</p> <p>【授業概要】  今までの重要な項目やKey Word について復習と確認を行う。また、CVA患者の動画を見て痙縮、連合反応、共同運動など専門用語を用いて現象を説明する。期末試験の準備をし、わからない点などをまとめておく  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。 実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。 授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。途中で小テストの実施も予定している
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> Webによる確認テスト、及び授業内試験（ <input type="checkbox"/> 論述 <input checked="" type="checkbox"/> 客観） <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他  評価配分：各講義における確認テスト70% Webによる授業内試験30%
教科書	長崎 重信（編集） 身体障害作業療法学 改訂第2版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）メジカルビュー社

参考書	山口 昇／玉垣 努 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院 (第3版) 菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社 千田富義 編 『リハ実践テクニック 脳卒中』 メジカルビュー社 Ortrud Eggers 著 『エガース・片麻痺の作業療法』 協同医書出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 脳血管障害の作業療法に関して、一般病院や大学病院の入院・外来患者に対しての実践に加え、老人保健施設のデイケアや訪問リハビリによる地域実践も行っていった。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input checked="" type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input checked="" type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。</p> <p>②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。</p> <p>③精神科領域における作業療法評価（情報収集・観察・面接・集団・検査）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。</p> <p>④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。</p> <p>⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。</p> <p>⑥地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。</p>		
授業の概要	精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/こころの病と精神科</p> <p>【key words】 精神科医療、精神科リハ、精神科OT、ストレス</p> <p>【授業概要】 ・精神科病院の概要や雰囲気、対象となる方などを理解する為、動画を観る ・精神科リハビリテーション、作業療法に関する説明</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 大西 暢夫：ひとりひとりの人、精神看護出版、配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状：レポート提出</p> <p>【key words】 モラルトリートメント、Pinel、呉秀三、クロルプロマジン、宇都宮事件</p> <p>【授業概要】 ・先史、諸外国における精神科医療の歴史 ・日本の精神科医療の歴史と関連する法律</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 全書 精神障害 pp.3-37</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料レポート：日本精神科医療・OTの現状・課題と今後の展望（次回、講義時に提出） 予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分程度</p> <p>第3回 精神保健医療福祉の流れとOTの役割</p> <p>【key words】 法と事件、入院形態、施設基準、障害者総合支援法、自殺</p> <p>【授業概要】 ・ストレスとメンタルヘルスについて ・精神障害者に関わる法律、制度</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科OTの施設基準</li> <li>・ストレスと自殺の現状について</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  全書 精神障害 pp. 45-75, 222-225 配布資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  次回、ICFの教科書を持参すること。  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第4回	<p>作業療法と精神障害領域における評価</p> <p>【key words】  ICF、精神機能、評価、作業療法プロセス</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科リハビリテーション・作業療法の目的</li> <li>・精神機能とは</li> <li>・作業療法プロセス</li> <li>・作業療法評価とは</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  配布資料、国際生活機能分類 pp. 58-68  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第5回	<p>作業療法の基本的な視点と方法(作業・作業活動を介した回復支援・生活支援)</p> <p>【key words】  リカバリー、エンパワメント、ストレングス、ACT、ピア</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカバリー等精神障害リハビリテーションに関わる概念</li> <li>・作業を介した生活支援</li> <li>・ACTやピアなどの地域生活支援</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  全書 精神障害 pp. 75-79・pp. 315-318  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第6回	<p>作業療法の基本的実践論(治療構造と実践形態/実践のプロセス)</p> <p>【key words】  治療構造、実践形態、個別作業療法、集団作業療法、評価の流れ</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神機能OTの治療構造と実践形態について</li> <li>・個別作業療法と集団作業療法について</li> <li>・精神障害OTに関する動画視聴</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  全書 精神障害 pp. 89-111  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第7回	<p>作業療法の基本的実践論(病期に応じた生活支援：急性期、回復期、生活期、予防期)</p> <p>【key words】  病期、OTの目的、多職種連携、クリティカルパス、心理教育、家族支援</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合失調症の回復過程・OTの目的</li> <li>・多職種連携のポイントと方法</li> <li>・心理教育とは</li> <li>・家族支援の概要</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  全書 精神障害 pp. 112-129  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第8回	<p>精神機能作業療法評価の基礎(情報収集)</p> <p>【key words】  情報収集、量・質的評価、横・縦断的評価、トップダウンアプローチ</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OT評価の目的</li> <li>・OT評価時の留意点</li> <li>・OT評価の方法</li> <li>・OT評価の流れ</li> <li>・OT評価で扱う情報</li> <li>・情報収集の方法</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】  標準 OT評価学(第3版) pp. 468-477  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
第9回	<p>精神機能作業療法評価の基礎(観察法)</p> <p>【key words】</p>



	<p>作業観察、自然観察法、実験観察法</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の目的と留意点</li> <li>・観察の方法</li> <li>・作業観察を行ってみる</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準OT評価学 pp.478-482</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第10回	<p>精神機能作業療法評価の基礎(観察法)</p> <p>【key words】</p> <p>構造化面接、面接の手順、面接事項、環境設定</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接の目的と留意点</li> <li>・面接の実施方式について</li> <li>・面接の手順について</li> <li>・様々な場面・環境で面接を行ってみる</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準OT評価学 pp.482-485</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第11回	<p>精神機能作業療法評価の基礎(集団評価法)</p> <p>【key words】</p> <p>集団評価、集団構造、集団レベル、集団適応、集団凝集性、集団力動</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団とは</li> <li>・集団構造・評価</li> <li>・評価に活用するデータ</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準 評価法 pp.469-472</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第12回	<p>精神機能作業療法評価の基礎(検査法)</p> <p>【key words】</p> <p>検査法、評価尺度、質問紙、妥当性・信頼性</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法評価に関わる検査法、尺度の実際</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準 OT評価学 pp.486-497</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第13回	<p>障害者の自立支援に必要なまちづくり①(遠藤)</p> <p>【key words】</p> <p>まちづくり、参加</p> <p>【授業概要】</p> <p>支え合いまちづくりマップの作成(演習)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>全書 精神障害 pp.222-235</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第14回	<p>障害者の自立支援に必要なまちづくり②、ケアマネジメントの基礎(遠藤)</p> <p>【key words】</p> <p>まちづくり、参加</p> <p>【授業概要】</p> <p>まちづくりマップを作成して具体案を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>全書 精神障害 pp.222-235</p> <p>ICF国際生活機能分類 pp.169-189</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
第15回	<p>精神障害者の地域生活支援とまちづくり(遠藤)</p> <p>【key words】</p> <p>支え合いマップ、参加</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの発表</li> <li>・事例に触れ、生活支援について考える。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>全書 精神障害 pp.222-235</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  様々なフィールドに興味を持つこと  【予習復習に必要な想定時間】  30分程度</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習復習をしっかりとる。</li> <li>・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義終盤で実施予定。</li> </ul> <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は欠席のないようにする。</li> <li>・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。</li> <li>・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月曜日16:00～17:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 小テスト 30% <input type="checkbox"/> 感想文 10% <input type="checkbox"/> レポート（精神障害者に関連する事件） 30% <input type="checkbox"/> ワークシート（面接法） 30%
教科書	<p>①日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害，2010.</p> <p>②岩崎テル子他（編）：作業療法評価学，第3版. 医学書院，2017.</p>
参考書	<p>①小林夏子（編）：標準作業療法学，精神機能作業療法学，第2版. 医学書院，2014.</p> <p>②香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—，第2版. 医歯薬出版，2014.</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①代表的なADL・IADL評価法を説明することができる。 ②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。 ③基本動作の観察ポイントを挙げるができる。 ④評価結果をまとめることができる。</p>		
授業の概要	ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／ADLとは</p> <p>【key words】 運動、動作、行動、活動、行為、BADL、IADL</p> <p>【授業概要】 科目オリエンテーションで科目の位置づけとシラバスの説明を行います。ADL・IADLの定義について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P1～28</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>ADLの評価とは</p> <p>【key words】 作業療法の流れ、ICF</p> <p>【授業概要】 評価と作業療法計画について学びます。また、代表的なADL評価法を学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P15～28</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：作業療法入門で学んだ作業療法の流れについて見直しておく 課題：トップダウン・ボトムアップアプローチについて各自調べておく</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第3回	<p>ADL評価法 (Barthel Index, FIM)</p> <p>【key words】 Barthel Index, FIM</p> <p>【授業概要】 できるADLの評価法として代表的なBarthel Indexの評価項目、採点について具体的に学ぶ。また、FIMの評価尺度についても学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P29～32</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

	<p>予習：Barthel IndexとFIMの違いを調べる  復習：各項目の点数の違いを整理する</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ADL評価法 (FIM 運動項目)  <b>【key words】</b>  FIM (運動項目)</p> <p><b>【授業概要】</b>  FIMの運動項目であるセルフケア、排泄コントロール、移乗について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  FIM：P90～110  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  復習：各項目の点数の違いを整理する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第4回	
第5回	<p>ADL評価法 (FIM 運動項目)  <b>【key words】</b>  FIM (運動項目)、FIM (認知項目)</p> <p><b>【授業概要】</b>  FIMの運動項目である移乗、移動について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  復習：各項目の点数の違いを整理する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第6回	<p>ADL評価法 (FIM 認知項目)  <b>【key words】</b>  FIM (認知項目)</p> <p>次回小テスト  <b>【授業概要】</b>  FIMの認知項目であるコミュニケーションについて評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  復習：各項目の点数の違いを整理する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第7回	<p>小テスト, IADL評価法 (老研式, FAI, AMPS)  <b>【key words】</b>  老研式, FAI, 寝たきり度, AMPS</p> <p><b>【授業概要】</b>  第6回までの範囲の小テストを行う。  また, Barthel Index, FIM以外のADL・IADLの評価法について概要を学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P32～47  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第8回	<p>AMPS (運動技能) ①  <b>【key words】</b>  身体の位置, 物の獲得と把持</p> <p><b>【授業概要】</b>  AMPSの運動技能の身体の位置 (Body Position) と物の獲得と把持 (Obtaining and Holding Objects) の各項目の評価ポイントを学び, 動画を通して確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  課題：プリントの例題を解く。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第9回	<p>AMPS (運動技能) ②  <b>【key words】</b>  自己と物の移動, 遂行の維持</p> <p><b>【授業概要】</b>  AMPSの運動技能の自己と物の移動 (Moving Self Objects) と遂行の維持 (Sustaining Performance) の各項目の評価ポイントを学び, 動画を通して確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  課題：プリントの例題を解く。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第10回	<p>AMPS (プロセス技能) ①  <b>【key words】</b>  遂行の維持, 知識の適用</p> <p><b>【授業概要】</b>  AMPSのプロセス技能の遂行の維持 (Sustaining Performance) と知識の適用 (Applying Knowledge) の各項目の評価ポイントを学び, 動画を通して確認する。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：プリントの例題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 AMPS（プロセス技能）② 【key words】 空間と物の組織化、遂行の適応</p> <p>【授業概要】 AMPSのプロセス技能の空間と物の組織化（Organizing Apace and Objects）と遂行の適応（Adapting Paeformance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：プリントの例題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 動作分析①メモのとり方、評価のポイント 【key words】 メモ、記録、工程</p> <p>【授業概要】 動作の観察、記録の方法を学ぶ。実際に被験者、動画を使い動作分析を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：動作分析のまとめを次回提出。 【予習復習に必要な想定時間】 動作分析①起き上がり動作 【key words】 工程分析、支持基底面、体重支持面、重心</p> <p>【授業概要】 基本動作の起き上がり動作を分析し、動作に必要な諸機能について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：動作分析のまとめを次回提出。 【予習復習に必要な想定時間】 動作分析②片麻痺の寝返り動作 【key words】 支持基底面、体重支持面、重心、筋緊張</p> <p>次回小テストを行う。 【授業概要】 片麻痺患者さんの寝返り動作を体験し、評価・指導のポイントを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：動作分析のまとめを次回提出。 【予習復習に必要な想定時間】 小テスト、ADL・IADL評価のまとめ 【key words】</p> <p>【授業概要】 小テストを行う。また、作業療法士が行うADLの評価のポイントを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	実習の際は動きやすい服装で受講すること。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。スマホ・タブレット・デジカメ等、静止画・動画が撮影できる機器を準備すること。授業に関係のないものの持ち込みを禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	小テスト10% 筆記90%
教科書	濱口豊太編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院, 2014
参考書	伊藤利之, 江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際. 医歯薬出版, 2011
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法に関わる社会保障制度について、各法律の定義・内容を理解することを目的とする。</p> <p>[授業の到達目標] ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。 ②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。 ③作業療法に関わる関連法規の概要と規程施設について説明することができる。</p>
授業の概要	地域リハビリテーションにかかわる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実践に必要な基礎知識、主に社会保障制度と社会福祉関連を学ぶ。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、地域リハビリテーションとは、日本の社会保障制度</p> <p>【key words】 CBR、地域リハビリテーション、社会保障制度</p> <p>【授業概要】 科目オリエンテーションを行い、地域作業療法入門Ⅱ、地域作業療法実習Ⅱとの関連を説明する。日本の社会保障制度について定義、対象者、内容を説明する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、健康保険証を各自持参すること。また、病院等を受診した際の診療明細書があれば持参すること（学生本人のものでなくても可）。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第2回	<p>社会保険、医療保険制度について</p> <p>【key words】 社会保険制度、医療保険、現物給付、償還払い</p> <p>【授業概要】 社会保障制度の一つ、社会保険の仕組みを説明する。その内の医療保険のしくみや種類、内容を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：医療保険の仕組みを見直しておく 【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第3回	<p>診療報酬について</p> <p>【key words】 医療費明細書、疾患別リハビリテーション料</p> <p>【授業概要】 医療保険における診療報酬について、医療費の仕組みとリハビリテーション料について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：第5回までに「障害者総合支援法」について各自調べる 【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第4回	<p>後期高齢者医療制度について</p> <p>【key words】 後期高齢者医療制度</p>

	<p>【授業概要】 日本における高齢者医療について、対象、仕組み等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：後期高齢者医療制度の保険料の仕組みについて見直す 課題：次回までに、障害者総合支援法について各自調べ、まとめておくこと。調べた内容を使用し、授業を進めます。 【予習復習に必要な想定時間】 社会福祉について</p> <p>【key words】 障害者総合支援法、支援費制度、措置制度</p> <p>【授業概要】 日本における社会保険（医療保険を除く）について学び、日本の各種保障や福祉について考えます。特に障害者総合支援法については、各自が調べたことをもとに、日本の福祉の変遷、今後について学びます。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：障害ごとの福祉法についても復習しておく 【予習復習に必要な想定時間】 障害者雇用制度について</p> <p>【key words】 障害者雇用促進法、法定雇用率、納付金制度</p> <p>【授業概要】 障害者雇用について、事業主・対象者のそれぞれについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：次回までに、精神機能作業療法で学んだ入院形態や病院・病棟等を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 精神科領域における地域作業療法について</p> <p>【key words】 リワーク、デイケア</p> <p>【授業概要】 精神科病院に勤務する作業療法士を講師に迎え、精神科病院における地域リハビリテーションについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回小テストを行います。 【予習復習に必要な想定時間】 小テスト、地域リハビリテーションのまとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 小テストとまとめを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	関連法規を学ぶ上で、難しい専門用語が多く出てくる。その為、自己学習を積極的に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループ発表では指定時間、レジュメの提出を厳守し、わかりやすい工夫を行うこと。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	小テスト10% 筆記試験90%
教科書	特に指定しない
参考書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論. 第7版増補, 医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>



	<p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li><li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/> その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法入門で学んだ知識を踏まえ、作業療法士として必要な知識や技能について、実際の臨床現場の見学を通してそれらを学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。 ②見学を通して身体機能障害領域の作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学して学ぶことができる。 ③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。</p>		
授業の概要	作業療法士が働いている医療機関（身体機能障害領域を中心とした病院）での3日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	第1回	<p>事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理など）</p> <p>【key words】 オリエンテーション、リスク管理</p> <p>【授業概要】 事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理）本科目のオリエンテーションを行う。また、実習の際に起こりうる事故の可能性について理解するとともに、リスク管理、特に感染症に対する基本的な知識を確認し、実習時に配慮する点などを学ぶ。適切な情報管理の方法についても学ぶ（特に個人情報の保護について）。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部実習の手引き</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）にて、スタンダードプレコーションについて調べておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>リスク管理（転倒、コミュニケーション、バイタル確認など）</p> <p>【key words】 リスク管理</p> <p>【授業概要】 実習の際に起こりうる事故の可能性について理解するとともに、リスク管理、特に転倒、コミュニケーション、バイタル確認などに対する基本的な知識を確認し、実習時に配慮する点などを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部実習の手引き</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スタンダードプレコーションに関するミニテスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第3回	<p>見学実習①</p> <p>【key words】 見学実習</p> <p>【授業概要】</p>	

第4回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習①  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第5回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習①  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第6回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習①  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第7回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習②  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第8回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習②  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第9回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習②  <b>【key words】</b>  見学実習  <b>【授業概要】</b></p>
第10回	<p>学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学  リハビリテーション学部実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  デイリーノートの作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  15分  見学実習②  <b>【key words】</b></p>

	<p>見学実習 【授業概要】 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 15分</p> <p>第11回 見学実習③ 【key words】 見学実習 【授業概要】 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 デイリーノートの作成 【予習復習に必要な想定時間】 15分</p> <p>第12回 見学実習③ 【key words】 見学実習 【授業概要】 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 デイリーノートの作成 【予習復習に必要な想定時間】 15分</p> <p>第13回 見学実習③ 【key words】 見学実習 【授業概要】 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 デイリーノートの作成 【予習復習に必要な想定時間】 15分</p> <p>第14回 見学実習③ 【key words】 見学実習 【授業概要】 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 デイリーノートの作成 【予習復習に必要な想定時間】 15分</p> <p>第15回 実習のまとめ・振り返りと共有 【key words】 まとめ、振り返り 【授業概要】 各自が実習で学んだことについて、まとめてグループで共有するとともに、各自の実習での課題 と課題解決に向けた具体的な改善方法についてまとめる。まとめたものを振り返りシートにまと めるとともに、レポート作成を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、指定教科書（大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版）、群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末課題レポートと振り返りシートの作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。作業療法学生としての立場をよく理解し、それ にふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、そ の場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。 詳細は臨床実習の手引きも参照すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	授業内で配布する各種実習書類
授業外時間にかかわ る情報	実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病 院について十分に事前学習を行っておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。

オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他、実習期間の前後は随時受け付ける」
評価方法	課題レポート55%、実習への参加態度・事前課題・実習中課題・実習先評価35%、振り返りシート10%
教科書	大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	京極真・鈴木憲雄(編著)：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック, 誠信書房. 市川和子(編)：標準作業療法学-専門分野, 作業療法臨床実習とケーススタディ, 医学書院. 実習の手引きと配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法過程における評価の意味について学ぶとともに、作業療法士として様々な対象者に実践するための基本的技能が修得できる。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。 ②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。 ③各検査手技を自己学習を通して正確に行うことができるようになる。</p>		
授業の概要	<p>作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、様々な領域で用いられる評価について、実践できる基本的な技能を修得する。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。</p> <p>【key words】 オリエンテーション、全人間的側面、評価と診断、ICF</p> <p>【授業概要】 医師が行う評価、すなわち診断と作業療法で行う評価の違いは何なのか考える。作業療法における評価やその手順について学ぶとともに、検査結果を解釈することの意味について考える。 本授業で扱うプリント等をまとめる方法について、確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書②澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス、医歯薬出版 P.2～15</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指定か所に目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>情報収集と面接</p> <p>【key words】 情報収集、面接</p> <p>【授業概要】 面接の目的や環境設定の工夫、位置関係やコミュニケーション手法について学ぶ。面接における一般的注意事項についても学ぶ。また、カルテなどからの情報収集の目的と手法について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院 P.36～46</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指定か所に目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>	
	第3回	<p>観察について</p> <p>【key words】 観察、動作分析</p> <p>【授業概要】 作業療法における重要な評価手段の一つである観察について学ぶ。対象者について、様々な観察場面から多面的にみて情報を得るための手法について、実際に教員が評価するプロセスを共有することで学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P.46～52、P.457～465</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

	<p>教科書指定か所に目を通してから受講すること、次回「脳神経」と「上肢と下肢の運動検査（協調性検査）」のミニテストを実施するので準備しておくこと。協調性検査は教科書①P. 162～163の内容とする。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第4回	<p>脳神経、協調性の検査とミニテスト①</p> <p>【key words】 脳神経、摂食・嚥下機能評価、排泄機能評価、協調性の検査。「脳神経」と「上肢と下肢の運動検査（協調性検査）」のミニテスト。</p> <p>【授業概要】 脳神経の検査方法について、実技を通して学ぶ。また、摂食・嚥下機能評価と排泄機能評価について学び、協調性障害と協調性の検査についても学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 168～203, P. 160～167</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指定か所に目を通してから受講すること MFTとSIASについて配布プリントで予習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第5回	<p>中枢神経障害による運動麻痺の評価について</p> <p>【key words】 脳卒中機能評価法SIAS、脳卒中上肢機能検査MFT、ブルンストロームステージテスト、上田による片麻痺機能テスト</p> <p>【授業概要】 SIASとMFT、Br. stageテスト、上田による片麻痺テストについて概要を理解(復習)するとともに、それらのテストを実施するうえで必要となる知識と技術を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 事前配布プリント 教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリント等を基に復習し、STEFについての予習すること。特にブルンストロームステージテストとMFT、SIAS、STEFFは第7回目のミニテスト②の対象となる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>簡易上肢機能検査：STEF</p> <p>【key words】 STEFF</p> <p>【授業概要】 STEFについて概要を理解するとともに、実際に検査を行うことで、実施方法を身につける。また、STEFの実施を通して、レクチャーの重要性、観察の視点についても学ぶ。特に、検査の実施だけでなく、遂行時の動作の質についても評価する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 STEFについてのプリント 教科書①P. 205-206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 STEFについてのプリント（事前配布）を読んでから参加すること。次回、TUG、FR、片脚立位などのプリントを予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>介護予防で用いられる評価（TUG、片脚立位、ファンクショナルリーチ）とHDS-R、ミニテスト②</p> <p>【key words】 介護予防事業、HDS-R、ミニテスト</p> <p>【授業概要】 介護予防事業で用いられることの多い簡便な評価指標について学ぶとともに、実技を通してその実施スキルを身につける。HDS-Rの概要についても学ぶ。HDS-Rについては、第10回に実技試験を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回のASIAによるISCSCIについて予習すること。 教科書① P. 314-329</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第8回	<p>脊髄損傷者に対する検査法（ASIA-ISCSCI）</p> <p>【key words】 ASIAによるISCSCI</p> <p>【授業概要】 ASIAによるISCSCIの評価シートを用いて脊髄（頸髄）損傷者に対するスクリーニング評価を実技を通じて学ぶ。また、感覚検査とMMTについて復習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書① P. 314-329</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ISCSCIについて復習しておくこと。 配布プリント（コース立方体組み合わせテスト）の予習。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第9回	<p>コース立方体組み合わせテスト</p> <p>【key words】 コース立方体組み合わせテスト</p> <p>【授業概要】 コース立方体組み合わせテストの実施方法について学ぶとともに、実際に学生同士で一部を実施</p>

	<p>することで、実践のためのスキルを身につける。また、HDS-Rの実技試験の概要について理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  コース立方体組み合わせテストについて復習  次回、実技試験  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  120分</p>
第10回	<p>第9回までに学んだ内容に対する振り返り  <b>【key words】</b>  実技試験、HDS-R  <b>【授業概要】</b>  指定された項目についてこれまでの学習状況を確認するために、実技試験を実施する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  指定された内容で実技試験を実施する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  120分</p>
第11回	<p>第9回までに学んだ内容に対する振り返り  <b>【key words】</b>  振り返り  <b>【授業概要】</b>  実技試験の振り返りを行う。課題となっていた事項について、皆で共有し、作業療法士として身につけるべき実践的評価技能の基本について改めて認識する  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  振り返りの実施  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  振り返りシート  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第12回	<p>トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ、COPMやAMPSについて  <b>【key words】</b>  AMPS、トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ  <b>【授業概要】</b>  クライアント中心実践のための測定ツールである。COPMやAMPSについて理解する。  また、トップダウンアプローチとボトムアップアプローチのメリットデメリットについて考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント  教科書① P.234, 596  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配付資料と教科書①P.234, 596を復習すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第13回	<p>うつ、活動性、意欲、セルフエフィカシー、QOLの尺度について。意識・覚醒レベルの評価。  <b>【key words】</b>  多様な評価尺度  <b>【授業概要】</b>  意欲や気分、自己効力感など目に見えにくい対象の評価について学ぶ。また、意識に対する評価も行う。配布資料配布資料を復習すること  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント等  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  プリントの復習  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第14回	<p>精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる  <b>【key words】</b>  ICF  <b>【授業概要】</b>  ICFの分類項目を用いて精神機能障害を構造的に捉える。また、見学次週で見たケースまたは周囲の人について、実際にICFの項目に当てはめて考えてみる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類、中央法規、2002  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ICFについて、1年次のリハビリテーション入門の授業を基に振り返りをしてから参加すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第15回	<p>作業療法評価計画、評価の流れ、検査結果の解釈、本科目のまとめ  <b>【key words】</b>  評価の流れ、まとめ  <b>【授業概要】</b>  作業療法における評価計画からの一連の流れについて、改めて理解を深める。また、作業療法における評価について、得られた結果を統合し解釈するまでの過程についても事例などを通して理解を深める。  そこから本科目で学んだ事について、総まとめを行う。作業療法における評価とは？について、再度振り返り考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント等  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p>



	<p>今までの資料をまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 150分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>作業療法学生としてふさわしい受講態度で臨むこと。 実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。 特に、実技試験は臨床実習に臨むべき格好で受験すること。不適切だと教員（実技試験のみ複数のOT教員）が判断した場合、その日に実技試験を受験することはできない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>シャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習などを行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。 また、各講義で配布する資料などはファイルにまとめて期末に提出すること。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日16時半～17時半は随時　その他の曜日においては要予約</p>
評価方法	<p>授業内課題・小テスト・ファイリング等35%、実技試験30%、期末試験35%</p>
教科書	<p>①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院 第3版 ②澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版</p>
参考書	<p>日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学. 協同医書出版</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員  <b>■実務経験のある教員が担当している</b>          具体的な実務経験の内容          急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/> グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション  <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔・野口直人・柴田全利			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、整形外科疾患や内部障害に対する基本的な知識や作業療法の流れについて学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①整形外科疾患や内部障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。 ②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。 ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。</p>		
授業の概要	本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら理論を学習する。また、内部障害の作業療法の基本的な流れも学ぶ。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び／クリティカルパス</p> <p>【key words】 クリティカルパス, OTの役割, 骨折</p> <p>【授業概要】 骨折に対する作業療法この授業の位置づけについて、理解する。わが国における高齢化、それに伴う転倒、骨折件数の増加など、身体機能作業療法を取り巻く社会的な背景について理解する。また、整形外科疾患に対する作業療法士の役割についてディスカッションを通して考える。骨折に対する作業療法を実践する際に必要となる評価で特徴的な物について学ぶ。また、クリティカルパスについて知るとともにそのメリット・デメリットについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 216～231、P. 47～49</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題を別途提示、物理療法についてのレポート</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第2回	<p>関節可動域訓練の治療原理</p> <p>【key words】 関節可動域訓練</p> <p>【授業概要】 拘縮と強直の違いや関節可動域訓練の治療原理について学ぶ。また、凹凸の法則についても学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 76～86</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 関節可動域について復習</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第3回	<p>関節可動域練習の実際、筋力増強訓練の治療原理</p> <p>【key words】 関節可動域訓練, 筋力増強訓練</p> <p>【授業概要】 ROMの治療原理を踏まえた上でのROMexについて実技を通して学ぶ。ひも巻き法などの浮腫への対応方法についても学ぶ。また、筋力状況訓練の治療原理について学ぶ。</p>	

第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P. 76～86</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ROMの実技は各自で練習すること、筋力増強練習について用語を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>筋力増強練習の治療原理とその実際（物理療法レポート事前提出）</p> <p>【key words】 筋力増強訓練，運動連鎖</p> <p>【授業概要】 筋力増強練習の治療原理について理解するとともに、実施上の注意点について知る。また、実践するための実技を身につける上での注意点などについても学ぶ。廃用症候群とその対応について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 87～98</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 等尺性、等張性、等速性、求心性、遠心性筋収縮と開放運動連鎖OKC、閉鎖運動連鎖CKCについても復習しておく。物理療法について予習しておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>物理療法について①（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）</p> <p>【key words】 物理療法</p> <p>【授業概要】 各物理療法の概要、適応、禁忌、実施上の注意点などについて、実際に機器を用いながら行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 136～149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前提示した課題レポート。機器の取り扱い上注意を十分に復習しておくこと。次回小テスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内小テスト180分）</p>
第6回	<p>物理療法について②（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）</p> <p>【key words】 物理療法</p> <p>【授業概要】 各物理療法の概要、適応、禁忌、実施上の注意点などについて、実際に機器を用いながら行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 136～149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前提示した課題レポート、機器の取り扱い上注意を十分に復習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>治療① 上腕骨折や下肢骨折者、THA後の介入の実際</p> <p>【key words】 骨折，THA，禁忌肢位</p> <p>【授業概要】 実践的なROMexが実施できるように、実技を通してROMex実施上の注意点や治療者の身体の使い方について学ぶ。また、上下肢の各ストレッチ方法についても実技を通して学ぶ。Total Hip Arthroplasty：THA後のリハやADL指導上重要な点について学ぶ、禁忌肢位への指導なども学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 216-231</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書をよく読んで授業に参加すること。次回P. 239-254, 298-308熱傷と関節リウマチについて予習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>治療② 熱傷や関節リウマチ</p> <p>【key words】 熱傷，関節リウマチ，関節保護</p> <p>【授業概要】 熱傷や関節リウマチのある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ実践的なROMexが実施できるように、熱傷や関節リウマチの特性を踏まえた実施方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 別途配布プリント等。P298～309、P239～254</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 376-404内部障害について予習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>治療③ 熱傷や関節リウマチ、SEL、多発性筋炎など</p> <p>【key words】 熱傷，関節リウマチ，SEL，多発性筋炎</p> <p>【授業概要】 熱傷や関節リウマチのある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ実践的なROMexが実施できるように、熱傷や関節リウマチの特性を踏まえた実施方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 別途配布プリント等。P298～309、P239～254</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 376-404内部障害について予習・復習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>

第10回	<p>治療④ 内部障害のある人へのアプローチ（呼吸器・循環器）</p> <p>【key words】 内部障害, 呼吸器疾患, 循環器疾患</p> <p>【授業概要】 内部障害のある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 376～404</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 内部障害について予習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第11回	<p>治療⑤ 内部障害のある人へのアプローチ（代謝異常とターミナル）</p> <p>【key words】 内部障害, 代謝異常, ターミナル</p> <p>【授業概要】 内部障害のある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 405-449</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 376～439腕神経損傷について予習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第12回	<p>末梢神経損傷に対する作業療法①</p> <p>【key words】 末梢神経損傷</p> <p>【授業概要】 腕神経叢損傷における分類、特徴について知るとともに、OTとしての評価や治療方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 261-278、123-130知覚再教育について予習すること。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回小テスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第13回	<p>末梢神経損傷に対する作業療法② 学習確認小テスト</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 腕神経叢損傷に対する作業療法について学ぶ。また、知覚再教育についても学ぶ。ここまでの学習状況について小テストを実施</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 261-278、123-130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 肩関節周囲炎や腰痛、OAについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内小テスト180分）</p>
第14回	<p>肩関節周囲炎、腰痛、変形性関節症</p> <p>【key words】 肩関節周囲炎, 腰痛, 変形性関節症</p> <p>【授業概要】 各疾患の特徴について復習するとともに、作業療法士としての評価や治療の流れについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリントと教科書P. 232-238</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 当該範囲を復習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第15回	<p>身体機能に対する作業療法を実践するための基本的手技などのまとめをする。</p> <p>【key words】 身体機能作業療法, OTの役割</p> <p>【授業概要】 座学と実技のまとめを行う。基本的な治療原理や治療者の立ち位置など、本授業内で学んだことを復習する別途指定したとおり本科目のまとめをしておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で配布された資料や授業範囲の教科書のページをよく確認しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。</p> <p>実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。</p> <p>授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる 情報	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。</p> <p>そのほかに、課題レポートと小テストがあるため、準備を進めること。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約</p>

評価方法	<p>■筆記試験（□論述 ■客観） 、■その他          評価配分：筆記試験60%、授業内演習課題・小テスト40%</p>
教科書	山口昇／玉垣努 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院 （第3版）
参考書	菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社 長崎重信 編 『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』 メジカルビュー社(第2版)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員          ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容          作業療法士経験 14年          作業療法士養成校教員経験 10年</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。 ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。 ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。 ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。 ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践およびケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。</p>
授業の概要	ICFに基づいた精神疾患における評価～目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/精神障害領域における作業療法評価 【key words】 OT評価、ICF、目標志向的アプローチ、目標設定 【授業概要】 ・精神科作業療法における評価および支援の流れと実際 ・退院支援に必要な基本的視点と考え方 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp.505-513 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
	第2回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 【key words】 参加制約、認知機能障害、ドパミン経路 【授業概要】 ・統合失調症の症状や障害特性、生活障害について ・統合失調症の評価のポイントについて 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp.515-518 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
	第3回	気分(感情)障害 【key words】 うつ病、躁病、扁桃体、ストレス 【授業概要】 ・気分障害の評価項目・方法および留意点の説明 ・気分(感情)障害患者に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp.518-520 【課題・予習・復習・授業準備指示】

第4回	<p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>精神作用物質使用による精神および行動の障害 【key words】 依存、耐性、共依存、身体機能評価、離脱症状 【授業概要】 ・依存症候群の特性と評価の一般的枠組み(アルコール依存を中心に) ・依存症患者に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp. 529-533 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 【key words】 防衛機制、不安障害、EPA系、主観性評価 【授業概要】 ・神経症性障害の分類について ・逃避・闘争反応、ホルモンの働きについて ・強迫性障害に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp. 520-522 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害 【key words】 認知、感情、対人関係機能、衝動制御 【授業概要】 ・パーソナリティ障害の種類と特徴 ・人格障害の問題領域と作業療法の目的、評価のポイント ・人格障害に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp. 534-538 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 【key words】 拒食、過食、失感情症、窃盗症 【授業概要】 ・生理的障害の内容、評価の一般的枠組み ・摂食障害患者に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 標準 評価学 pp. 525-527 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第8回	<p>てんかん 【key words】 意識障害、発作症状、てんかん者の精神症状 【授業概要】 ・てんかんの分類とその内容、評価の一般的枠組み ・てんかん患者に関する動画の視聴 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 各疾患の評価方法をよく復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>作業に焦点を当てた評価 【key words】 興味関心チェックリスト、COPM、CAOD、SOPI、OQ 【授業概要】 ・作業療法の役割と作業の評価 ・NPI興味関心チェックリスト、COPM、CAODをペア学習にて実施する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>得られた評価結果をレポート形式にてまとめておく。ペア学習のため極力欠席することがないようにする。 課題：自分自身の「参加」についてまとめる。(次回持参) 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>精神科領域における参加・活動の評価 【key words】</p>

	<p>社会参加、生活能力、LASMI、協会版ケアアセスメント</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の社会参加、参加制約状況について考える。</li> <li>・ペア学習にて精神障害者ケアアセスメントを実施する。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>得られた評価結果をレポート形式にてまとめておく。ペア学習のため極力欠席することがないようにする。</p> <p>課題：得られた評価結果をレポート形式にてまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p> <p>第11回 精神科領域における心身機能の評価：レポート提出</p> <p>【key words】</p> <p>精神機能チェックリスト、BPRS、RAS</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習にて、お互いの精神機能についてチェックリストに沿って評価を行う。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題：第9～11回で行った評価結果をレポート形式にてまとめる。</p> <p>ペア学習のため極力欠席することがないようにする。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p> <p>第12回 精神障害のOT評価（遠藤）</p> <p>【key words】</p> <p>アセスメント、ケアマネジメント</p> <p>【授業概要】</p> <p>OTとして対象をみる視点について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>全書精神障害 p. 161</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p> <p>第13回 精神障害のOT評価（野中式事例検討）（遠藤）</p> <p>【key words】</p> <p>事例検討、人と環境</p> <p>【授業概要】</p> <p>グループワークを通じてOTとしての評価・アセスメントの視点を共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>全書精神障害 p. 135</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p> <p>第14回 精神障害のOT評価、グループワーク（遠藤）</p> <p>【key words】</p> <p>全体像をまとめる、ケアマネジメント</p> <p>【授業概要】</p> <p>野中式事例検討を通じて、多角的な視点で対象者を捉える視点を身に付ける。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p> <p>第15回 学んだことの振り返り</p> <p>【key words】</p> <p>精神障害リハビリテーション、作業療法、疾患別評価、ケアマネジメント</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだことの総括・試験範囲の伝達</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>上記全ての範囲期末試験に向け、これまで講義で学んだ内容を総復習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分程度</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習復習をしっかりとる。</li> <li>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。</li> <li>・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義終盤で実施予定。</li> </ul> <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は欠席のないようにする。</li> <li>・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。</li> <li>・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。</li> </ul>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。</p>



オフィスアワー	月曜日16:00～17:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 70%（再試験あり） <input type="checkbox"/> レポート 30%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	①日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害，2010. ②岩崎テル子他（編）：作業療法評価学，第3版．医学書院，2017.
参考書	①吉川ひろみ（訳）：COPM，カナダ作業遂行測定．大学教育出版，2014. ②「臨床精神医学」編集委員会：精神科臨床評価マニュアル（2016年版）．アークメディア，2016.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ADLやIADLを改善・向上するために必要な評価と介入の知識を身につける。また、障害別の評価・介入の方法を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①作業療法におけるADLの治療理論について説明することができる。 ②基本動作・ADLの評価の視点を理解し、その介助方法、作業療法の介入ポイント・方法を説明することができる。 ③動作改善の代償方法としての自助具について理解し、対象者・使用目的を設定し、自助具を交換作成することができる。 ④作業療法士が自助具を作成する際の注意点について説明することができる。 ⑤各種福祉用具の名称・使用目的を説明することができる。 ⑥住宅改修にかかわる法律および福祉用具とのかかわりを説明できる。</p>
授業の概要	ADLやIADLを改善・向上するためには、運動機能と動作・活動の関わりに留意した評価が必要となり、その後機能の改善・回復または代償動作・手段の検討が必要となります。本講義では障害別の評価をもとに、対象者にとって必要な治療・介入について学びます。また、介入方法の1つとして考えられる自助具について、実際に製作することで適応や応用について学びます。

## ■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	
第1回	<p>科目オリエンテーション/ADLの評価と治療</p> <p>ADL評価から治療の流れを確認し、ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。 「作業療法の流れ、治療理論、活動・参加、オペラント行動」 P15～25, P48～56 課題：グループワークのつづきを完成させる</p>
第2回	<p>ADLの治療理論</p> <p>ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。具体的な動作・活動について、ICFの心身機能・身体構造、活動に分け、それに対する練習・訓練をグループで考えまとめる。 「オペラント行動、部分練習、基礎練習、EBOT」 P15～26, P48～56</p>
第3回	<p>国際生活機能分類 (ICF) を持参すること。</p> <p>障害別ADL：脳血管障害の基本動作 (寝返り・起き上がり) の介助方法と介入 通常の寝返り・起き上がり動作をグループで分析し、片麻痺を想定した動作と比較する。寝返る方向、麻痺の状態による工程、手順や気をつける点をグループでまとめる。 「支持基底面、体重支持面、重心、麻痺側管理」 P57～78 課題：グループワークのつづきを完成させる</p>
第4回	<p>障害別ADL：脳血管障害の基本動作 (起き上がり、立ち上がり) の介助方法と介入 片麻痺の起き上がり動作の工程・手順や気をつける点を学ぶ。また、ベッドからの立ち上がり動作をグループで分析し、片麻痺の対象者の評価・指導ポイント、介助方法を学ぶ。 「支持基底面、重心移動、手すり」 P57～78 復習：片麻痺患者さんの介助方法を練習する</p>
第5回	<p>障害別ADL：脳血管障害の基本動作 (移乗) の介助方法と介入 片麻痺を想定したベッド・車椅子間のtransferを軽介助と全介助をグループで体験し、動作分析する。 「transfer、重心指導、骨盤、支持基底面、手すり」 P57～78</p>

第6回	<p>復習：片麻痺患者さんの介助方法を練習する  準備：次回の授業で以下のものを使用します。各自で用意すること。  ○飲み物（ペットボトル、水筒）  ○スプーンで食べる物（ゼリー・ヨーグルト・カレー・炒飯等）  ○普段使用しているスプーン（コンビニ等で配布されるプラスチック製は×）</p> <p>食事動作の評価と介入  食事動作を分析し、動作に必要な身体・精神機能についてまとめる。上肢における道具の使用・操作、片麻痺・高齢者への配慮点についてまとめる。  「姿勢、上肢操作性、食形態、道具」  P83～120</p>
第7回	<p>準備：次回ジャージ（上）またはジャンパーのような上着を用意する</p> <p>更衣動作の評価と介入  更衣動作を分析し、動作に必要な身体・精神機能についてまとめる。また、片麻痺の対象者を中心に、上衣・下衣・装具の着脱について評価のポイント、配慮すべき点等を学ぶ。  「衣服の形状、素材、動作手順、麻痺側管理」  P121～138</p>
第8回	<p>排泄動作の評価と介入  車椅子でのトイレ動作を分析する。動作に必要な身体・精神機能、また配慮すべき点について学ぶ。  「支持基底面、手すり、羞恥、排尿・排便コントロール」  P139～157</p>
第9回	<p>障害別ADL：関節リウマチのADL  関節リウマチについて、関節保護の観点から、可能な動作、避けなければならない動作、ADLの介入・治療を学ぶ。  「RA、関節保護、エネルギー保存、変形」</p>
第10回	<p>課題：第11回までに自助具作成の企画書をグループごとに提出し、作成の許可を得ること。企画書には対象者の設定、材料、費用、作成方法を記す。その後、作成に必要な材料を購入すること。</p> <p>入浴動作の評価と介入  入浴動作の動作分析を行う。浴室で行われる洗体・洗髪、立ち座り動作、またぎ動作などについてグループでまとめる。また、浴室内で使用する福祉用具・自助具を学ぶ。  「浴槽の高さ、手すり、動作手順、清拭」  P158～170</p>
第11回	<p>課題：第11回までに自助具作成の企画書をグループごとに提出し、作成の許可を得ること。企画書には対象者の設定、材料、費用、作成方法を記す。その後、作成に必要な材料を購入すること。</p> <p>自助具①（自助具作製）  作業療法で制作・使用される代表的な自助具を説明し、対象者に合わせた自助具をグループで作成する。  「自助具、素材、衛生、安全」</p>
第12回	<p>課題：第13回までに自助具を完成させ、発表用ポスターを製作しておくこと。ポスターのひな形はデータにて渡します。</p> <p>福祉用具①（装具、補装具）  補装具の分類・種類、上肢装具を中心に学ぶ。また、福祉用具の種類や給付についても学ぶ。  「義肢、装具、スプリント、自助具、福祉用具」  P281～291</p>
第13回	<p>自助具②（ポスター発表、自助具のまとめ）  学会のポスター発表の形式で行い、学生間での評価を行う。</p>
第14回	<p>授業開始前に、合同教室の黒板・壁を使用し、ポスターを掲示し、その前に、自助具を展示すること。  「ポスター発表、質疑応答」</p> <p>福祉用具②（移動に関する福祉用具）  移動補助具である車椅子、杖、歩行器、歩行車の種類について学び、それぞれの特徴・対象について整理する。  「車椅子、杖、歩行器、歩行車」  P292～300  機能訓練室</p>
第15回	<p>住宅改修、職業関連活動、まとめ  環境を整備することはADL・IADL自立に向けて介入の1手段である。屋内や屋外における様々な段差等に目を向け、それらを改善する方法やそこにかかわる他職種について学ぶ。また、職業リハビリテーションの流れを説明し、OTおよび他職種のかかわり・評価について学ぶ。  「住宅改修、介護保険」  P301～343</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	「ひとと暮らしI」での内容をもとに進めるため、授業で使用した資料やノートを準備しておくこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	基本動作の分析では、グループでの動作分析を行うため、動きやすい服装で受講すること。自助具作製では事前に企画書を提出し、その後作製の準備を行う。発表までに自助具を完成させ、発表用のポスターを各グループで作成する。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	筆記80% 自助具20%
教科書	濱口豊太編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院, 2014.

	WHO：ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－. 中央法規, 2008.
参考書	伊藤利之, 江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際. 医歯薬出版, 2011. 千野直一他：脳卒中の機能評価－SIASとFIM〔基礎編〕. 金原出版, 2015.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の原理に基づく治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法の原理について説明できる。 ②治療としての「作業」の意味について説明できる。 ③作業療法における理論について説明できる。 ④作業療法理論に基づく、対象者理解・介入について理解する。</p>
授業の概要	<p>ひとは日常生活や学習、趣味、仕事の場において「作業」を行う。個人の考えや主張は動作を実現する手や全身を使って表現され、その人らしさが社会における自らの存在を証明する。「作業」は生きることそのものであり、作業療法士はその対象となるひとが自己の望む作業に取り組めるように治療・指導・援助する専門職である。従って作業療法士は①作業は人間にとって不可欠である②作業は内的・外的要請に応じて変化する③作業療法士は健康と幸福増進のために作業を治療の手段として使用できる、という原則に基づく対応しなければならない。本講義では</p>

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、作業療法理論、体系① 【key words】</p> <p>【授業概要】 作業療法的介入の原理、作業療法介入の形態、作業遂行の連続性概念と治療理論の関係、運動療法体系身体障害における介入原理、形態、作業療法の連続性概念について、概要を説明する。また、それぞれの理論に関して、ケースを通して検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p17-22 参考文献：鎌倉矩子 作業療法の世界第2版三輪書店2004、日本作業療法士協会監修「作業療法学全書第4巻 作業治療学1身体障害」協同医書出版2014年 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練①可動域制限の原因/治療理論 【key words】</p> <p>【授業概要】 関節可動域の制限要因の概要。及び可動域制限が日常生活に及ぼす影響を検討する。また、可動域訓練の原理原則を説明する。人の触り方について。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p22～33 参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練②治療実践</p>
------	--

	<p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 自動運動・他動運動・自己他動運動などの基本的な関節可動域訓練、及び構成運動や副運動の関節モビライゼーションの演習を行う。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書p22～33 参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第4回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練③治療実践</p> <p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 解剖学・運動学、及び神経生理学に基づくストレッチの演習、及びactivityを利用した関節可動域訓練を検討する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書p22～33 参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第5回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練①：筋力低下の原因</p> <p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 筋力低下の原因についてそのメカニズムを力学的、神経生理学的、解剖学的観点より説明する。また、脊髄損傷におけるザンコリー分類、上肢末梢神経損傷と筋力低下の関係について問題を解きながら理解を促す。教科書 p 34～38本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第6回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練②増強訓練理論</p> <p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 筋力増強訓練の原理原則などについて概要を説明し、負荷量の設定、実際の方法を演習する。また、MMTレベルに合わせた徒手的、及びアクティビティを使った訓練方法を検討する。教科書 p 34～38実習ができる服装で参加すること。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第7回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練③事例に基づく筋力増強訓練</p> <p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 筋力増強訓練の原理原則などについて概要を説明し、負荷量の設定、実際の方法を演習する。また、MMTレベルに合わせた徒手的、及びアクティビティを使った訓練方法を検討する。教科書 p 34～38実習ができる服装で参加すること。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第8回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練①知覚障害の原因</p> <p><b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b> 中枢性、抹消性などの疾患の違いによる知覚障害の見られ方を解剖学的見地から説明する。資料を配布する。本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第9回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練②治療理論</p> <p><b>【key words】</b></p>
--	---

	<p>【授業概要】  知覚再教育訓練の方法を説明し、体験する。資料を配布する。本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。  実習ができる服装で参加すること。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 協調性訓練  【key words】</p> <p>【授業概要】  協調性障害の原因について説明し、協調性障害に対する基本的訓練を体験する。教科書p38～43本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。  実習ができる服装で参加すること。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 基本原則  【key words】</p> <p>【授業概要】  発達の神経学的視点から導き出された理論について、ボバースにより提唱された神経発達理論について学ぶ。Stage毎のアプローチについて検討する。教科書p43～47実習ができる服装で参加すること。  Stage ないし エガースの回復状況に合わせて訓練方法を検討する。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 環境適応的アプローチ①  【key words】</p> <p>【授業概要】  環境適応の概要について説明し、環境適応に基づく演習をこなう。教科書p48～49実習ができる服装で参加すること。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 環境適応的アプローチ②  【key words】</p> <p>【授業概要】  環境適応理論に基づき、アクティビティの特徴・難しい点などを検討し、その改善方法を提案する。教科書p48～49作業療法における治療理論4 [感覚統合理論]  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論3 [認知運動療法]  【key words】</p> <p>【授業概要】  認知運動療法に関する基本的理論について概要を説明する。資料を配布する。  参考書  中里瑠美子 片麻痺の人のためのリハビリガイド 感じることで動きが生まれる 2017  中里瑠美子 片麻痺の作業療法 QOLの新しい次元へ 2015基本的理論を理解するために、配布資料を中心に確認し、必要に応じて参考書などに目を通し復習しておくこと。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  作業療法における治療理論4 [感覚統合理論]  【key words】</p> <p>【授業概要】  エアーズにより提唱された感覚統合理論を紹介し、評価治療への応用について学ぶ。資料を配布する。実習ができる服装で参加すること。  【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
--	---

受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。</li> <li>・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。</li> <li>・シラバスを確認し授業に臨むこと。</li> <li>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	実技試験、レポート、発表など授業外に準備する必要がある。その為、計画的に準備を進めること。
オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	筆記40%、レポート20%、発表20%、実技試験20%
教科書	長崎重信 編 身体障害作業療法学 改訂第2版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト） メジカルビュー社 2015
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害」 協同医書出版 2014年</li> <li>・大嶋伸雄 編 「身体障害領域の作業療法」 中央法規 2012年</li> <li>・古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年</li> <li>・古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年</li> <li>・中里瑠美子 片麻痺の人のためのリハビリガイド 感じることで動きが生まれる 2017</li> <li>・中里瑠美子 片麻痺の作業療法 QOLの新しい次元へ 2015</li> <li>・鎌倉矩子 作業療法の世界 第2版 三輪書店2004</li> </ul>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法に関わる介護保険制度、介護保険サービスについて理解し、地域で生活する対象者の取り巻く環境、その中で行われている作業療法士の仕事、作業療法の可能性を理解する。</p> <p>[達成目標] ①介護保険制度の概要を説明することができる。 ②介護保険制度のサービス内容を説明することができる。 ③地域リハビリテーションの現状を説明することができる。</p>		
授業の概要	高齢者に対する地域リハビリテーション、地域作業療法にかかわる制度や支援、他職種との連携について学び、対象者を取り巻く環境や生活上の不便、援助することについて考えていきます。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、介護保険導入の背景、保険者・被保険者について</p> <p>【key words】 措置制度、保険者、被保険者</p> <p>【授業概要】 介護保険が導入される背景を説明し、従来の福祉、老人医療の問題点から介護保険の目的を学ぶ。また、介護保険法における保険者とその役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スマホまたはタブレットを用意してください。 【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>介護保険の財源構成について</p> <p>【key words】 住所地主義、保険料、財源構成、調整交付金</p> <p>【授業概要】 介護保険の被保険者を説明し、それぞれの保険料、その徴収、財源構成等を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第3回	<p>介護認定について</p> <p>【key words】 認定調査、1次判定、介護認定</p> <p>【授業概要】 介護保険サービス利用にあたり必要な介護認定について、申請から判定結果が出るまでの流れを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回小テストを行います。 【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第4回	<p>小テスト、介護保険サービスについて</p> <p>【key words】 予防給付、介護給付、保健福祉事業</p> <p>【授業概要】 小テストを行います。</p>	

	<p>介護認定後のサービス利用について学ぶ。また、居宅・施設・地域密着型等の各種サービスについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：次回までにグループで担当の介護保険サービスについて調べ学習を行い、資料を作成し提出する。詳細は授業内で説明します。 【予習復習に必要な想定時間】 介護保険サービス①訪問・通所系サービス 【key words】 通所介護、通所リハ、訪問介護、訪問リハ、訪問看護</p> <p>【授業概要】 訪問・通所系サービスについて、グループで作成した資料をもとにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（発表用レジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表時の質問で答えられなかったものを、次回までに説明用の資料を作成し、提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 介護保険サービス（グループ発表）②施設系サービス 【key words】 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域密着型</p> <p>【授業概要】 施設系サービスについて、グループで作成した資料をもとにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（発表用レジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表時の質問で答えられなかったものを、次回までに説明用の資料を作成し、提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 地域リハビリテーションの実際①居宅サービス事業の作業療法 【key words】 地域包括ケア、訪問リハ、通所リハ、活動・参加</p> <p>【授業概要】 在宅介護支援センターにおける作業療法、地域リハビリテーションについて、外部講師を招きご講義いただく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回小テストを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 小テスト、介護予防、まとめ 【key words】 介護予防事業、地域包括ケアシステム 【授業概要】 介護保険サービスについて的小テストを行う。 介護予防事業について説明し、地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を考える。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
受講生に関わる情報および受講のルール	グループでの調べ課題があるため、提出期限を厳守すること。また、わかりやすい資料作りを心がけ、質問に答えられるように準備すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループでの調べ学習については、内容・形式は授業内で提示する。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	小テスト20% 筆記試験80%
教科書	授業内に適宜紹介する
参考書	授業内に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li><li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	--

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
高坂駿			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設を見学し、地域との関わりにおける専門職の役割、業務内容などを学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①病院や施設を利用している患者様や職員とコミュニケーションを取ることができる。 ②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。 ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。 ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。</p>
授業の概要	精神科病院・クリニックへの見学実習を行う。主に精神科病院のリハビリテーション部門、デイケアを見学させていただく。見学後は各々の視点から興味・関心の高かった事柄に対し考察し、レポートにまとめる。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	第1回	<p>事前オリエンテーション①</p> <p>【key words】 基本的態度、個人情報保護、リスク管理</p> <p>【授業概要】 ・実習の参加にあたり、実習の流れ、実習生の基本的態度、個人情報の扱い、その他注意事項について説明。 ・精神医学・精神機能OT学で行った知識に関して事前課題を行う。 ・見学実習に関わる各種書類を記入する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。実習前に必要な文献等を探しておく。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要なオリエンテーションのため、特別な事情のない限り欠席をしないようにする。 見学実習参加前に事前課題を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
	第2回	<p>事前オリエンテーション②</p> <p>【key words】 基本的態度、個人情報保護、リスク管理</p> <p>【授業概要】 ・実習の参加にあたり、実習の流れ、実習生の基本的態度、個人情報の扱い、その他注意事項について説明。 ・精神医学・精神機能OT学で行った知識に関して事前課題を行う。 ・見学実習に関わる各種書類を記入する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。実習前に必要な文献等を探しておく。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要なオリエンテーションのため、特別な事情のない限り欠席をしないようにする。 見学実習参加前に事前課題を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
	第3回	<p>病院・施設見学(1日目)</p> <p>【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第4回	<p>病院・施設見学（1日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第5回	<p>病院・施設見学（1日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第6回	<p>病院・施設見学（1日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第7回	<p>病院・施設見学（2日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第8回	<p>病院・施設見学（2日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第9回	<p>病院・施設見学（2日目） 【key words】 精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援 【授業概要】 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第10回	<p>教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p> <p>病院・施設見学（2日目）  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  見学させていただき精神科病院の各部署において見学実習を行う。  実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第11回	<p>教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p> <p>病院・施設見学（3日目）  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  見学させていただき精神科病院の各部署において見学実習を行う。  実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第12回	<p>教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p> <p>病院・施設見学（3日目）  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  見学させていただき精神科病院の各部署において見学実習を行う。  実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第13回	<p>教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p> <p>病院・施設見学（3日目）  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  見学させていただき精神科病院の各部署において見学実習を行う。  実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第14回	<p>教科書の指定なし。随時必要な文献等を探す。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  当日中にデイリーノートの作成、文献収集、調べもの、教わったことのまとめを行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p> <p>病院・施設見学（3日目）  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  見学させていただき精神科病院の各部署において見学実習を行う。  実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第15回	<p>教科書の指定なし。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  必要に応じて先行研究を収集し、報告書を作成すること。</p> <p>学んだことの振り返り：レポート提出  <b>【key words】</b>  精神科病院、精神科DC、認知症疾患治療病棟、作業療法、地域生活支援  <b>【授業概要】</b>  ・各病院、部署、施設で学んだことを振り返る。  ・各書類（出欠表、実習経験表、名札、成績表、目標シート）を提出する。  ・期限までに、個人レポートの作成をし、提出する。また、修正の必要のある者は、修正後に再提出をする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>

	<b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 60分程度
受講生に関わる情報 および受講のルール	実習中は動きやすい服装と上履きを用意する(実習先の指定により変更する場合もある)。 実習前・実習中は各自、体調管理をしっかり行い、欠席のないようする。 ご協力いただいている患者様や病院・施設のスタッフに失礼がないよう、一人ひとりが服装・態度などに十分注意を払うこと。 個人情報保護や鍵の管理などリスク管理に十分に配慮すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	その他
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、質 問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	木曜日16:30～17:30。質問等に関しては随時受ける。
評価方法	<input type="checkbox"/> 事前課題 20% <input type="checkbox"/> 実習成績 20% <input type="checkbox"/> レポート・レジュメ 30%(期限内に提出されない場合は総合評価の対象とならない。) <input type="checkbox"/> デイリーノート 30%(期限内に提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
教科書	なし。
参考書	精神医学・精神機能作業療法学・心理学等で扱った教科書を参考とすること。また、不足があれば自 身で購入すること。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> 具体的な実務経験の内容 作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。 アクティブラーニング要素 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> 情報リテラシー教育 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法 等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内発表において理解を深めることを目的とします。また、実習を通して自己のコミュニケーションに対して考えることを目的とします。</p> <p>[到達目標] ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。 ②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明することができる。 ③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。 ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。</p>		
授業の概要	<p>作業療法士が勤務している介護老人保健施設において、3日間の見学実習を行います。見学、体験を通して介護老人保健施設を理解し、そこを利用する方や作業療法を受けている対象者について学び、介護老人保健施設の作業療法について理解します。また、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内にて発表を行います。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			△
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、実習オリエンテーション、リスク管理、守秘義務</p> <p>【key words】 リスク管理、感染症予防、守秘義務</p> <p>【授業概要】 守秘義務、リスク管理、感染症予防、介護老人保健施設見学にあたり、実習の手引きに基づき事前指導を行います。作業療法学生として大切な守秘義務、リスク管理等について説明します。また、実習関連書類の提出手続きを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：実習の手引き、印鑑（シャチハタでないもの）を用意する。 実習施設を事前に確認し、交通手段を決定しておくこと。必要な物は自家用車届に必要な書類のコピーを用意。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 実習ノートを毎日実習先に提出する。最終日の実習ノートは大学に提出。 実習終了後速やかに、評価表、出欠席表、実習経験表、実習ノートを提出すること。 実習レポート・発表用レジュメは実習終了後作成し、指定の期日までに提出する。 お礼状は担当教員のチェック後、投函すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>		



第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第6回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第7回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
第11回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 実習のまとめ、発表 【key words】 施設での実習のまとめを各自発表する。 「介護老人保健施設、作業療法の流れ、要介護者、要支援者」 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 実習のまとめ、発表 【key words】 施設での実習のまとめを各自発表する。 「介護老人保健施設、作業療法の流れ、要介護者、要支援者、高齢者」 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	第1回科目オリエンテーションへ参加しないもの、実習前の提出物に不備があったものは実習参加はできない。 実習中は各施設指定の服装で参加する。 交通手段については決定次第、各自手続きをとること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	実習施設の情報収集、交通手段等、実習開始前に必要なこと、また実習中の時間外学習については、 第1回科目オリエンテーションにて説明します。
オフィスアワー	月曜日16:10～17:30 ただし実習中は随時対応します。
評価方法	実習への参加が評価の前提となる。 実習先評価10%、実習ノート20%、レポート40%、学内での発表30%
教科書	特に指定しない
参考書	地域作業療法入門、身体機能作業療法学、作業療法評価学の教科書及び資料等を参考とする。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>■情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法)</p>

	<p>等)</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/> その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
宮寺亮輔 (山口智晴・悴田敦子・牛込祐樹)			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・論文を読むことができるようになる。 ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。 ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。</p>
授業の概要	A～Dの4班に分かれ、各教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 【key words】 文献検索, 文献データベース 【授業概要】 オリエンテーション今後の授業の進め方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P. 34-74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料第3回までに論文を探しておく。原則的に文献は英語または日本語のいずれかによる原著論文とする(場合によっては総説論文でも認める)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第2回 文献検索の方法について、学術論文の分類について 【key words】 量的研究, 質的研究, 混合法, 文献研究 【授業概要】 文献検索の基本的な方法やマナー、論文の分類について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P. 34-74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第3回 文献の抄読について 【key words】 批判的文献レビュー 【授業概要】 文献抄読の基本について学ぶ。批判的に読むことの重要性を実際の論文抄読を通して体験し、新たな研究の発想につなげることの重要性を学ぶとともにその楽しさを実感する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P. 34-74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料各自発表準備 【予習復習に必要な想定時間】</p>

第4回	<p>予習90分／復習90分          目標の確認1 (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各担当教員と共に、学習目標を確認する。各自で見つけた興味のある文献を担当教員と班員に配布し、読み深める。各教員の指示に従い、プレゼンテーションの準備をする。各自の持ち時間は一人45分であり、構成をよく考えておくこと。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をする。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第5回	<p>ワーク1-① (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第6回	<p>ワーク1-② (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第7回	<p>ワーク1-③ (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第8回	<p>ワーク1-④ (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第9回	<p>目標の確認2 (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション  <b>【授業概要】</b>          各担当教員と共に、学習目標を確認する。各自で見つけた興味のある文献を担当教員と班員に配布し、読み深める。各教員の指示に従い、プレゼンテーションの準備をする。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          各自資料準備 (文献)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各自の持ち時間は一人45分であり、構成をよく考えておくこと。各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をする。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分 (発表者は+120分)</p>
第10回	<p>ワーク2-① (悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班)  <b>【key words】</b>          批判的文献レビュー, 文献要約, ディスカッション</p>

	<p><b>【授業概要】</b> 各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分（発表者は+120分） ワーク2-②（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班）</p> <p><b>【key words】</b> 批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション</p> <p><b>【授業概要】</b> 各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分（発表者は+120分） ワーク2-③（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班）</p> <p><b>【key words】</b> 批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション</p> <p><b>【授業概要】</b> 各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分（発表者は+120分） ワーク2-④（悴田A班／牛込B班／宮寺C班／山口D班）</p> <p><b>【key words】</b> 批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション</p> <p><b>【授業概要】</b> 各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分（発表者は+120分） 発表</p> <p><b>【key words】</b> 批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション，プレゼンテーション</p> <p><b>【授業概要】</b> これまでに学んだことについてまとめ、各自が次年度に行いたい卒業研究に向けて得られたことをどの様に活かしたいと考えているかについてプレゼンする。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 学生作成資料各自で発表の準備をすること <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分（発表者は+120分） 科目のまとめ</p> <p><b>【key words】</b> 批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション，プレゼンテーション</p> <p><b>【授業概要】</b> 発表内容を記録し、まとめる。研究計画を実施するにあたって必要な文献検索の方法について、説明できるようにする。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 各自資料準備（文献） <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 本科目で学んだことをまとめるこれまでまとめた学習成果を提出する <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p><b>【受講生に関わる情報】</b> 教室指定をするので確認しておくこと。資料を整理するためのA4クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。</p> <p><b>【受講のルール】</b> 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。
オフィスアワー	火曜日9時～12時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	各ワークへの取り組み50% 発表30% ポートフォリオの作成20%
教科書	竹田徳則，大浦智子(編)：作業療法研究法，医歯薬出版株式会社，2017.
参考書	鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店 第1版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士経験 14年 作業療法士養成校教員経験 10年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>■その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p> <p>文献データベースを活用</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。また、医学領域の研究論文を読解する際に必要となる統計学の基本事項について、理解することができる。</p> <p>〔到達目標〕 ①研究の種類（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。 ②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。 ③研究論文で用いられる基本的な統計手法について理解することができる。</p>		
授業の概要	<p>作業療法士にとって根拠に基づく実践は非常に重要な事項であり、根拠に基づく実践には作業療法の臨床に基づく研究が重要である。また、研究を行うことは作業療法における学問体系の確立にも非常に重要なことである。</p> <p>日々の臨床実践の成果を、多職種にとどまらず、作業療法対象者や社会一般に向けて発信していくために、自己研鑽としての研究について学び、取り組んでいくための基本的知識を身につけねばならない。</p> <p>本科目では、作業療法における研究の基本について学ぶ。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション。作業療法における研究とは。研究倫理について。</p> <p>【key words】 オリエンテーション、研究倫理</p> <p>【授業概要】 研究の目的、研究倫理、不正行為、利益相反、インフォームド・コンセント研究を始めるにあたっての基本的な知識、研究の目的、作業療法と研究について、理解する。 また、研究を実施するうえで重要となる研究倫理について、その基本的な事項を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P.10～P.17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>研究の種類、対象者とアウトカム、研究計画</p> <p>【key words】 研究計画、アウトカム</p> <p>【授業概要】 研究疑問に応じた研究の種類を理解するとともに、研究対象者の選定方法について学ぶ。アウトカム指標の種類と選択についても学ぶ。 また、研究計画の立案と計画書について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P.18～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第3回	<p>研究の種類とデザイン①量的研究、調査票の設計、質的研究</p> <p>【key words】 質的研究、量的研究、</p> <p>【授業概要】 観察研究と介入研究を例に量的研究について学ぶとともに、調査票を用いた研究と質的研究について実例を通して学び、各研究デザインのメリットデメリットについて理解する。</p>	



	<p>【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 34～54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第4回 研究の種類とデザイン②混合法、事例研究、文献研究 【key words】 事例研究、文献研究、システマティックレビュー 【授業概要】 事例研究における様々なスタイルのデザインを事例を通して学ぶ。また、尺度開発における信頼性と妥当性の概念について学ぶ。 また、文献研究のなかでも、システマティックレビューとメタアナリシスについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 55～75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第5回 統計解析の基本① 【key words】 帰無仮説、有意水準、p値、パラメトリック、ノンパラメトリック、尺度、t検定、<math>\chi^2</math>二乗検定、分散分析 【授業概要】 統計的仮説検定の基本について学ぶとともに、二群間の比較と分散分析について学ぶ。 担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。 【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 76～88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第6回 統計解析の基本② 【key words】 相関分析、共分散、重回帰分析 【授業概要】 相関分析の基本について学ぶとともに、重回帰分析の基本を学ぶ。 また、それらの統計手法を用いた実際の論文を読むことで、統計手法の意味を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 89～98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第7回 統計解析の基本③ 【key words】 ロジスティクス回帰分析、因子分析について 【授業概要】 疫学分野で用いられることが多い統計手法について理解するとともに、因子分析の考え方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 99～112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 担当学生は各自がまとめた内容を報告して共有する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第8回 学会発表、論文執筆について、まとめ、小テスト 【key words】 小テスト 【授業概要】 学会発表のための基本的な手続きや抄録作成について学ぶ。 また、論文執筆の基本事項についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 指定教科書P. 122～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	作業療法学生としてふさわしい受講態度で臨むこと。 主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	グループごとの発表もあるため、メンバーと協力して準備すること。
オフィスアワー	水曜日16:30～17:30（その他、必要があれば受け付ける。但し、事前に確認をとること）
評価方法	■期末レポート50%、■授業内小テスト20%、■授業内発表課題30%

教科書	竹田徳則, 大浦智子(編) : 作業療法研究法, 医歯薬出版株式会社, 2017.
参考書	鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 認知機能障害のある人に対する作業療法評価の様々な手法について、概要を学ぶとともに実際に評価方法を体験しながら実施方法を学び、評価の基本的な実施方法を習得する。</p> <p>〔到達目標〕 ①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。 ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。 ③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。</p>
授業の概要	高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 【key words】 オリエンテーション、高次脳機能障害、定義 【授業概要】 高次脳機能、行政定義、高次脳機能障害の概要について、知識の習得状況を確認し学ぶべき課題を抽出する。高次脳機能障害の定義について、行政的定義や医学的定義の違いなどを理解する。高次脳機能障害を引き起こす原因疾患などについて、復習をする。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリントの通り、ポートフォリオ作成（高次脳の学術的定義と行政的定義） 今回は、注意機能の評価に関する文献を一つ集めて内容を理解しファイリングして持参。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 attention に対する評価 【key words】 注意 【授業概要】 注意機能障害の分類について学ぶとともに、注意障害の評価について実技を通して学ぶ。また、意識やorientationについても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法学全書、作業治療学5、高次脳機能障害第3版 P. 20～22、P. 100～112、P. 176～190 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の指定か所について事前に目を通し、今回は、USNの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 Unilateral Spacial Neglectのアセスメント 【key words】 USN 【授業概要】 USNについての一般的知識を確認するとともに、USNに対する評価、また、行動から観察する際のPointも学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

	<p>教科書①P. 20～22、P. 100～112  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  USNについて復習するとともに、次回はAgnosiaの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p> <p>第4回 Agnosiaに対するアセスメント  <b>【key words】</b>  視覚性失認、バリント症候群、標準高次視知覚検査  <b>【授業概要】</b>  失認、特に視覚性失認の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義の中では、実際にV P T Aを実践する中で、視覚性認知について学ぶ。また、色彩や相貌の認知、パレイドリアなどにも触れ、レビー小体型認知症など視覚性認知と関連する疾患についても併せて理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P. 16～18  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  Agnosiaについて復習するとともに、次回はAphasiaの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
	<p>第5回 Aphasiaに対するアセスメント  <b>【key words】</b>  失語症、SLTA、WAB  <b>【授業概要】</b>  Aphasiaの分類と各症状の概要について学ぶとともに、実際にS L T Aを用いて言語評価について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P. 198～P. 211  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  Aphasiaについて復習するとともに、次回はAplaxia、Gerstmann Syndromeの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
	<p>第6回 Aplaxia, Gerstmann syndromeに対するアセスメント  <b>【key words】</b>  失行症、ゲルストマン症候群  <b>【授業概要】</b>  失行症などの行為の障害についてその概要を復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義では、S P T Aを実際に行うことで、行為の障害の分類について理解を深める。また、ゲルストマン症候群、構成失行、着衣失行についても復習し、頭頂葉の働きについて理解を深め、文献から最新のリハビリテーションについても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P11～15、P. 138～163  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  行為の障害について復習するとともに、次回はMemoryの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
	<p>第7回 Memoryに対するアセスメント  <b>【key words】</b>  記憶障害、RBMT、WAIS-III・IV、  <b>【授業概要】</b>  記憶障害の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。また、記憶障害に対する文献から、最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。また、R B M T や W M S - III を実際に実施することで、記憶の分類やそのリハについて理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P. 23～25、P. 190～198  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  記憶障害について復習するとともに、次回はexecutive functionの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
	<p>第8回 executive functionに対するアセスメント  <b>【key words】</b>  遂行機能障害、BASDS  <b>【授業概要】</b>  高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P. 27～31、P. 121、212～217  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  遂行機能障害について復習するとともに、次回はSocial Behavior Disordersまたはsocial cognitionの評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
	<p>第9回 Social Behavior Disorders / Anosognosia に対するアセスメント  <b>【key words】</b>  social cognition  <b>【授業概要】</b>  高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などにつ</p>

	<p>いて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P. 27～31、P. 121212～217指定範囲と配布プリントについて復習してから受講すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  社会的認知に関する内容を復習するとともに、次回は知能の評価に関する文献を1つ以上集めて内容を理解しファイリングして持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第10回	<p>Wechsler Adult Inteliigence Scale  <b>【key words】</b>  WAIS、知能  <b>【授業概要】</b>  WAIS-III・IVをはじめとした全般的認知機能を評価する指標を実践し、そこから全般的認知機能についての理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント配布プリントの復習  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  学んだことの復習でポートフォリオ作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第11回	<p>認知症の様々な評価指標  <b>【key words】</b>  HDS-R、MMSE、MOSES、CDR、MoCA (Montreal Cognitive Assessment)、NPI  <b>【授業概要】</b>  認知症について観察からの評価、面接での認知症検査などについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布プリントの復習、  次回までに、アルツハイマー型認知症の特徴についてまとめ、ファイリングして持参する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  120分</p>
第12回	<p>Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴  <b>【key words】</b>  アルツハイマー型認知症、FAST  <b>【授業概要】</b>  アルツハイマー病の特徴とその評価について理解を深める。アルツハイマー病患者の生活機能障害の特徴についても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  指定範囲の復習、  次回までに、DLB、VD、FTLD、iNPHの各疾患の特徴についてまとめ、ファイリングして持参する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第13回	<p>各認知症疾患における特異的な評価  <b>【key words】</b>  DLB、VD、FTD、iNPH  <b>【授業概要】</b>  アルツハイマー病以外の進行性神経疾患による認知症や、正常圧水頭症、脳血管性認知症などの特徴を知り、その評価手法を実際のケースを基に理解する。事例のMRIから、各認知症疾患のMRI画像の特徴も理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  指定範囲の復習、ポートフォリオ作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第14回	<p>認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメント  <b>【key words】</b>  DASC-21、生活障害  <b>【授業概要】</b>  認知症の人を地域で支える仕組みや、その中でOTとして必要となる評価技能について実践的な事例を通して学んでいく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する指定範囲の復習、  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオを完成させ提出する準備を進める  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第15回	<p>本科目のまとめ  <b>【key words】</b>  まとめ  <b>【授業概要】</b>  認知機能低下による生活障害について学ぶとともに、就労支援についても学ぶ。そこで必要となる質的なアセスメントについて学ぶ。その後まとめを行う。また、認知機能障害がある人の実生活上の問題点とここまで学んだ各アセスメント結果とを結びつけて考えられるように、検査結</p>

	<p>果の解釈についてまとめる。また、検査にこだわらずに観察から認知機能障害についてアセスメントするための視点について、再度確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオを提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。</p> <p>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは認められた場合以外は操作しない。</p> <p>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各科目において予習を前提としている。ポートフォリオは各単元の予習と復習を含む。
オフィスアワー	水曜日16:00～17:30（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談）
評価方法	授業内課題・googleフォーム小テスト等50%、各講義の予習と復習のまとめファイルの期末提出50%
教科書	日本作業療法士協会監修/刈雅子編集：作業療法学全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版 小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版
参考書	鈴木孝治(編)：高次脳機能障害領域の作業療法～プログラム立案のポイント～、中央法規
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
北爪浩美・菊池智広・古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることが出来るようになる事を目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。 ②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。 ③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。 ④</p>
授業の概要	発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、発達過程における作業療法の理念と役割 生活障害、評価、運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能人間の一生における発達過程と各発達段階での「作業」の役割と意義の理解、それぞれの過程で生じる疾患の障害の成り立ちや回復過程の基本知識、作業療法に必要な評価、治療、援助について講義する。教科書：pp1-36発達スクリーニング検査について調べる。</p> <p>第2回 発達過程作業療法における評価と治療の実践課程 発達過程における作業療法の実践課程として、評価、作業療法計画、実施方法、効果判定、フォローアップの流れについて講義する。教科書：pp27-48 参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第3回 発達過程の基礎知識と治療への応用 運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能の発達の関連性について講義する。また、社会参加としての集団活動、就学と作業療法との関わりについて考察する。教科書：pp49-68 参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第4回 発達の評価・検査バッテリー 運動発達の評価として作業療法場面で用いる評価について、概要と実施方法を学ぶ。(運動発達、姿勢、筋緊張、反射・反応、運動年齢検査、エアハルト発達学的把持能力評価参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第5回 作業療法評価に必要な運動発達の視点 (0~12か月) 運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業(遊び)について提案する。参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第6回 作業療法評価に必要な運動発達の視点 (1歳~6歳) 運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業(遊び)について提案する。参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。</p>
------	--

第7回	2009 ②感覚統合Q&A：土田玲子監修，協同医書出版，2013 感覚統合理論と認知機能の発達 感覚統合機能についての概要と評価、解釈。検査バッテリーを使用し体験する。参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修，協同医書出版，2009
第8回	2009 ②感覚統合Q&A：土田玲子監修，協同医書出版，2013 対応行動の発達と注意機能① 模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67
第9回	対応行動の発達と注意機能② 模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67
第10回	学習と社会性の発達と評価 いわゆる発達障害、知的発達障害の学習と社会性の発達との関連を例に、子どもの学習、社会性の発達について考察する。教科書pp129-19①
第11回	地域における発達支援と特別支援教育① 発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211
第12回	地域における発達支援と特別支援教育② 発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211
第13回	疾患別作業療法の実践①脳性麻痺 作業療法の対象疾患として最も多い脳性麻痺について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp91-105
第14回	疾患別作業療法の実践②神経筋疾患 作業療法の対象疾患としてみられる神経筋疾患について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp118-124
第15回	疾患別作業療法の実践③発達障害 作業療法の対象疾患として近年非常に多くなっている発達障害について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp129-159
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。 ・シラバスを確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験100%
教科書	日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害。協同医書出版社，2010 日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 3. 作業療法評価学。協同医書出版社，2009
参考書	シラバス参照のこと。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容  アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない  情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない  ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他  その他の具体的内容



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
北爪浩美・勝野恵・山口敦子・六本木温子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 発達過程における作業療法の対象疾患とその症状、作業療法の目的と方法について理解し、実施する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。 ②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について説明できる。 ③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。</p>		
授業の概要	近年、特別支援教育については、教育あるいは医療、福祉領域において、その取り組みがめざましく発展し、対象児の可能性を広げるために取り組んでいる。本講義では乳児期から青年期を対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○		
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○		
授業計画	第1回	発達障害領域での作業療法の理念と役割 発達過程作業療法、ICF、脳性麻痺、ADS, LD、ADHD近年における発達障害領域における対象児の変化について 「発達障害」の捉え方について教科書：p 1-10、 91～	
	第2回	発達過程作業療法における障害の概要①肢体不自由 ビデオによる障害像の把握、 胎児期の発達と身体図式、障害との関わり教科書pp91-129	
	第3回	発達過程作業療法における障害の概要②肢体不自由 作業療法治療の考え方 乳児期～幼児期の運動発達の把握と作業療法教科書pp91-129	
	第4回	発達過程作業療法における障害の概要③発達障害 近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。 教科書pp129-160	
	第5回	発達過程作業療法における障害の概要④発達障害 近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。 教科書pp129-160	
	第6回	地域における発達支援 発達過程作業療法の対象となる子どもの地域での生活について、特別支援教育体制や療育体制などの支援を含めて講義し、作業療法士の視点、関わり方のスタンスを考察する。特に、群馬県の現状について深く理解する。教科書197-211	
	第7回	発達過程作業療法の実際①小児病院での作業療法 小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。 国家試験発達期治療学の問題についての考察	
	第8回	発達過程作業療法の実際②小児病院での作業療法 小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。 国家試験発達期治療学の問題についての考察	
	第9回	発達過程作業療法の実際③在宅での作業療法 在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士をお呼びし、講義して頂く。教科書：p 91-106	

	<p>第10回 発達過程作業療法の実際④在宅での作業療法 在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士をお呼びし、講義して頂く。</p> <p>第11回 発達過程作業療法の実際⑤地域クリニックでの作業療法 地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。</p> <p>第12回 発達過程作業療法の実際⑥地域クリニックでの作業療法 地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。</p> <p>第13回 発達過程作業療法の実際⑦地域での作業療法 群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。</p> <p>第14回 発達過程作業療法の実際⑧地域での作業療法 群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。</p> <p>第15回 発達過程作業療法の課題 今後の発達過程領域における作業療法の課題について、現状を踏まえた上で考察し、現実的な作業療法士の関わり方について考察する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布する資料の予備は保管しません。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。</li> <li>・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能
評価方法	レポート100%
教科書	日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010
参考書	シラバスを参照すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴・悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 加齢とともに起こる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。 ②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。 ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。 ④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。 ⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。 ⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。</p>		
授業の概要	高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、わが国における高齢社会について考える</p> <p>【key words】 高齢者、高齢化率、介護保険</p> <p>【授業概要】 高齢者、高齢化率、高齢者福祉高齢者の定義などについて確認すると共に、わが国における社会構造の変化と施策の変遷について学ぶ。 ・第5回までに、高齢者の生活についてのインタビュープリントを準備する(祖父母の生活について)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P. 8～16</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・次回までに高齢者に関する社会制度(P. 29～32)について、担当か所を調べて発表の準備をする。 ・次回までにP. 33～38の「高齢期の作業療法」について読んでおく(予習)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>	
	第2回	<p>社会制度と高齢期の作業療法</p> <p>【key words】 社会保障制度</p> <p>【授業概要】 各担当で調べた社会制度について発表を聞いて理解を深めると共に、わが国の高齢者福祉施策の変遷について更なる理解を深める(P. 29～32)。 また、高齢期の作業療法(P. 33～38)について理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 上記指定頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・次回、高齢期の一般的特徴(P. 39～50)を予習(教科書を見ておく) ・次回、第1～2回の範囲で小テスト</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>	
	第3回	<p>高齢期の一般的特徴</p> <p>【key words】</p>	

	<p>小テスト、加齢、老化</p> <p>【授業概要】</p> <p>第1回小テスト</p> <p>加齢による心身の様々な変化につながる生理的、身体的変化と特徴的な疾患などについて学ぶ。運動器系は、転倒リスクとからめて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>P. 39～50</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回、第3回内容について小テスト</li> </ul> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>120分</p>
第4回	<p>高齢期に多い疾患について</p> <p>【key words】</p> <p>小テスト、COPD、糖尿病、転倒</p> <p>【授業概要】</p> <p>第2回小テスト</p> <p>呼吸器疾患、内分泌系、神経系の変化、特徴、症候、疾患について学ぶ。運動器系は、転倒リスクとからめて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7～9回の認知症に関する発表準備を行う（①認知症とは定義と疫学、②アルツハイマー型認知症、③レビー小体型認知症、④血管性認知症、⑤前頭側頭型認知症、⑥treatable dementia、⑦BPSD、⑧薬物療法・非薬物療法について）</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>P.46～54、60～65</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回目に3回目小テスト。内容の範囲は、第4回の講義内容で国家試験の過去問題が中心。</li> <li>・次回インタビュー結果の報告準備</li> </ul> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分</p>
第5回	<p>高齢期作業療法の過程について</p> <p>【key words】</p> <p>高齢期の心理、生活</p> <p>【授業概要】</p> <p>各自が事前に高齢者に対して行ったインタビュー結果をグループで共有する。そこから得られた結果を基に、加齢、高齢者の特性、実際の高齢者の生活スタイルなどについて、興味を持ち理解を深める。</p> <p>それらの学びを通して、第1～4回の内容に対する振り返りとする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>各自で持ち寄った指定シートを参照・共有</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回目で実施する内容について確認（各グループ、サロン参加日前までに企画書を作成し、内容の許可を得た上で準備を進めること）</li> </ul> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分</p>
第6回	<p>一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法</p> <p>【key words】</p> <p>小テスト</p> <p>【授業概要】</p> <p>第3回の小テストを実施する。</p> <p>一般の地域在住健康高齢者に対する作業療法の役割について理解する。また、一般的な介護予防の仕組みと取り組みについて理解するとともに、作業療法士の役割について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>P. 117～129</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>次回から発表があるため、担当か所の資料を仕上げ、事前に担当教員へ提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p>
第7回	<p>認知症の定義と分類・症状</p> <p>【key words】</p> <p>若年性認知症、アルツハイマー型認知症、</p> <p>【授業概要】</p> <p>①認知症とは何か？認知症の疫学、若年性認知症について学ぶ。また、②アルツハイマー型認知症について、発表を通して学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>P. 64～73, P. 130～145</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p>
第8回	<p>認知症の分類と症状</p> <p>【key words】</p> <p>DLB、VD、FTD、Treatable dementia、BPSD</p> <p>【授業概要】</p> <p>④血管性認知症、⑤前頭側頭型認知症、⑥treatable dementia、⑦BPSD ; Behavioral and Psychological Symptoms of Dementiaについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>P. 64～73, P. 130～145</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する事項については国家試験の過去問題を中心に第11回目の講義で第④回小テスト</li> </ul>

第9回	<p>を実施する 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 認知症に関する評価について、アルツハイマー型認知症の実際</p> <p>【key words】 アルツハイマー型認知症</p> <p>【授業概要】 認知症に関する評価指標について学ぶ アルツハイマー型認知症に関するドキュメントなどを見て、症状や進行についての実際について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリントなど</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・次回の内容（P.130～145を予習する） ・次回 回想法を行うので、子どもの時に遊んだおもちゃ、小さい時の写真など思い出の品を持参すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>認知症高齢者の作業療法</p> <p>【key words】 第4回小テスト</p> <p>薬物療法、非薬物療法について考える。 非薬物療法の回想法は、グループでロールプレイを行う。</p> <p>【授業概要】 認知症に対する作業療法について考え方を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P130～145</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 健康高齢者、地域在住高齢者の作業療法</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 前橋市中央地区の高齢者向けサロンに参加し、各グループで考えた歌体操を説明から実施まで行う。その後はサロンの企画に参加し、参加者と交流を図る。第15回でサロン参加のまとめを行うため、各グループで実施した内容や参加者の様子、グループや各自の反省点などをまとめておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 症例検討（認知症高齢者）①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 認知症高齢者の症例検討を行う。ICFを使用し、問題点、利点を考える（グループワーク）。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第14回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 症例検討（認知症高齢者）②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 認知症高齢者の症例検討を行う。ICFを使用し、問題点、利点を考える（グループワーク）。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 健康な高齢者のOT、まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 高齢者向けサロンへの参加後、グループでの振り返りを行う。また、それぞれのグループでの反省点を共有し、健康な地域で生活する高齢者を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p align="center"><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p align="center"><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
受講生に関する情報および受講のルール	グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください 小テストを実施するため、こまめに学習の振り返りなどを実施してください サロンでの実践などもあるため、グループ学習が多く計画されています。できる限り欠席がないようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループ発表では、レジユメの作成・提出、発表準備行ってください。 高齢者向けサロンに参加するため、グループでの歌体操の準備を行ってください
オフィスアワー	月曜日16:10～17:30
評価方法	授業内google小テスト・課題・発表等70%、サロンでの企画・運営とその実践報告・振り返り30%
教科書	松房利憲・新井健五編：標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学. 第3版, 医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、県内外の自治体における介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるが考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。</p> <p>[到達目標] ①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。 ②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。 ③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うこと。 ④基本的なスプリントの作製技術を理解し、実際に作製することができる。</p>
授業の概要	作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／義肢装具学総論 【key words】 義肢、装具、義手 【授業概要】 義肢、装具、スプリント、切断・離断、義手の種類義肢、装具、スプリントの定義を説明し、義肢(切断)について説明する。また、義手の種類を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 P1-11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第2回 義手の分類・名称・構造・機能について 【key words】 義手、義手の構造 【授業概要】 義手の分類から各部位パーツの名称を説明する。また、各義手、断端長で必要となるパーツとその特徴を教科書、資料を使用し説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P27-39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第3回 義手のチェックアウト 【key words】 義手、義手のチェックアウト、義手の訓練 【授業概要】 断端ケアを復習し、義肢装着法を説明する。又、上腕、前腕義手の適合検査を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P40-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
------	---

第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製のための基礎知識</p> <p>【key words】 スプリント、スプリントの力学</p> <p>【授業概要】 スプリンティングにおける基本的な目的や評価、素材、道具、デザイン、3点固定、力学、コストの取り方などについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製の流れ</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製の流れ、hand-base splint</p> <p>【授業概要】 スプリント製作における基本的な手順について、hand-base splintを作製しながら学ぶ。スプリントの適応と目的を考え、対象者の状態に合わせたスプリントの選択、デザインの決定について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製①</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、radial-bar type cock-up splint、pinch and wrap法</p> <p>【授業概要】 radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製②</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、radial-bar type cock-up splint、pinch and wrap法</p> <p>【授業概要】 radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製③</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、thumb-hole type cock-up splint、drape法</p> <p>【授業概要】 thumb-hole type cock-up splintをで製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製④</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、thumb-hole type cock-up splint、drape法</p> <p>【授業概要】 thumb-hole type cock-up splintをdrape法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製⑤：dynamic splint</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、dynamic splint</p> <p>【授業概要】 hand-baseにアウトリガーを取り付け、dynamic splintを作製する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p>



	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 スプリント作製⑥</p> <p>【key words】 スプリント、スプリント作製、チェックアウト</p> <p>【授業概要】 作製したスプリントについて、適切に装着するために各部のチェックを行い、安全かつ効果的に装着するための方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P153-185</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第12回 装具とは／上肢装具について</p> <p>【key words】 装具、上肢装具</p> <p>【授業概要】 装具の特徴やスプリントとの違いについて説明する。 上肢装具について、構造・目的・適応と合わせて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P123-151</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第13回 頸部・体幹装具について</p> <p>【key words】 装具、頸部・体幹装具</p> <p>【授業概要】 頸部・体幹装具について、構造・目的・適応疾患と合わせて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P123-151</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第14回 下肢装具について</p> <p>【key words】 装具、下肢装具</p> <p>【授業概要】 下肢装具について、目的、種類、パーツの名称を説明し、AFOは片麻痺と合わせて適応を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P123-151</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第15回 下肢切断と義足</p> <p>【key words】 下肢切断、義足</p> <p>【授業概要】 下肢の切断、離断と適合義足について説明する。下腿義足はソケットの種類を見本を用いて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P13-25</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。</li> <li>・スプリント製作では各自タオルを用意すること。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習を欠かさないこと
オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	筆記試験 70% レポート 30%
教科書	社団法人 日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学，協同医書出版社，2012
参考書	日本整形外科学会．日本リハビリテーション医学会監：義肢装具のチェックポイント第8版，医学書院，2014
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

<p>具体的な実務経験の内容</p>	<p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。臨床場面にてスプリントを作成し、装具療法を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p>
<p>アクティブラーニング要素</p>	<p> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク  <input type="checkbox"/> プレゼンテーション  <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない </p>
<p>情報リテラシー教育</p>	<p> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)  <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)  <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)  <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない </p>
<p>ICTの活用</p>	<p> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/> その他 </p>
<p>その他の具体的内容</p>	<p></p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹・宮寺亮輔			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。 [到達目標] ①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。 ②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。 ③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。
授業の概要	作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション／内部障害における作業療法実践①循環器疾患 【key words】 作業療法実践、循環器疾患 【授業概要】 科目オリエンテーションと科目の位置づけ、シラバスの説明を行う。 循環器疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp376-389 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分
	第2回	内部障害における作業療法実践②呼吸器疾患／腎疾患 【key words】 作業療法実践、呼吸器疾患、腎疾患 【授業概要】 呼吸器疾患、腎疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp405-421 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分
	第3回	がんにおける作業療法実践 【key words】 作業療法実践、がん 【授業概要】 がんにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp424-439 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。

第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 熱傷における作業療法実践</p> <p>【key words】 作業療法実践、熱傷</p> <p>【授業概要】 熱傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp298-308</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>骨・関節疾患における作業療法実践</p> <p>【key words】 作業療法実践、骨折</p> <p>【授業概要】 骨・関節疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp216-230</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>関節リウマチにおける作業療法実践</p> <p>【key words】 作業療法実践、関節リウマチ</p> <p>【授業概要】 関節リウマチにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp239-254</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>末梢神経障害における作業療法実践</p> <p>【key words】 作業療法実践、末梢神経障害</p> <p>【授業概要】 末梢神経障害における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp261-278</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>腱損傷における作業療法実践</p> <p>【key words】 作業療法実践、腱損傷</p> <p>【授業概要】 腱損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp279-290</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>脳血管障害・脳外傷における作業療法実践①</p> <p>【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法評価、作業療法、模擬事例</p> <p>【授業概要】 脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。</p>

第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践②</p> <p>【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法評価、作業療法、模擬事例</p> <p>【授業概要】 脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の演習課題について準備を行う。</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内発表準備180分） 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践③</p> <p>【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法評価、作業療法、模擬事例</p> <p>【授業概要】 演習課題：模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬事例に対しての作業療法評価・治療・支援を報告する。教員よりフィードバックを受ける。次回より脊髄損傷における作業療法実践を検討する。</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 脊髄損傷における作業療法実践①</p> <p>【key words】 脊髄損傷、残存機能、福祉機器</p> <p>【授業概要】 脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp191-214 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内発表準備180分） 脊髄損傷における作業療法実践②</p> <p>【key words】 脊髄損傷、残存機能、福祉機器</p> <p>【授業概要】 脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp191-214 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループでまとめた模擬事例に対しての作業療法評価・治療・支援を発表する。発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。教員より総括。次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。</p>
第14回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 神経変性疾患における作業療法実践</p> <p>【key words】 神経変性疾患、環境設定、自助具</p> <p>【授業概要】 神経変性疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp336-374 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。神経変性疾患の病態について今までの授業で習った事を復習しておくこと。</p>

	<p>予習90分／復習90分          神経・筋疾患における作業療法実践  <b>【key words】</b>          神経・筋疾患，環境設定，自助具  <b>【授業概要】</b>          神経・筋疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。          また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          教科書：pp336-374          参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          これまで学んだことの総括。試験範囲の伝達を行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>予習復習は欠かさないこと。          授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。          授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>予習復習を欠かさないこと          初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。</p>
オフィスアワー	<p>[牛込]月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約          [宮寺]火曜日9時～12時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約</p>
評価方法	<p>筆記試験 60% 演習課題 40%</p>
教科書	<p>①標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版. 医学書院, 2018</p>
参考書	<p>菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員          ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容          身体障害領域で作業療法士として勤務する中で、脳血管障害患者、整形外科疾患患者、神経・筋疾患患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①各疾患における生活課題と作業療法の目的について理解・説明できる。 ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。 ③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。 ④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。 ⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。 ⑥精神障害者に対する生活移行（定着）支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。</p>
授業の概要	ICFに基づいた実践的なりハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／精神科作業療法に関する理論・モデル・技法</p> <p>【key words】 治療構造論、森田療法、精神療法、認知行動療法</p> <p>【授業概要】 精神科リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 全書 精神障害 pp. 287-323、配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記キーワードについて調べて理解してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 精神科作業療法に関する理論・モデル・技法</p> <p>【key words】 運動療法、認知リハビリテーション、作業理論</p> <p>【授業概要】 精神科リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神科病院における運動療法</li> <li>認知リハビリテーション(神経認知、社会認知)</li> <li>CPPF、CMCE</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 全書 精神障害 pp. 287-323、配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：リハビリテーション及び作業療法に関わる、各種理論や技法について 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第3回 作業を用いたリハビリテーション</p> <p>【key words】 作業活動、リカバリー、社会参加、就労</p> <p>【授業概要】 ・「人生、ここにあり!」のDVDを鑑賞し、精神障害者のリハビリテーションについて考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 新日本映画社：「人生、ここにあり!」 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

第4回	<p>課題：次週までに感想文を提出。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p> <p>各精神疾患に対する作業療法①  <b>【key words】</b>  作業療法、作業、介入  <b>【授業概要】</b>  ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにて調べる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書や各種関連書、文献を参考にする。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までに、担当の疾患に対する作業療法について、文献等を調べてくる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第5回	<p>各精神疾患に対する作業療法②  <b>【key words】</b>  作業療法、作業、介入  <b>【授業概要】</b>  ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにてまとめる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書や各種関連書、文献を参考にする。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  各疾患に対する作業療法をまとめる作業をグループワークにて進める。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第6回	<p>各精神疾患に対する作業療法③  <b>【key words】</b>  作業療法、作業、介入  <b>【授業概要】</b>  ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにてまとめる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書や各種関連書、文献を参考にする。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までに、担当の疾患に対する作業療法について、ポスターまたはppt. にまとめてくる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第7回	<p>各精神疾患に対する作業療法④  <b>【key words】</b>  作業療法、作業、介入  <b>【授業概要】</b>  ・各疾患に対する作業療法について、グループで発表する。  ・発表時は、学会のポスター発表形式に場のセッティングを行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書や各種関連書、文献を参考にする。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  各疾患に対する作業療法介入について復習しておく。また、不明だった点は発表グループや教員に質問して理解しておく。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第8回	<p>健康を高めるための行動変容技法  <b>【key words】</b>  行動変容技法、認知行動療法、運動療法  <b>【授業概要】</b>  ・行動変容とは  ・喫煙、肥満、運動、不眠などに対する行動変容技法  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第9回	<p>司法精神医療における作業療法  <b>【key words】</b>  医療観察法、指定入（通）院医療、anger management、MDT  <b>【授業概要】</b>  ・医療観察法の概要と指定入院（通院）医療について  ・指定入院（通院）医療機関の役割とOTプログラムについて  ・司法精神医療に関する動画の視聴  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  全書 精神障害 pp. 243-256  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第10回	<p>地域で精神障害者を支える仕組み  <b>【key words】</b>  Assertive Community Treatment、オープンダイアログ、ピアサポート  <b>【授業概要】</b>  ・ACTの概要について  ・オープンダイアログの取り組みの概要について  ・ピアサポートの概要について  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>



	<p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第11回 精神障害者の地域移行支援、定着支援①（遠藤） 【key words】 ケアマネジメント、長期入院者 【授業概要】 ・精神障害者を取り巻く動向 ・事例検討会 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前課題：精神障害者に関わる前橋市の社会資源（制度、各種事業所等）についてまとめること。 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第12回 精神障害者の地域移行支援、定着支援②（遠藤） 【key words】 長期入院者、地域移行、地域定着 【授業概要】 ・仮想事例Aに対するケアマネジメント ・退院準備 ・退院後支援 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第13回 精神障害者のケアマネジメント（遠藤） 【key words】 ケアマネジメント 【授業概要】 長期入院者に対するケアマネジメント 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第14回 精神障害領域における作業療法介入・研究① 【key words】 健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法 【授業概要】 ・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介入研究に関わる用語等で不明な点は調べて理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第15回 精神障害領域における作業療法介入・研究② 【key words】 健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法 【授業概要】 ・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介入研究に関わる用語等で不明な点は調べて理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習をしっかりとる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。 ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定。 〔受講のルール〕 ・講義は欠席のないようにする。 ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。 ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月曜日17:00～18:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

評価方法	<input type="checkbox"/> 事例検討ワークシート 40% <input type="checkbox"/> レポート(社会資源調査) 30% <input type="checkbox"/> 小テスト 30%
教科書	①日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010. ②岩崎テル子他(編)：作業療法評価学, 第3版. 医学書院, 2017.
参考書	①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—, 第2版, 医歯薬出版, 2014. ②障害者福祉研究会(編)：国際生活機能分類, 2002. ③日本行動医学会(編)：行動医学テキスト, 2015.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<b>授業担当教員</b> <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している <b>具体的な実務経験の内容</b> 作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。 <b>アクティブラーニング要素</b> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <b>情報リテラシー教育</b> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <b>ICTの活用</b> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
宮寺亮輔・芦原大			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為（作業）工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。 ②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。 ③姿勢や行為から課題設定の理由が説明できる。 ④対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。</p>
授業の概要	<p>ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。</p>

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション、姿勢と動作、姿勢分析、動作分析 【key words】 姿勢、作業姿勢、動作分析 【授業概要】 ・姿勢、動作、分析、工程、アライメント姿勢観察、動画、写真の利用について ・重心位置の理解 ・作業姿勢の評価について 【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p297-313, 347-377 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の身体で演習 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第2回 座位姿勢の評価（不良座位姿勢の原因の特定） 【key words】 座位姿勢、仙骨座り姿勢、シーティング 【授業概要】 ・仙骨座り姿勢の原因やその姿勢による身体への影響について、良姿勢や他の不良姿勢と比較しながら説明する。 【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p347-377, 高齢者のシーティング 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTでの講義 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第3回 シーティングの理論 【key words】 座位姿勢、シーティング、褥瘡 【授業概要】 ・シーティングの目的および力学背景について説明をする。 ・褥瘡予防の観点からシーティングの医療福祉分野における位置付けを説明する。 【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p19-46, 347-377, 高齢者のシーティング 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTでの講義</p>
------	--

第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 シーティングの実際①（身体寸法計測、座位機能評価、車椅子の選定）</p> <p>【key words】 身体寸法計測，座位機能，車椅子選定</p> <p>【授業概要】 ・調整前の車椅子乗車姿勢の評価後、身体寸法計測および座位機能評価を実施し、推奨姿勢から車椅子の選定までを体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 作業療法評価学p71-77，高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：マジヤ（金属）、ゴニオメーター、バインダー（板などでも良い）2枚。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>シーティングの実際②（車椅子の調整）</p> <p>【key words】 車椅子調整</p> <p>【授業概要】 ・第4回で計測した結果に基づいて、選定した車椅子を調整する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラー型）、マジヤ（金属）、ゴニオメーター、工具（ラチェットレンチ、ドライバーなど）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>シーティング後の適合評価①（座位機能）</p> <p>【key words】 適合評価，シーティング</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、Hofferの座位能力分類、ズレ度を使用。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラー型）、マジヤ（金属）、差し金。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>シーティング後の適合評価②（上肢機能）</p> <p>【key words】 適合評価，シーティング，上肢機能</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、簡易上肢機能評価（simple test for evaluating hand function; STEF）を使用。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 作業療法評価学p182-190，高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラー型）、マジヤ（金属）、STEF。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>シーティング後の適合評価③（ADL, QOL）</p> <p>【key words】 適合評価，シーティング，ADL</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、5m駆動、ADL評価（FIMなど）、QOL評価（痛みの評価（Visual analog scale; VAS）など）を使用。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 作業療法評価学p235-290，高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラー型）、マジヤ（金属）、テープ（目印）、定規。</p> <p>【課題】シーティングについてレポート課題を提示する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内レポート180分）</p>
第9回	<p>上肢協調運動に対する作業療法①（姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の評価）</p> <p>【key words】 上肢協調運動機能，作業姿勢，環境設定</p> <p>【授業概要】 ・姿勢変化に伴う上肢（協調運動）機能への影響を説明する。 ・上肢協調運動機能の評価方法、評価指標について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 作業療法評価学p159-164，姿勢調節障害の理学療法</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用用具：ボールペン（0.5mm芯）、バインダー。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>上肢協調運動に対する作業療法②（姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の治療）</p> <p>【key words】 上肢協調運動機能，作業姿勢，環境設定</p> <p>【授業概要】 ・姿勢変化に伴う上肢（協調運動）機能への影響について検討する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢協調運動機能に応じた課題設定を検討する。</li> <li>・グループワークで進め、発表ディスカッションを行う。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 作業療法評価学p159-164, 姿勢調節障害の理学療法</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ディスカッション及び発表。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分 姿勢制御の理論</p> <p>【key words】 姿勢制御</p> <p>【授業概要】 ・姿勢制御のメカニズムを説明し、姿勢制御を発揮する作業療法場面を紹介する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTでの講義 11回までに学習した姿勢についてレポート課題を提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習180分/復習180分 (内レポート180分)</p> <p>第11回 移動支援技術の実際① (視覚情報処理機能と移動機能の関係)</p> <p>【key words】 視覚情報処理機能</p> <p>【授業概要】 ・視覚情報処理機能の役割を説明した上で、主体的生活行為における移動機能の支援方法を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTでの講義 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第12回 移動支援技術の実際② (課題から考えるバランス機能の理解、転倒回避能力の促通方法)</p> <p>【key words】 転倒, バランス, 運動課題</p> <p>【授業概要】 ・視覚情報処理機能、移動機能、自己のバランスの理解の相互関係について説明した上で、転倒回避能力を向上させるプログラムを検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ディスカッション及び発表。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第13回 行動、動作分析から作業療法を考える① (芦原)</p> <p>【key words】 動作分析, 作業療法</p> <p>【授業概要】 ・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p297-313, 347-377, 姿勢調節障害の理学療法, その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTでの講義 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第14回 行動、動作分析から作業療法を考える② (芦原)</p> <p>【key words】 動作分析, 作業療法</p> <p>【授業概要】 ・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考察、発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 基礎運動学p297-313, 347-377, 姿勢調節障害の理学療法, その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回でディスカッションした内容の発表、期末レポート採点基準の説明。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布する資料の予備は保管しません。</li> </ul> <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢観察しやすい (身体貼付するマーカーなどが確認しやすい) 服装で参加すること。</li> <li>・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。</li> <li>・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為 (私語、携帯電話の使用など) は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状	チャトルカード方式

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	火曜日9時～12時00分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	レポート50% 演習課題50%
教科書	中村隆一他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2003 岩崎テル子他：作業療法評価学. 医学書院, 2009
参考書	廣瀬秀他：高齢者のシーティング第2版. 三輪書店, 2014 奈良勲他：姿勢調節障害の理学療法第2版. 医歯薬出版株式会社, 2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士経験 14年</li> <li>作業療法士養成校教員経験 10年</li> </ul> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法のひとつの領域であるHand Therapyについて基礎知識、評価、プログラムを学ぶ。また、上肢を中心とした整形外科疾患・手外科疾患に対する作業療法の理解を深め、作業療法士としての臨床的な知識・技術を身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき上肢機能を捉えることができる。 ②Hand Therapyの視点から、上肢機能へのアプローチを考えることができる。 ③整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができる。</p>
授業の概要	Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき評価を行い、上肢機能へのアプローチを考えることができるように学ぶ。また、整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができるように臨床的な知識・技術を修得する。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション</p> <p>【key words】 科目オリエンテーション、ハンドセラピー</p> <p>【授業概要】 科目の位置付けとシラバス、授業の進め方について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
	第2回	<p>作業療法におけるHand Therapy：基礎知識①</p> <p>【key words】 ハンドセラピー、手の解剖・運動・生理</p> <p>【授業概要】 手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
	第3回	<p>作業療法におけるHand Therapy：基礎知識②</p> <p>【key words】 ハンドセラピー、手の解剖・運動・生理</p> <p>【授業概要】 手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
	第4回	<p>作業療法におけるHand Therapy：評価①</p>

第5回	<p>【key words】          ハンドセラピー、評価  <b>【授業概要】</b>          作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          作業療法におけるHand Therapy：評価②</p>
第6回	<p>【key words】          ハンドセラピー、評価  <b>【授業概要】</b>          作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          作業療法におけるHand Therapy：治療①</p>
第7回	<p>【key words】          ハンドセラピー、治療実践  <b>【授業概要】</b>          作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          作業療法におけるHand Therapy：治療②</p>
第8回	<p>【key words】          ハンドセラピー、治療実践  <b>【授業概要】</b>          作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy総論</p>
第9回	<p>【key words】          ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>          整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyの概要について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論①</p>
第10回	<p>【key words】          ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>          整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          P216-230  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習90分／復習90分          整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論②</p>
第11回	<p>【key words】          ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>          整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>



	<p>P279-297  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論④  <b>【key words】</b>  ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>  整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>P279-297  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑤  <b>【key words】</b>  ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>  整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>P261-278  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑥  <b>【key words】</b>  ハンドセラピー、整形外科疾患  <b>【授業概要】</b>  整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>P261-278  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  まとめ  <b>【key words】</b>  ハンドセラピー、まとめ  <b>【授業概要】</b>  科目のまとめを行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習復習は欠かさないこと。
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	レポート 100%
教科書	①標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版. 医学書院, 2016
参考書	授業内で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員  <b>■実務経験のある教員が担当している</b></p> <p>具体的な実務経験の内容  身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。臨床場面にてHand Therapyを行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法</p>

	<p>等)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li>□情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li>□その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
宮寺亮輔・古田常人・牛込祐樹			
作業療法評価学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法評価の過程を理解し、対象者理解に必要な情報を入手・整理できるようにする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。 ②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。 ③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。 ④対象者理解に必要な観察および検査測定のための説明でき、計画・実施環境の手配ができる。 ⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。 ⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。</p>
授業の概要	<p>作業療法評価の実施から対象者の全体像理解に至るまでのプロセスを模擬的に経験するために、事例検討に必要な情報が入手できるように働きかけながら学習する主体的学習方法（アクティブラーニング）を用いる。課題提示からグループにて実施方法を検討し、適宜、グループ毎に指導・助言を行う。またクラス全体での発表を通じて、全体的指導を行う。</p>

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション／第1事例（作業療法依頼内容）の提示</p> <p>【key words】 ICF, COPM, 作業療法評価過程</p> <p>【授業概要】 ・オリエンテーション、ICF、COPM、作業療法介入プロセスモデル本科目で学習することを明らかにする。 ・作業療法における評価の位置づけについて理解を深める。 ・作業療法評価を構造的に捉えるための視点について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ①配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PPTによる講義、グループ分け。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第2回 対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】 作業療法評価過程、評価計画、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 ・事例（作業療法依頼内容）の提示。 ・依頼内容から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ①随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。 【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第3回 対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】 作業療法評価過程、評価計画、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。 【教科書ページ・参考文献】 ・随時必要資料を配布する。</p>
------	--

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。  【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分  対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション  【授業概要】  ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。  【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション  【授業概要】  ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。  【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>対象者の全体像を作成</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、全体像、模擬事例、ディスカッション  【授業概要】  ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。  【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>対象者の全体像を発表／フィードバック</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、全体像、模擬事例、事例報告  【授業概要】  ・グループでまとめた全体像を発表する。  ・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>第2事例の提示：対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、評価計画、模擬事例、ディスカッション  【授業概要】  ・事例の提示。  ・事例から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。  【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション  【授業概要】  ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。  【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。</p>

第10回	<p>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分  対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。</p> <p>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第11回	<p>対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。</p> <p>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第12回	<p>対象者理解のための手立てを検討・実施</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、情報収集、検査測定、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。</p> <p>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第13回	<p>対象者の全体像を作成</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、全体像、模擬事例、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。  ・必要に応じて評価計画を修正する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第14回	<p>対象者の全体像を発表／フィードバックおよび総括</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、模擬事例、事例報告、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・グループでまとめた全体像を発表する。  ・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。  ・指導者（教員）より総括。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答、期末課題レポートについて説明  【予習復習に必要な想定時間】  予習90分／復習90分</p>
第15回	<p>口頭試問</p> <p>【key words】  作業療法評価過程、模擬事例、事例報告、ディスカッション</p> <p>【授業概要】  ・第1、2事例を通して得られた内容について口頭試問を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  ・授業資料の持ち込み可。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  【授業準備】各自グループで共有した資料を整理しておくこと。</p>

	<b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分
受講生に関わる情報 および受講のルール	ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォン（調べ学習以外の用途）は机上に出さない。 講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	グループ内での役割分担を遂行できるよう、各自学習が必要となる。対象者理解のために必要な情報、知識は、これまでに学んだことの復習だけでなく、新たな知識、学内で教わっていない部分も多々あるので、自ら積極的な学習が求められる。
オフィスアワー	水曜日の16時30分～17時30分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。
評価方法	レポート・口頭試問(60%)、演習課題(40%)により総合的に評価する。
教科書	なし。随時必要資料を配布する。
参考書	随時紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士経験 14年</li> <li>作業療法士養成校教員経験 10年</li> </ul> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>■その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ事例提示</li> </ul>

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
悴田敦子			
作業療法評価学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。</p> <p>[到達目標] ①作業療法の過程を説明することができる。 ②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。 ③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。 ④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式で記録することができる。</p>
------------	---

授業の概要	ケーススタディーを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。
-------	--

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
---	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて 【key words】 作業療法評価、評価項目 【授業概要】 基本的な作業療法の流れについて学び、具体的な評価項目や評価方法を理解する 【教科書ページ・参考文献】 P10～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 記録について 【key words】 客観、主観、情報収集 【授業概要】 評価実習で行われるケースの記録について客観と主観に分けて学びます。実際に得た情報の意味、扱いを理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 ケーススタディー：動作分析のポイント 【key words】 記録、動作分析 【授業概要】 ケースの映像から、動作分析を行い、記録する。動作分析の際のメモや記録について説明する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までにデイリーノート形式で記録しまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第4回 ケーススタディー：動作分析 【key words】</p>
------	---

第5回	<p>姿勢、筋緊張、片麻痺、動作分析  <b>【授業概要】</b>  動作分析の準備を各自行う。片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録・発表する。原因や理由についてADLにつなげた考察を話し合う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までにデイリーノート形式で記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：記録、動作分析  <b>【key words】</b>  デイリーノート、考察、査読  <b>【授業概要】</b>  各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。  また、片麻痺ケースの寝返り動作、起き上がり動作の映像から、動作分析を各自行い、記録する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第6回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までにデイリーノート形式で記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：動作分析  <b>【key words】</b>  動作分析、記録、考察  <b>【授業概要】</b>  片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録する。数名に発表してもらい、他ADLとのつながりについて考え話し合う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第7回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までにデイリーノート形式で記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：記録、動作分析  <b>【key words】</b>  動作分析、デイリーノート、査読、考察  <b>【授業概要】</b>  各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。  また、動作分析を行い、記録する。数名が動作分析を発表し、評価の視点を共有する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第8回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回までにデイリーノート形式で記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：動作分析、評価計画  <b>【key words】</b>  評価計画、記録  <b>【授業概要】</b>  前回の記録を各自で回覧し、書き方、用語の使用を確認する。  また、評価計画立案について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第9回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  評価計画を立案し、ノートにまとめる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：評価計画立案、情報収集、面接  <b>【key words】</b>  <b>【授業概要】</b>  前回の評価計画案を学生間で確認する。評価計画の立案のポイントと内容選択等について説明する。面接による情報収集項目を確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第10回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ケースノートに記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：情報収集、身体機能面評価  <b>【key words】</b>  <b>【授業概要】</b>  ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第11回	<p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ケースノートに記録する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ケーススタディー：記録、情報収集、身体機能面評価、動作分析  <b>【key words】</b>  <b>【授業概要】</b>  ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。</p>



	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースノートに記録する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 ケーススタディー：情報収集，身体機能面評価，動作分析</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースノートに記録する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 ケーススタディー：動作分析，情報収集，評価</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ICFを使用し、評価項目、問題点、利点を整理する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 評価結果をケースノートに記録する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 レポート・レジюмеについて</p> <p>【key words】 レジюме、ケースレポート</p> <p>【授業概要】 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ケースレポート、発表用レジюмеについて学び、各自で作業療法目標を設定する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースレポートまたはレジюмеの形式で評価結果、問題点、目標を各自記録する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 ケース発表</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 各自まとめた内容を発表し、それぞれの評価の視点、問題点、目標を学び、自己と比較検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
受講生に関わる情報および受講のルール	ケーススタディーでは各自ファイルを用意し、授業終了後にまとめること。まとめたものを次回授業で使用するため、忘れることのないようにすること。 問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	動作分析、ケーススタディーを行った際は、次回授業までにデイリーノートまたはケースノートの形式でまとめる。教員からの査読・コメントは随時受け付けます。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	提出物 100% (ケースレポートまたはレジюме形式)
教科書	1) 岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第3版. 医学書院 2) 山口昇・玉垣努編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院 3) 障害者福祉研究会編：ICF国際生活機能分類, 国際障害分類改定版, 中央法規
参考書	隈元庸夫：症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作. ヒューマン・プレス. 2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p>

	<p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■情報モラルに関する教育</li><li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li>□情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li>□その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業目的] 高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を活用できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。 ②MTDLPを用いて作業に焦点を当てたアセスメントを実施することができる。 ③MTDLPを用いて作業に焦点を当てた合意目標の設定をすることができる。 ④MTDLPを用いて作業に焦点を</p>		
授業の概要	<p>・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。 ・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるよう自身でも一連のプロセスを経験する。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身に付ける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○		
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。	○		
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは 地域包括ケアシステム 地域包括支援センター 自立支援地域包括ケアシステムについての概要を説明し、地域包括支援センターの役割、及び自立支援の考え方について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第2回 総合支援事業/介護予防 総合支援事業を外観し、介護予防事業について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第3回 介護予防演習 介護予防で行われている評価に関して、理解し演習を行う。資料を配布する。生活行為分析のレポート。A41枚程度。 次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第4回 介護予防実践演習① 介護予防で行われる生活支援、身体機能の維持・向上訓練資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第5回 介護予防実践演習② 認知症予防のための生活や運動に関する指導の演習を行う。自主グループの運営・支援について、検討する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第6回 模擬地域ケア会議演習① 地域ケア会議についての概要を説明し、地域ケア会議の流れ、必要な視点、専門職の役割について説明する。ケア会議の事例に関して検討し、ケア会議のシミュレーションを行う。資料を配布する。次回模擬ケア会議を行う準備を行っておくこと。</p> <p>第7回 模擬地域ケア会議演習② 模擬ケア会議を行う。司会、ケアマネによる事例紹介、及び検討課題の提示、各専門職(PT, OT, ST, 管理栄養士、薬剤師など)による助言、及び質問。情報を整理し、目標・方針の設定を行う一連の流れを経験する。資料を配布する。発表後の質疑応答を踏まえ、情報を整理し、レポートを提出。</p> <p>第8回 生活行為向上マネジメントとは① 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 導入の経緯 MTDLPの概要 (社) 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント、改訂第2版。(社) 日本作業療法士協会, pp. 8-18, 2014. 予習：(社) 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント、改訂第2版。(社) 日本作業療法士協会, pp. 18-</p>		

	<p>21, 2014</p> <p>第9回 生活行為向上マネジメントとは② 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 導入の経緯 MTDLPの概要 (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 8-18, 2014. 予習: (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 18-21, 2014</p> <p>第10回 マネジメントツールの使い方① 各シートを学生同士で聞き取る (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 18-21, 2014予習: (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 41-46, 2014. 事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第11回 マネジメントツールの使い方② 各シートを学生同士の問題で記入する。 (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 21-32, 2014予習: (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 41-46, 2014. 事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第12回 マネジメントツールの使い方③ グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習: (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 41-46, 2014. 事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第13回 マネジメントツールの使い方④ グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習: (社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント, 改訂第2版. (社) 日本作業療法士協会, pp. 41-46, 2014. 事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第14回 各領域における生活行為向上マネジメントの活用 グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料 MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。</p> <p>第15回 学んだことの振り返り 1~14回までの総括 試験範囲の伝達これまでの配布資料MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークが中心となる。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。</li> <li>・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為 (私語、携帯電話の使用) は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。
オフィスアワー	[古田] 月曜日16時~17時30分は随時 (変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約
評価方法	評価配分: 発表50%, 課題50%。詳細はシラバスを参照すること。
教科書	(社) 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント. (社) 日本作業療法士協会2014
参考書	①一般社団法人日本作業療法士協会 (編著): 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント. 医歯薬出版株式会社, 2015. ②吉川ひろみ: 「作業」ってなんだろう, 作業科学入門, 第2版. 医歯薬出版株式会社, 2017.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>一般病院にて高齢者の作業療法を行い、また訪問リハビリ、老人保健施設など地域での高齢者支援を実践していた。また、埼玉県ふじみ野市における認知症初期集中支援チーム員として活動し、加えて埼玉県三芳町の地域ケア会議に参加して助言を行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□PBL (課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>□実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> </ul>

- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床場面で評価、介助を具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。 ②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。 ③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。 ④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。</p>
授業の概要	作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係	
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／臨床に立つ上での準備・心構えについて</p> <p>【key words】 臨床実践、リスクマネジメント</p> <p>【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。科目内で行う実践的な評価、介助の練習の方法について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習180分</p>
	第2回	<p>臨床実践：バイタルサイン測定①</p> <p>【key words】 臨床実践、リスクマネジメント、バイタルサイン測定</p> <p>【授業概要】 実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 実技準備90分／実技練習90分</p>
	第3回	<p>臨床実践：バイタルサイン測定②</p> <p>【key words】 臨床実践、リスクマネジメント、バイタルサイン測定</p> <p>【授業概要】 実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第4回	<p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：初回面接・起居移乗介助①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、初回面接、起居移乗介助  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第5回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：初回面接・起居移乗介助②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、初回面接、起居移乗介助  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第6回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：関節可動域測定①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、関節可動域測定  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第7回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：関節可動域測定②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、関節可動域測定  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第8回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：MMT①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、MMT  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第9回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：MMT②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、MMT  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>

第10回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：簡易知覚検査①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、簡易知覚検査  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第11回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：簡易知覚検査②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、簡易知覚検査  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第12回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：片麻痺機能検査①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、片麻痺機能検査  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第13回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：片麻痺機能検査②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、片麻痺機能検査  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第14回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：ADL評価・介助（更衣）①  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、ADL評価・介助、更衣動作  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第15回	<p>指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  実技準備90分／実技練習90分  臨床実践：ADL評価・介助（更衣）②  <b>【key words】</b>  臨床実践、リスクマネジメント、ADL評価・介助、更衣動作  <b>【授業概要】</b>  実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>



	【予習復習に必要な想定時間】 実技準備90分／実技練習90分
受講生に関わる情報 および受講のルール	実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージなどを用意しておくこと。 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。 予習復習は欠かさないこと。 授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	・予習復習を欠かさないこと
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	ポートフォリオ 100%
教科書	特になし
参考書	①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学. 第3版. 医学書院. 2017 ②才藤栄一 監：PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト. 第1版. 金原出版株式会社. 2011 ③大野義一郎：感染対策マニュアル. 第2版. 医学書院 ④里宇明元 監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習. 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2015
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 知識・技術を有しているだけでなく、臨床場面で実践応用しながら臨床業務を行っていた経験が、科目内で活かされている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が子に与える影響を知ることで、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解できる。 ②作業療法における集団活用について説明することができる。 ③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。</p>
授業の概要	ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひととのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。

<b>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</b> ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／集団の基礎①          【key words】          集団、場 (トポス)、場の構造          【授業概要】          ・今後の講義日程と内容          ・集団と場に関する基礎知識          ・集団評価          【教科書ページ・参考文献】          ひとと作業・場 新版 1章 (pp.10-18)          【課題・予習・復習・授業準備指示】          上記キーワードを中心に取り扱った内容について復習しておくこと。          【予習復習に必要な想定時間】          30分程度</p> <p>第2回 集団の基礎②          【key words】          調べ学習・プレゼン資料の作成          【授業概要】          範囲に応じ、各プレゼンテーションの担当を決め、集団療法を実施するために必要な基礎知識・技術についてまとめる。          【教科書ページ・参考文献】          ひとと作業・場 新版 2~4章 (pp.20-68)          【課題・予習・復習・授業準備指示】          担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時まで提出すること。          【予習復習に必要な想定時間】          30分程度</p> <p>第3回 集団の基礎③          【key words】          調べ学習、プレゼンテーション          【授業概要】          ・集団と場に関する基礎知識・集団評価の内容に関するプレゼンテーション          ・「集団評価表」「集団内個人評価表」の内容(評価の視点)について解説          【教科書ページ・参考文献】          ひとと作業・場 新版 2~4章 (pp.20-68)</p>
------	--

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に集団の基礎的な評価について教科書を熟読するとともに、付表の「集団評価表」「集団内個人評価表」の内容について把握しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第4回	<p>集団の見学・評価① 【key words】 集団評価、アセスメント 【授業概要】 外部の事業所にて、児童の集団を、集団および個の関わりからの観点から評価する。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 2～4章 (pp. 20-68) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。 次々回の講義までに、「集団評価表」「集団内個人評価表」をまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>集団の見学・評価② 【key words】 調べ学習、プレゼンテーション 【授業概要】 ・集団と場に関する基礎知識についてプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 pp. 2-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>集団評価の結果報告と考察 【key words】 集団評価、アセスメント 【授業概要】 ・第4～5回で行った集団評価、集団内個人評価について報告をし、フィードバックを受ける。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 pp. 2-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「集団評価表」「集団内個人評価表」を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>集団の治療的活用 【key words】 集団の治療的利用 【授業概要】 ・集団の治療的利用の領域に関するプレゼンテーション 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 5～7章 pp. 70-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当範囲の資料についてプレゼンの前日18時までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第8回	<p>模擬集団プログラム計画の立案① 【key words】 集団療法、集団プログラム、プログラム立案 【授業概要】 ・発達障害をもつ児童に対する集団プログラムについて、調べた文献を参考に、プログラム案を作成、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 pp. 146-179 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に児童に対する集団プログラムについて文献を探して持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>模擬集団プログラム計画の立案② 【key words】 集団療法、集団プログラム、プログラム立案 【授業概要】 ・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 pp. 146-179 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に児童に対する集団プログラムについて文献を探して持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>模擬集団プログラム計画の立案③ 【key words】 集団療法、集団プログラム、プログラム立案 【授業概要】 ・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書のフィードバックを受ける。 【教科書ページ・参考文献】 ひとと作業・場 新版 pp. 146-179</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      今回の講義までに、計画書でフィードバックを受けた点を修正しておくこと。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度      模擬集団プログラム計画の立案④</p> <p>【key words】      集団療法、集団プログラム、プログラム立案</p> <p>【授業概要】      ・場面設定を行い、学内で模擬プログラムを実施、計画の修正を行う。      【教科書ページ・参考文献】      ひとと作業・場 新版 pp.146-179</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      今回の講義の3日前までに、計画の修正を行い、集団プログラム計画書を担当教員に提出すること。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度      集団プログラムの実施①</p> <p>【key words】      集団療法、集団プログラム、プログラム実施</p> <p>【授業概要】      ・外部の事業所にて児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。      【教科書ページ・参考文献】      ひとと作業・場 新版 pp.146-179</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。      必要な物品等について準備しておくこと。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度      集団プログラムの実施②</p> <p>【key words】      集団療法、集団プログラム、プログラム実施</p> <p>【授業概要】      ・児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。      【教科書ページ・参考文献】      ひとと作業・場 新版 pp.146-179</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      事業所にお邪魔する際は、実習同様の身だしなみとすること。      必要な物品等について準備しておくこと。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度      集団プログラムの結果報告と考察</p> <p>【key words】      集団療法、集団プログラム、振り返り</p> <p>【授業概要】      ・実施したプログラム結果について、ディスカッションを基に考察する。また、フィードバックを受ける。      【教科書ページ・参考文献】      ひとと作業・場 新版 pp.146-179</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      事前に集団プログラムの結果の評価について個人でまとめてくること。      プログラムの評価結果や運営方法について、フィードバックを受けた内容を加味し、レポートにまとめる。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度      学んだことの振り返り</p> <p>【key words】      集団評価、アセスメント、集団療法、集団プログラム</p> <p>【授業概要】      ・集団、場の治療的効果や実際のプログラム評価、運営について振り返る。      【教科書ページ・参考文献】      なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】      1～14回までの内容について、復習しておくこと。      指定期日までに集団プログラムの実施結果等についてレポートで提出すること。      【予習復習に必要な想定時間】      30分程度</p>
<p>受講生に関わる情報      および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】      ・授業で配布する資料の予備は保管しない。      ・授業日程等は変更になる場合がある。その場合は、随時連絡する。</p> <p>【受講のルール】      ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。      ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。      ・対象者の評価や治療に対し、真摯な姿勢で臨むこと。      ・授業中、近隣の施設を利用させていただくこともあるため、私服は動きやすく華美でないものとする。</p>
<p>毎回の授業に関する      質問や学習の進捗状      況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ</p>	<p>シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次</p>

る情報	回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	木曜日17:00～18:00。時間については事前に申し出ること。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業内提出課題 30% (プレゼンテーション、集団評価シート、集団プログラム計画) <input type="checkbox"/> 集団プログラムへの取り組み30% (参加しなかった場合は総合評価に含めない) <input type="checkbox"/> レポート 40% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
教科書	山根寛他 (著) : ひとと集団・場—ひとの集まりと場を利用する—, 第2版, 三輪書店, 2007.
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
山口智晴			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。 ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。 ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。</p>		
授業の概要	認知機能障害に伴う社会生活障害の評価とアプローチについて学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション。 高次脳機能障害者の暮らしぶり。 認知機能障害をどの様に捉えるか (DSM-5など)</p> <p>【key words】 DSM-5、認知症、生活障害、高次脳機能障害、ICD-10、ICD-11</p> <p>【授業概要】 DSM-5、認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)科目オリエンテーション。 認知機能低下による生活機能障害をどのようにとらえるか、ICFやDSM-5などから理解をすすめる。 また、オレンジプランなどの最近の制度について知る</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料範囲を復習、ポートフォリオを作成 ポートフォリオは第 注意障害へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①： 注意・記憶について</p> <p>【key words】 注意障害</p> <p>【授業概要】 注意障害や記憶障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。 第6回目以降の課題内容について説明を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ① 淵雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5 『高次脳機能障害障害』 第3版. 協同医書出版 P.176~198</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容を復習、ポートフォリオを作成 半側空間無視へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>	
	第3回	<p>高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②： 失認・半側空間無視について</p> <p>【key words】 失認、USN</p> <p>【授業概要】 失認や半側空間無視についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>	

第4回	<p>教科書①P. 81～120  <b>【授業概要】</b>  講義内容を復習、ポートフォリオを作成  失語症へのアプローチに関する文献を1つ見つけてファイリング  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③： 失語・失書など言語障害について  <b>【key words】</b>  失語症、言語機能  <b>【授業概要】</b>  半側空間無視(続き)  失語症を中心とした言語関連の障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第5回	<p>教科書①P. 198～211  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  講義内容を復習、ポートフォリオを作成  課題の作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>課題作成に向けた指導  <b>【key words】</b>  課題  <b>【授業概要】</b>  認知症に対するリハビリテーションについて各自が調べる課題を提示し、どの様に準備を進めるか確認する。  詳細は講義時に配布する。配付資料参照プレゼンテーション準備  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  各自指定内容  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  課題作成  次回、失行症のアプローチに関する文献を1つ調べてファイリングする  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  120分</p>
第6回	<p>高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④： 失行・行為の障害について  <b>【key words】</b>  失行症  <b>【授業概要】</b>  失行症などの行為の障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>教科書①P. 138～163  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  課題作成  次回、社会的行動障害のアプローチに関する文献を1つ調べてファイリングする  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第7回	<p>高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤： 前頭葉症状、行動と感情の障害について  <b>【key words】</b>  社会的行動障害、行動と感情の障害、social cognition  <b>【授業概要】</b>  前頭葉の障害による社会的行動障害や行動と感情障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>教科書①P. 163～175  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  課題作成  次回、非薬物療法に関する文献を1つ調べてファイリングする  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第8回	<p>認知症患者の暮らしぶり。認知症の非薬物療法（リハビリテーション含む）について  <b>【key words】</b>  非薬物療法  <b>【授業概要】</b>  認知症に対する非薬物療法の定義や分類、そのエビデンスなどについて担当学生が調べ発表する。それを元に、補足の講義と議論を行い、理解を深める  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書②小川敬之編 認知症の作業療法—エビデンスとナラティブの接点に向けて第2版。医歯薬出版。のほかに非薬物療法の文献を探す  教員からも随時紹介する  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ、BPSD軽減に効果があるかわりについて各自で調べる  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第9回	<p>認知症に対するリハビリテーション： 基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入  <b>【key words】</b>  BPSD  <b>【授業概要】</b>  認知症の行動・心理症状BPSDの定義と、その軽減に向けた代表的な介入方法について学ぶ。環境調</p>

	<p>整や本人へのアプローチ、家族支援など幅広い視点を持つことの重要性について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書②以外に、International Psychogeriatrics Associationのホームページで入手できるガイドラインを参照  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ  介護家族への支援はどのような内容が望ましいのか、各自が調べる  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
第10回	<p>認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導  <b>【key words】</b>  家族支援  <b>【授業概要】</b>  認知症の家族支援やケアの方法について調べるとともに、その有用性に関する文献も紹介しながら理解を深める  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書②のほかに、参考文献を紹介する  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ  認知機能に障害がある人の地域社会生活を支える制度について調べ、どのような問題があるかを次回皆で検討するための準備をする  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
第11回	<p>認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度  <b>【key words】</b>  フォーマルサービス、インフォーマルサービス  <b>【授業概要】</b>  高次脳機能障害と認知症など、認知機能に障害のある人が地域社会を継続するために必要な社会資源について理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料等  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p>
第12回	<p>認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係、権利擁護に関わる制度  <b>【key words】</b>  就労支援、権利擁護  <b>【授業概要】</b>  認知症患者（特に若年性認知症患者）や高次脳機能障害患者に対する就労支援関連の社会資源について学ぶ。  また、権利擁護にかかわる制度として、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ 次回提出できるように準備する  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  120分</p>
第13回	<p>認知機能障害のある方への社会資源③  <b>【key words】</b>  権利擁護、就労  <b>【授業概要】</b>  認知症や高次脳機能障害の人達が、働く意味や社会とつながり続けて役割を持つ意味について、事例や記事などを通して、ディスカッションをする。そこから、作業療法士としての役割について考察する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ポートフォリオ提出  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第14回	<p>認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど  <b>【key words】</b>  群馬県  <b>【授業概要】</b>  群馬県内の高次脳機能障害支援拠点機関や認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェなどの社会資源について調べてまとめる。また、具体的な活用方法についても調べる。次随時指示する期末課題の提出準備  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  講義内容の復習  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第15回	<p>まとめ  <b>【key words】</b>  まとめ  <b>【授業概要】</b>  本科目のまとめを行う。</p>



	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末課題の提出準備 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識（2年次までの知識）は、各自復習しておくこと。特に解剖学（脳と神経15回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。 神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	<p>コメントカード方式</p>
授業外時間にかかわ る情報	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。基本的に毎回の予習と復習を前提に進める。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約</p>
評価方法	<p>ポートフォリオ50%、 授業内発表課題50%</p>
教科書	<p>日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版、協同医書出版 小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版、協同医書出版</p>
参考書	<p>石合純夫 著 『高次脳機能障害』（医歯薬出版株式会社） 本田哲三 編 『高次脳機能障害のリハビリテーション -実践的アプローチ-』第2版（医学書院） 鈴木孝治ほか編 『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④（医歯薬出版社） その他、随時講義の中で紹介する</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員  <b>■実務経験のある教員が担当している</b>      具体的な実務経験の内容      急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。      アクティブラーニング要素  <b>■PBL(課題解決型学習)</b>  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/>グループワーク  <b>■プレゼンテーション</b>  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない      情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない      ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他      その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①守秘義務について説明することができ、実行できる。 ②リスク管理について説明することができ、実行できる。 ③評価における統合と解釈について、基本的考え方が理解できる。 ④担当した症例について、文章にまとめるとともに報告し、それらを基に考察を深めることができる。</p>
授業の概要	臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。また、事例の統合と解釈を通して、評価プロセスの理解を深めることができる。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／守秘義務について</p> <p><b>【key words】</b> オリエンテーション</p> <p><b>【授業概要】</b> 個人情報、守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える。またその具体的な方法を説明する。配布資料指定教科書と実習の手引きに目を通しておくこと。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 配布資料、実習の手引き</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> スタンダードプレコーションについて事前学習</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 60分</p>
	第2回	<p>リスク管理（感染症対策など）</p> <p><b>【key words】</b> リスク管理</p> <p><b>【授業概要】</b> 医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 大野義一郎：感染症対策マニュアル第2版. 医学書院</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> スタンダードプレコーションについて復習しておくこと。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 60分</p>
	第3回	<p>実技テスト</p> <p><b>【key words】</b> 実技</p> <p><b>【授業概要】</b> 転倒やバイタル確認などの安全管理に関する配慮事項や対象者への説明など、実習に行くにあたり適切な準備ができていかなどの確認を中心に行う。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 詳細は講義のプリントで周知する</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 実技テストに向け、各自が準備を進める</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>

第4回	<p>120分          評価計画の立案  <b>【key words】</b>          評価計画  <b>【授業概要】</b>          事前に提示された事例について、各自で評価計画を立案し、立案した結果をグループで共有し、ディスカッションを経て理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第5回	<p>120分          評価計画の立案  <b>【key words】</b>          評価計画  <b>【授業概要】</b>          事前に提示された事例について、各自で評価計画を立案し、立案した結果をグループで共有し、ディスカッションを経て理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第6回	<p>120分          実技テスト  <b>【key words】</b>          実技テスト  <b>【授業概要】</b>          ROMやMMT、HDS-Rの実施など、基本的技能に関する実技確認を行う  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          詳細は配布プリントを参照  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          各自で十分に準備をしておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第7回	<p>60分          統合と解釈  <b>【key words】</b>          統合と解釈  <b>【授業概要】</b>          事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          統合と解釈について復習し、学習内容をまとめておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第8回	<p>60分          統合と解釈  <b>【key words】</b>          統合と解釈  <b>【授業概要】</b>          事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          統合と解釈について復習し、学習内容をまとめておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第9回	<p>60分          臨床評価実習指導の心構え  <b>【key words】</b>          中間まとめ  <b>【授業概要】</b>          臨床評価実習実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。実習の手引き実習の手引きをもとに復習しておくこと。          各自で、これまでの実技テストの結果や課題などを踏まえて  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリントと実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          講義内容の振り返り  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第10回	<p>60分          臨床評価実習Ⅰの課題整理  <b>【key words】</b>          課題整理  <b>【授業概要】</b>          臨床評価実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          配布プリントと実習の手引き  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          講義内容の復習  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>

	<p>60分 第11回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 【key words】 課題整理 【授業概要】 臨床評価実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引き セミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと 【教科書ページ・参考文献】 配布プリントと実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第12回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 【key words】 課題整理と振り返り 【授業概要】 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引き セミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと 【教科書ページ・参考文献】 配布プリントと実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第13回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 【key words】 課題整理 【授業概要】 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。 【教科書ページ・参考文献】 実習の手引き セミナー発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第14回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 【key words】 課題整理 【授業概要】 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。 【教科書ページ・参考文献】 実習の手引き セミナー発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 振り返りシートの作成準備 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第15回 臨床評価実習を振り返る実習報告 【key words】 まとめ 【授業概要】 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。振り返りシートの 作成準備 【教科書ページ・参考文献】 配布プリントと実習の手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 振り返りシート 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 報告では発表用レジюмеを用意しておくこと。 【受講のルール】 報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分しておくこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	実習の手引きを熟読すること。また、各配置先病院の情報を事前に収集するとともに、各種評価指標 の用紙などのファイリングや評価手法の練習などに取り組んでおくこと
オフィスアワー	水曜日16:00～17:30（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談）
評価方法	講義内での課題作成と評価指標のファイリング35%、評価に関わる最低限の実技テスト（バイタル チェックやROM・MMT計測など指定された項目）50%、実習の振り返りシートの作成15%、
教科書	大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院 障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版
参考書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き
実務者経験/アク ティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>□その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>
---------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	3単位(135)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。 ③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。 ④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。 ⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。</p>		
授業の概要	<p>学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>3週 臨床評価実習 学生は各自割り当てられた病院・施設にて臨床評価実習を実施してくる。</p>		
受講生に関する情報および受講のルール	<p>作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は別途、臨床実習の手引きに記載してある通り(実習全のオリエンテーションにて確認する)。</p>		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>各病院施設で指定された通り。</p>		
授業外時間にかかわる情報	<p>各病院施設で指定された通り(デイリーノートとケースノート、レジユメの作成)。</p>		
オフィスアワー	<p>各病院施設で指定された通り。</p>		
評価方法	<p>◆出席(出席時間数要件：4/5以上) ◆臨床実習評価(臨床実習の手引き参照)：70% ※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、 がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。 ◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30% 再受験の取り扱い：無</p>		
教科書	<p>群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き 大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院</p>		
参考書	<p>群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き</p>		
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。 アクティブラーニング要素</p>		

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)
- 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)
- 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	3単位(135)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。 ③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。 ④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。 ⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。</p>		
授業の概要	<p>学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	3週	臨床評価実習 学生は各自に割り当てられた病院・施設にて臨床評価実習を実施してくる。	
受講生に関する情報および受講のルール	<p>作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は別途、臨床実習の手引きに記載してある通り(実習全のオリエンテーションにて確認する)。</p>		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各病院施設で指定された通り		
授業外時間にかかわる情報	各病院施設で指定された通り(デイリーノートとケースノート、レジユメの作成)		
オフィスアワー	各病院施設で指定された通り		
評価方法	<p>◆出席(出席時間数要件：4/5以上) ◆臨床実習評価(臨床実習の手引き参照)：70% ※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、 がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。 ◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30% 再受験の取り扱い：無</p>		
教科書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業専攻 臨床実習の手引き 大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院		
参考書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業専攻 臨床実習の手引き		
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。 アクティブラーニング要素</p>		



- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)
- 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)
- 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
古田常人・高坂駿・野口直人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 事例を通して、根拠に基づく、作業療法実践プロセスを理解する。</p> <p>〔到達目標〕 1) 限られた情報・観察から対象者の基本能力・応用的能力を把握し、対象者に必要な絞った評価計画を立案できる。 2) 対象者の全体像を構造的に理解できる。 3) 対象者に必要な作業療法目標を設定し、具体的な作業療法計画を立案できる。</p>		
授業の概要	さまざまな領域・病期・生活をもった複数の対象者に対し、作業療法過程を模擬体験し、実践能力を高められる。特に、スクリーニングからの絞った評価、作業療法評価から得られる全体像の把握、作業療法計画立案を繰り返し体験し、作業療法の流れを考えられる力を身につける。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／事例A①評価計画立案 【key words】 評価計画、アセスメント、統合と解釈、焦点化、目標設定、治療計画立案 【授業概要】 オリエンテーション本事業の進め方について説明。 評価計画、評価結果の読み取り、全体像の把握と目標設定、目標に基づく治療方針と具体的な治療方法の検討の作業療法プロセスの確認する。資料を配布する。事例プロフィールを提示する。各グループで、事例Aについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Aの評価結果を提示する。 【教科書ページ・参考文献】 大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 事例A②評価・全体像の整理 【key words】 評価計画、アセスメント、統合と解釈 【授業概要】 事例Aの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び不足する評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第3回 事例A③目標設定 【key words】 焦点化、目標設定 【授業概要】 整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Aの長期目標と短期目標を設定する。 【教科書ページ・参考文献】 大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		

第4回	<p>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p> <p>事例A④治療計画  <b>【key words】</b>  治療計画立案  <b>【授業概要】</b>  事例Aにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p>
第5回	<p>事例A⑤発表  <b>【key words】</b>  プレゼンテーション、エビデンス  <b>【授業概要】</b>  各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  事例Bプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第6回	<p>事例B①評価計画立案  <b>【key words】</b>  評価計画、アセスメント  <b>【授業概要】</b>  各グループで、事例Bについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Bの評価結果を提示する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第7回	<p>事例B②評価・全体像の整理  <b>【key words】</b>  評価計画、アセスメント、統合と解釈  <b>【授業概要】</b>  事例Bの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足りない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第8回	<p>事例B③目標設定  <b>【key words】</b>  焦点化、目標設定  <b>【授業概要】</b>  整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分程度</p>
第9回	<p>事例B④治療計画  <b>【key words】</b>  治療計画立案  <b>【授業概要】</b>  事例Bにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分程度</p>
第10回	<p>事例B⑤発表  <b>【key words】</b>  プレゼンテーション、エビデンス  <b>【授業概要】</b>  各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発</p>

	<p>表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          事例Cプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>第11回 事例C①評価計画立案  <b>【key words】</b>          評価計画、アセスメント  <b>【授業概要】</b>          各グループで、事例Cについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Cの評価結果を提示する。</p> <p>第12回 事例C②評価・全体像の整理  <b>【key words】</b>          評価計画、アセスメント、統合と解釈  <b>【授業概要】</b>          事例Cの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足りない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>第13回 事例C③目標設定  <b>【key words】</b>          焦点化、目標設定  <b>【授業概要】</b>          整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>第14回 事例C④治療計画  <b>【key words】</b>          治療計画立案  <b>【授業概要】</b>          事例Cにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          60分程度</p> <p>第15回 事例C⑤発表／学んだことの振り返り  <b>【key words】</b>          プレゼンテーション、エビデンス  <b>【授業概要】</b>          各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          これまでの総括を行う。疑問点はそのままにせず積極的に質問し、解消すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<b>【受講生に関わる情報】</b> 教室指定をするので確認しておくこと。 <b>【受講のルール】</b> 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。
オフィスアワー	〔高坂〕木曜日16:00～17:00。その他の曜日においては要予約。 〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

	[野口] 月曜日17時～18時は随時。その他の曜日においては要予約。
評価方法	■発表 50% ■提出資料 50%
教科書	なし。随時資料を配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び各領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。適切な治療プログラムの選択ができるようになることを目的とする。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行うことを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①守秘義務について説明することができ、実行できる。 ②リスク管理について説明することができ、実行できる。 ③適切な治療プログラムを立案・実施できるようになる。 ④臨床総合実習における課題の整理と情報の共有を行い、作業療法における一連の過程の理解を深める。</p>
授業の概要	臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について再確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。事例を通して、治療プログラムの立案・実施について検討する。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行う。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／リスク管理・守秘義務について 【key words】 科目オリエンテーション、リスク管理、守秘義務 【授業概要】 臨床総合実習臨床総合実習の流れ、取り組み方について説明する。 臨床実習におけるリスク管理、守秘義務について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第2回 治療プログラム立案の基本的な考え方 【key words】 治療プログラム立案 【授業概要】 治療プログラムの立案、実施に関する基本的な考え方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の予習をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第3回 事例を通じた治療プログラムの実践 【key words】 治療プログラム立案、事例検討 【授業概要】 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
------	--

第4回	<p>事例検討治療プログラム立案180分 事例を通じた治療プログラムの実践</p> <p>【key words】 治療プログラム立案、事例検討</p> <p>【授業概要】 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 事例検討治療プログラム立案180分</p>
第5回	<p>事例を通じた治療プログラムの実践</p> <p>【key words】 治療プログラム立案、事例検討</p> <p>【授業概要】 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 事例検討治療プログラム立案180分</p>
第6回	<p>事例を通じた治療プログラムの実践</p> <p>【key words】 治療プログラム立案、事例検討</p> <p>【授業概要】 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討を通して、具体的な治療プログラムを立案する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 事例検討治療プログラム立案180分</p>
第7回	<p>臨床実習指導者会議に向けての心構え</p> <p>【key words】 臨床実習指導者会議、オリエンテーション</p> <p>【授業概要】 臨床実習指導者会議の中で、実習指導者と面談を実施する。そのための心構えと準備を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の手引きを確認すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>臨床総合実習Ⅰにおける心構え・準備</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅰ、オリエンテーション</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅰの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の手引きを確認すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>臨床総合実習Ⅰの課題整理①</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅰ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>臨床総合実習Ⅰの課題整理②</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅰ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>

第11回	<p>臨床総合実習Ⅰの課題整理③</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅰ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第12回	<p>臨床総合実習Ⅱにおける心構え・準備</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅱ、オリエンテーション</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅱの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の手引きを確認すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第13回	<p>臨床総合実習Ⅱの課題整理①</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅱ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第14回	<p>臨床総合実習Ⅱの課題整理②</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅱ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第15回	<p>臨床総合実習Ⅱの課題整理③</p> <p>【key words】 臨床総合実習Ⅱ、事例報告</p> <p>【授業概要】 臨床総合実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で経験した事例を報告書としてまとめておく。事例報告会で得られた他者の意見を参考に振り返りを行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 積極的に参加し、自ら情報を収集すること。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	・予習復習は欠かさないこと
オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	■ポートフォリオ100%
教科書	大野義一郎：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版. 三輪書店 里宇明元 監：自信がもてる！リハビリテーション臨床実習第1版. 医歯薬出版株式会社
実務者経験/アク ティブラーニング/	授業担当教員



リテラシー教育	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容      身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。      その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>
---------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表までを行う。</p> <p>〔到達目標〕 作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。また、各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。</p>		
授業の概要	作業療法セミナーや臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション 流れ、スケジュール卒業研究の流れと、スケジュールを確認する。	
	第2回	研究テーマの検討 研究テーマを検討する。	
	第3回	〃 卒業研究計画を立案し、申請書を提出する。	
	第4回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第5回	卒業研究計画の立案 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第6回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第7回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第8回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第9回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第10回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導) テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	
	第11回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。	

	第12回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。
	第13回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。
	第14回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。
	第15回	中間発表 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
	第16回	〃 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
	第17回	〃 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
	第18回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導） 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第19回	〃 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第20回	〃 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第21回	〃 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第22回	〃 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第23回	〃 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
	第24回	卒業研究発表会 研究としてまとめた成果を発表する。
	第25回	卒業研究発表会 研究としてまとめた成果を発表する。
	第26回	〃 研究としてまとめた成果を発表する。
	第27回	研究論文の最終調整 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
	第28回	〃 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
	第29回	〃 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
	第30回	〃 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（随時担当教員と相談のうえで進める）	
授業外時間にかかわる情報	本科目では、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。	
オフィスアワー	各教員に問い合わせること	
評価方法	「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。	
教科書	担当教員より随時指示	
参考書	担当教員より随時指示	
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない	

	<p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■情報モラルに関する教育</li><li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li>■情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
古田常人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 医療従事者としての管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的などの基本を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本作業療法士協会の定める倫理綱領を学び、遵守することができる。</li> <li>・医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。</li> <li>・作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。</li> <li>・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。</li> </ul>
授業の概要	多くの作業療法士は、その役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門として組織に所属する。組織を形成する一員としての基本的な考え方を学び、作業療法士として地域貢献する意味について理解する。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/医療倫理/倫理的ジレンマ① 管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1~2枚)。</p> <p>第2回 医療倫理/倫理的ジレンマ② 管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1~2枚)。</p> <p>第3回 職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動 日本作業療法士協会倫理綱領、及び職業倫理について説明する。また関連職種における倫理規定など紹介し、その必要性について考える。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第4回 職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動 日本作業療法士協会の歩みと現在の活動に関して、概要を説明。職能団体としての今後の在り方は議論する。随時資料を配布する。職能団体としての活動の必要性についてレポート提出(A4、1枚)。</p> <p>第5回 管理・運営総論① 管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、概要を説明し、そのあり方に関して議論を行う。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第6回 管理・運営総論② 管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、概要を説明し、そのあり方に関して議論を行う。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第7回 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など基本的な情報をについて、情報提供、及び学生自身が必要な情報収集を行い、情報を整理する。随時資料を配布する。理解や情報を整理するには難しい内容であるため、要点をまとめ確認しておくこと。</p> <p>第8回 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総</p>
------	--

	<p>合支援事業など          作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など基本的な情報をについて、情報提供、及び学生自身が必要な情報収集を行い、情報を整理する。随時資料を配布する。理解や情報を整理するには難しい内容であるため、要点をまとめ確認しておくこと。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講のルール]          ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。          ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。          ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	社会の中で、求められる作業療法士像は、刻々と変化してきている。その為、新聞やニュースなどの情報に常に目を光らせ、社会における医療・福祉の問題に興味、疑問を持ってほしい。
オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する） その他の曜日においては要予約
評価方法	レポート60%、発表40%
教科書	随時資料を配布する。
参考書	<p>杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論、協同医書出版          亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第2版、メジカルビュー社          里村恵子 編集： 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法概論 改訂第2版 メジカルビュー社 2015</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員          ■実務経験のある教員が担当している          具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input checked="" type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input checked="" type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ケーススタディーを通し、様々な作業療法手段を考え、目標に合わせた治療計画を立案することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。 ②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。 ③作業療法目標を具体的にあげることができる。 ④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。 ⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。</p>		
授業の概要	ケーススタディーを通し、対象者の目標に合わせた様々な作業療法手段を学びます。また、具体的な設定、かかわり方も学びます。		
■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係			
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ケーススタディー：評価計画立案 評価計画、評価ケースを提示し、その対象者に合わせた評価計画を立案する。各自の評価計画を他者に説明し、意見交換を行います。 課題：ケースノート作成・記録</p> <p>第2回 ケーススタディー：評価 評価結果、各種情報から問題点・利点をあげていきます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第3回 ケーススタディー：基本動作 座位姿勢における動作について学びます。また、座位姿勢保持のアプローチについて実技を通し学びます 課題：ケースノートに記録</p> <p>第4回 ケーススタディー：基本動作 立位姿勢における動作と移動動作について学びます。また、それぞれのアプローチについて実技を行います。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第5回 ケーススタディー：ADL動作 食事動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第6回 ケーススタディー：ADL動作 更衣動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第7回 ケーススタディー：ADL動作 排泄動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第8回 ケーススタディー：ADL動作 整容動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第9回 ケーススタディー：神経疾患 神経疾患のケースの各種情報を整理し、評価計画を立案します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第10回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの動作分析から評価計画について考えます。 課題：ケースノートに記録</p>		

	<p>第11回 ケーススタディー：神経疾患 各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第12回 ケーススタディー：神経疾患 各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第13回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第14回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。 課題：ケースノートに記録。発表用レジュメを作成し、事前に提出</p> <p>第15回 ケース発表、まとめ 各自でまとめたケースについて発表します。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	作業療法手段を体験することが多いため、動きやすく、触診しやすい服装で参加してください。ケーススタディーをグループまたは個人で行います。ケースノートを用意し、毎回提出してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	レポート100%
教科書	障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類. 国際障害分類改定版, 中央法規出版
参考書	川平和美：標準 理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第3版. 医学書院 岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
山口智晴			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 住宅改修のプランニングができるようになる、また建築に関連する知識を深め、作業療法の実践に活かすための知見を得ることができる。</p> <p>〔到達目標〕 ①住宅改修の手順を示すことができる。 ②家屋を計測し、図示できる。 ③基本的な改修方法を示すことができる。 ④基本的な改修プランを立案することができる。 ⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>障害を持っても住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修に必要な建築関連の基礎知識を学ぶとともに、具体的なプランを立案できるようになる。</p>

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/環境整備 【key words】 【授業概要】 住環境整備の意義社会の中での住宅、高齢社会の住環境のあり方、わが国の住宅事情 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書2～26ページ教科書の指定範囲を確認 【予習復習に必要な想定時間】 発表に向けた学習と指導 【key words】 【授業概要】 第3回～7回は学生によるプレゼンテーションを中心に学びを進める。そのため、まとめのポイントやプレゼンテーションの進行などについて要点を説明するプレゼン準備 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回</p> <p>第3回 介護保険制度における住環境整備 【key words】 【授業概要】 介護保険制度における住宅改修の基本と課題、福祉用具について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 教科書28～43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第4回 住環境整備の進め方と留意点 【key words】</p>
------	---

	<p>【授業概要】 住環境整備の流れや進め方における留意点などについて理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書46～78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】 第5回 建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮① 【key words】 建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方・みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書222～249ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】 第6回 建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮② 【key words】</p> <p>【授業概要】 建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方・みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書249～299ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】 第7回 住環境整備と建築関連法規 【key words】</p> <p>【授業概要】 集団規程による建築制限や単体規定による建築制限について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 教科書300～304 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼン準備 【予習復習に必要な想定時間】 第8回 住宅改修提案書_説明 【key words】</p> <p>【授業概要】 課題の説明指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第9回 住宅改修提案書_作成 【key words】</p> <p>【授業概要】 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第10回 住宅改修提案書_作成 【key words】</p> <p>【授業概要】 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回 住宅改修提案書_作成 【key words】</p> <p>【授業概要】 各自住宅改修提案書を作成する。別途指示課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
--	--

	<p>第12回 【予習復習に必要な想定時間】 住宅改修提案書_作成 【key words】</p> <p>【授業概要】 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第13回 【予習復習に必要な想定時間】 住宅改修提案プレゼンテーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第14回 【予習復習に必要な想定時間】 住宅改修提案プレゼンテーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第15回 【予習復習に必要な想定時間】 住宅改修提案プレゼンテーション、本科目のまとめ 【key words】</p> <p>【授業概要】 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジカメやスマホで撮影した写真データをパソコンに取り込み、加工ができる環境、電子メールのやり取りができる環境を準備すること。</li> <li>・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。基本的には個人やグループでの授業外課題も多く含まれるため、積極的な取り組みが求められる。
オフィスアワー	水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日においては要予約
評価方法	発表課題50%、提出課題50%
教科書	野村勲・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論. 第2版. 三輪書店
参考書	<p>木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備</p> <p>岡村英樹：OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本. 三輪書店</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、県内外の自治体における介護予防事業の実践をしてきた。また現在は、前橋市認知症初期集中支援チームのリーダー、自立支援型ケアマネジメント推進事業の群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会のNPO法人副理事長などを務めている。</p> <p>また、福祉住環境コーディネーター1級の資格を保持し、建築士や福祉用具販売業者等との交流経験もある。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>□実習、フィールドワーク</li> </ul>

<p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li><li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/> その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。 (1)施設全体の概要説明 組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。 (2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明 理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学(職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど)を行う。 (3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介 職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。 (4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。 (5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。 (6)ケース検討会議などへ見学・参加。 (7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。 (8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。 (9)実習担当教員の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。 (10)担当症例についてPPT資料にまとめ提出し発表する。 (11)毎日の学習成果として実習日誌と自己学習記録を記載し、実習担当教員に提出する。		
授業の概要	作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。		
■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	臨床実習	臨床総合実習 I 【key words】 【授業概要】 実習期間：5月下旬から8週間 2020年度は、感染拡大防止対策により、学外実習の代替手段として、学内で実習を行う。 学生は、以下の実習を通して、臨床総合実習 I の教育目標の達成を目指す。  1. 個別・グループ実習指導 評価実習で担当したケースをもとに、実習指導担当教員に助言を受けながら、作業療法評価過程の見直しや作業療法治療方法について、文献調査や意見交換等を実施する。適宜実習指導教員や臨床教員から講義・演習を通して不足した技能や知識を学ぶ。 2. 症例検討会 自己で学習した内容をクラス全員に対して発表をし、学生と意見交換、教員から助言を受け、その助言内容を反映し、ケースや一般事例に対する作業療法を体系的にまとめる。 3. 作業療法ケーススタディ 1, 2の学びの過程で得た知識を学生間で共有し、一般事例に対する作業療法の資料を作成する。  【教科書ページ・参考文献】  【課題・予習・復習・授業準備指示】	

【予習復習に必要な想定時間】	
受講生に関わる情報 および受講のルール	臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。 臨床実習の手引きを熟読すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。 実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。
授業外時間にかかわ る情報	臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。 実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。
オフィスアワー	担任および各実習担当の教員に適宜確認すること
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習指導担当教員（臨床実習の手引き参照）50% その他助言・指導に関わった教員（態度面、クリニカルリーズニングの状況）50% ※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。
教科書	特になし
参考書	特になし
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>□その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。 (1)施設全体の概要説明 組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。 (2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明 理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学(職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど)を行う。 (3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介 職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。 (4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。 (5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。 (6)ケース検討会議などへ見学・参加。 (7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。 (8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。 (9)実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。 (10)担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。 (11)事例報告としてレポートにまとめ提出する。		
授業の概要	作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。		
■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門の実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	臨床実習	臨床総合実習Ⅱ 【key words】 【授業概要】 実習期間：9月上旬から8週間 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】	
受講生に関わる情報および受講のルール	臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。 臨床実習の手引きを熟読すること。		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。 実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。		
授業外時間にかかわる情報	臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。 実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。		
オフィスアワー	担任および各実習担当の教員に適宜確認すること		
評価方法	出席(出席時間数要件：4/5以上) 臨床実習指導者評価(臨床実習の手引き参照)70%		

	<p>※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。 学内評価：発表30%</p>
教科書	特になし
参考書	特になし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
櫻井秀雄			
基礎科目	初級障がい者スポーツ指導員指 定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得することを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①障がい者スポーツの意味、特性、支援・援助方法を理解できる。 ②障がい区分に応じた基本的な支援・援助技法を身に身につけることができる。 ③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。</p>		
授業の概要	<p><b>【求められる指導者像】</b> ①障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。 ②プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。 ③地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。 ④中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなど自己研鑽を積むようにする。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			○
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			○
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ インテグリティ 資質・能力 【授業概要】 【授業概要】 スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレーヤーズファーストの視点やプレーヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本(初級・中級) p2～ 日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツの意義・理念について学んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 障がい者スポーツの意義と理念</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ 障がい者 意義 理念 【授業概要】 【授業概要】 障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>		

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p14～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】全国障がい者スポーツ大会について調べておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p> <p>全国障がい者スポーツ大会の概要</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者スポーツ大会 障がい者福祉法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】全国障がい者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p20～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障害のある人たちのグループ、行事等を調べておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>60分</p> <p>障がいの人との交流（第1回目）</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者 コミュニケーション</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p28～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>60分</p> <p>障がいの人との交流（第2回目）</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者 コミュニケーション</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p44～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>60分</p> <p>障がい者スポーツ推進の取り組み</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者スポーツ指導員 スポーツ基本法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】資格を取得したのちに、地域で行われている教室や大会へ積極的にかかわれるよう、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p54～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの振興についてまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>60分</p> <p>障がい者スポーツに関する諸施策</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者福祉法 スポーツ基本法 スポーツ振興計画 総合型地域スポーツクラブ</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】我が国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ振興計画など）について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】地域で行っている障がい者スポーツについて調べてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>60分</p> <p>安全管理</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】スポーツ 安全 救急法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p78～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

<p>第9回</p>	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】身近な活動場所を点検して安全性を確認してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 各障がいの理解：身体障害（肢体不自由） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p95～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第10回</p>	<p>60分 各障がいの理解：身体障がい（視覚障がい 聴覚障がい 内部障がい） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p115～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚・聴覚・内部障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第11回</p>	<p>60分 各障がいの理解：知的障がい 【key words】 【key words】 知的障がい 【授業概要】 【授業概要】 知的障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、知的障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p124～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知的障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第12回</p>	<p>60分 各障がいの理解：精神障がい 【key words】 【key words】 精神障がい 【授業概要】 【授業概要】 精神障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、精神障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p137～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第13回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点：（身体障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p146～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめを熟読しておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第14回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点（知的・精神障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p163～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめとともに整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>

	<p>第15回 まとめ：コミュニケーションスキルの基礎</p> <p>【key words】  【key words】 コミュニケーション  【授業概要】  【授業概要】 障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。  【教科書ページ・参考文献】  【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p171～日本障がい者スポーツ協会編  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツ指導員として学んだことをまとめておく。  【予習復習に必要な想定時間】  60分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講者に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。</li> <li>・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。</li> <li>・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。
オフィスアワー	講義終了後30分間 他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく
評価方法	筆記試験・レポート試験（70%） 実技試験（30%）の総合評価
教科書	日本障がい者スポーツ協会編：新盤障がい者スポーツ教本（初級・中級）：ぎょうせい：令和2年
参考書	井田朋宏：NO LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2019（年4回発刊）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐6年（生涯スポーツ、障がいスポーツ）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）群馬県社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障がい者スポーツ指導、障がい者スポーツ行政）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿・中山洋子・時田詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割について理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。</p>
授業の概要	<p>人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	△
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	△
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第2回	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>第3回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第4回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第5回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第6回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第7回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第8回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第9回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療現場における理学療法士の役割（浅野、小林）</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法士、リハビリテーション、役割</p> <p>【授業概要】</p> <p>セラピストの活躍の場は、医療、スポーツ、福祉など多岐にわたり求められるようになってきました。その中でも、理学療法士がどのような役割を担っており、実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料（当日に配布します）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第10回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>骨標本から学ぶ人体の構造と機能（浅野、小林）</p> <p>【key words】</p> <p>骨、コミュニケーション、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>理学療法士が知るべき基礎知識として解剖学が挙げられます。特に「骨」を理解することは、人体の構造を知るための基盤となります。第10回では、グループワークを通して「骨」を理解することに加え、医療現場にて必要となるコミュニケーションの重要性を学びます。</p>
--	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第11回 【予習復習に必要な想定時間】 作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション（高坂） 【key words】 リハビリテーション、作業、作業療法 【授業概要】 変わりゆく社会の中で、障害者を取り巻く生活環境や課題は年々変化しています。作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p> <p>第12回 臨床や地域における作業療法の実践（牛込） 【key words】 作業療法、治療・支援、実践 【授業概要】 作業療法の概要を学んだ上で、作業療法が対象者や社会の抱える課題に対して具体的にどのような取り組みや実践を行っているのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM_OT」、「OTのソゴ技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を2つ読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p> <p>第13回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第16回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりとすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。</li> <li>・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。</li> <li>・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわる情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。(100%)
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>各学部に所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>□プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>□情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>□情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>□その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
------------	--

授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成31年8月28日～9月7日
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係  
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回 研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回 研修先の概要(2) リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】

	<p>訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第3回 カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】</p> <p>【授業概要】 カナダの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第4回 手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて 【key words】</p> <p>【授業概要】 パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第5回 英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】</p> <p>【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】</p> <p>【授業概要】 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第7回 英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第8回 英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p>
--	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第9回 英語研修(5) 日常英会話 危機管理 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第10回 協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回 協定校での授業 会話、課外授業 Welcome &amp;Program Orientation 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation &amp; Tour 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第16回 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第17回 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第18回 協定校での授業 会話、課外授業 Farmer, s Market and Regina Down Town Tour</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第19回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第20回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Cul ture②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第21回 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of Sa s katoon &amp; Western Development Museum</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第22回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第23回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ②</p>

	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第24回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Canadian Mounted Police &amp; Government House</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第25回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第26回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第27回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Kayaking on Wascana &amp; Barbeque wiyh U of R students</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第28回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Program Closing Ceremony</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第29回	<p>研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第30回	<p>2時間 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。</p> <p>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。</p> <p>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p> <p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい</p> <p>⑦本講義は10人以上により開講する</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦・小林洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院）にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成32年3月15日～3月23日

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回 研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 (群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル 【教科書ページ・参考文献】  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【予習復習に必要な想定時間】
	第2回 研修先の概要(2) アレリアノ大学についての概要 【key words】  【授業概要】 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート

	<p>取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第3回	<p>フィリピン研究(1) 世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】</p> <p>【授業概要】 フィリピンの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要となる諸手続きについて 【key words】</p> <p>【授業概要】 パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療福祉研修(1) ボランティア先での注意事項 【key words】</p> <p>【授業概要】 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療福祉研修(2) ボランティア先でのレクリエーション企画について 【key words】</p> <p>【授業概要】 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】</p> <p>【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(3) 医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション 【key words】</p> <p>【授業概要】</p>



	<p>研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学 医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第16回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Rehabilitative therapies リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第18回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Adult day care services 高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第19回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation 身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第20回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation therapiesを訪問し リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第21回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>第24回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第25回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第26回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第27回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第28回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第29回 研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】 【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第30回 研修成果 報告会（まとめとふりかえり） 【key words】 【授業概要】 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p>

	<p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥本講義は10人以上により</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[ 授業の目的 ]</p> <p>人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。          ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。          ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。          ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。          ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。          ⑥骨の連結</p>
授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語</p> <p>【key words】</p> <p>正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc授業の進め方、復習の仕方を説明。          人体の部位名等を説明。          【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>トレーニングノート 身体の断面、上肢、下肢の暗記          【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 骨格系-1 上肢の骨</p> <p>【key words】</p> <p>・骨の構造と機能          ・上肢帯の骨について          【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>トレーニングノート 鎖骨、肩甲骨の関節部や筋の付着部の名称の暗記          【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	--

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-2 上肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・上腕骨、尺骨、橈骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上腕骨、前腕の骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-3 骨盤、下肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭 【key words】 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成 【key words】 胸部の構造、椎骨の構造 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 椎骨の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結 【key words】 関節の構造と種類、筋の構造と種類について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 関節の構造と種類、筋の構造と種類の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-2 体幹の筋、胸部の筋 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 脊柱起立筋、肩関節の構造と作用について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 浅背筋群、脊柱起立筋、肩関節の構造の暗記</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第11回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第12回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第13回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 骨盤、下肢の骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 骨盤、下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第14回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について 【key words】 下肢の筋、下肢の連結と運動について、試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第15回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-9 まとめ、試験について 【key words】 前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。</li> <li>・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。</li> </ul> <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。</li> <li>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。</li> <li>・授業の流れや雰囲気乱</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院</li> <li>・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社</li> <li>・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂</li> <li>・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論</li> <li>・運動器系 坂井 建雄 (著) 医学書院</li> <li>・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社</li> </ul>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>① 内臓器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>		
授業の概要	<p>生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 生命現象と人体①</p> <p>【key words】 組織と細胞、エネルギー産生</p> <p>【授業概要】 生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 1-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 生命現象と人体②</p> <p>【key words】 細胞内液と細胞外液、浸透圧、細胞膜タンパク質、DNAとRNA</p> <p>【授業概要】 水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>		

第3回	<p>8-16  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            60分            細胞の構造と機能  <b>【key words】</b>            細胞小器官、静止電位と活動電位  <b>【授業概要】</b>            細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第4回	<p>15-19  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            90分            神経の興奮伝導と末梢神経①  <b>【key words】</b>            神経細胞の構造、興奮の伝導、末梢神経の種類  <b>【授業概要】</b>            神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第5回	<p>21-24  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            90分            神経の興奮伝導と末梢神経②  <b>【key words】</b>            自律神経、シナプス、神経伝達物質  <b>【授業概要】</b>            自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第6回	<p>24-30  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            120分            中枢神経系①  <b>【key words】</b>            自律神経、神経核、脊髄反射、伸張反射  <b>【授業概要】</b>            中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第7回	<p>33-39  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            120分            中枢神経系②  <b>【key words】</b>            小脳、間脳、大脳皮質と各種中枢  <b>【授業概要】</b>            小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第8回	<p>40-45  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            90分            中枢神経系③  <b>【key words】</b>            学習、記憶、睡眠  <b>【授業概要】</b>            脳の高次機能についての講義・解説を行う。            教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>

第9回	<p>90分  中枢神経系④  【key words】  大脳辺縁系、脳脊髄液、血液脳関門  【授業概要】  大脳基底核と脳梁、辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  45-49  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>60分  筋と骨①  【key words】  興奮収縮連関、筋の収縮メカニズム、骨格筋収縮の種類  【授業概要】  筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  53-60  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>120分  筋と骨②  【key words】  筋紡錘とGolgi腱器官、心筋、骨  【授業概要】  平滑筋、骨についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  60-67  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>90分  感覚①  【key words】  感覚、視覚  【授業概要】  感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  71-77  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>90分  感覚②  【key words】  視覚、聴覚、嗅覚、味覚  【授業概要】  内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  77-83  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>90分  血液①  【key words】  赤血球、白血球  【授業概要】  血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  86-95  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>90分  血液②  【key words】  止血、膠質浸透圧、血液型</p>

	<p>【授業概要】  血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。  教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。  【教科書ページ・参考文献】  95-99  【課題・予習・復習・授業準備指示】  毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること  【予習復習に必要な想定時間】  90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕  ・予習復習は必ず行うこと。  〔受講のルール〕  ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。  ・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールによる質疑であれば随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員  <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している  具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/>グループワーク  <input type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
多田真和			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 将来、医師、看護師、薬剤師等の専門職と協同でチーム医療をおこなうにあたり、医療従事者として共通の幅広い医学および医療の知識を備えておく必要があります。本講義では、医学の歴史、近代医学の発展と医の倫理、人体の構造と機能、主要な疾患とその対応、医療保障制度、医療施設の種類の現状、保健医療対策、医療にまつわる法規等について広く解説します。</p> <p>〔到達目標〕 チーム医療において理学療法士、作業療法士として果たすべき役割およびその重要性が理解できることを目標の一つとします。また、医療従事者として、患者さんや医療チームの構成員からも尊敬されるような人間性、倫理観が身につけられることを目標とします。</p>
授業の概要	<p>将来、チーム医療を実践していく皆さんにとって必要な医学および医療の幅広い知識を、できる限りわかりやすく、平易に解説します。皆さんが将来遭遇する可能性が高い疾患については、その解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、疾患および障害が生じるメカニズム、さらに基本的な治療法およびその予後について解説します。1年次で並行して学ぶ、解剖学、生理学、生化学等の講義と並行して学習することで、より深い理解が得られるよう配慮します。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>オリエンテーション、医学の定義とその使命 (第1章)</p> <p>【key words】 医学の定義、医学の使命</p> <p>【授業概要】 初めにあたり、授業のオリエンテーションを行います。また、「医学とは何か」「医学の使命」について解説します。将来必ず必要となる生命倫理および医学倫理について熟考していきます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p.1 - p.4</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
	第2回	<p>医学の歴史 (第2章)、近代医学の発展と医の倫理 (第3章)</p> <p>【key words】 医学の歴史、近代医学、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、脳死、尊厳死</p> <p>【授業概要】 「近代医学への道程」「ヒポクラテスの誓い」「20世紀・21世紀の医学」について、さらに「ヘルシンキ宣言」「インフォームドコンセント」「脳死」および「尊厳死」をとり上げ解説しま</p>

	す。 【教科書ページ・参考文献】 p. 5 - p. 13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
第3回	人体の構造と機能 I (第4章)・・・細胞、骨・筋肉、血液、循環器系、呼吸器系 【key words】 細胞、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器 【授業概要】 人体の構造の基本単位である「細胞」、そして「骨」「筋肉」「血液」について解説します。さらに心臓、血管系およびリンパ系からなる「循環器系」を学び、「呼吸器系」では、気道、肺、胸郭・横隔膜の解剖に加え、呼吸運動について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 14 - p. 27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第4回	人体の構造と機能 II (第4章)・・・消化器系、泌尿器系、内分泌とホルモン、神経系、生殖器系、皮膚、感覚器 【key words】 消化器、泌尿器、内分泌、ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器 【授業概要】 口腔にはじまり、食道、胃、小腸、大腸までの消化管に加え、肝臓、胆道系および膵臓で構成される「消化器系」の解剖学的構造、さらに生理学的メカニズムについて解説します。また、「泌尿器系」「内分泌系」「神経系」「生殖器系」「皮膚」および眼、耳の「感覚器」について、その解剖学的構造および生理学的メカニズムを解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 27 - p. 44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第5回	臨床医学総論 I (第5章)・・・主要症状からその原因を探る 【key words】 発熱、ショック、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難、胸痛 【授業概要】 臨床の場で多くみられる、「発熱」「ショック」「浮腫」「悪心」「嘔吐」「下痢」「便秘」「腹痛」「食欲不振」「呼吸困難」および「胸痛」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 45 - p. 54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第6回	臨床医学総論 II (第5章)・・・主要症状からその原因を探る 【key words】 頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿障害、咳、咯血・血痰、吐血、動悸 【授業概要】 臨床の場で多くみられる、「頭痛」「めまい」「運動麻痺」「不随意運動」「排尿障害」「咳」「咯血・血痰」「吐血」および「動悸」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 55 - p. 60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第7回	臨床医学各論 I (第6章)・・・呼吸器疾患、循環器疾患 【key words】 呼吸器疾患、循環器疾患 【授業概要】 日常の臨床の場でみられる、代表的な呼吸器および循環器に生じる疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 61 - p. 68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第8回	臨床医学各論 II (第6章)・・・消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患 【key words】 消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、泌尿器疾患 【授業概要】 日常の臨床の場でみられる代表的な消化器に生じる疾患、糖尿病、脂質異常症をはじめとする代

	<p>謝・内分泌疾患、さらに腎臓および泌尿器に生じる代表的な疾患について解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 68 - p. 76  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60-90分</p>
第9回	<p>臨床医学各論 III (第6章)・・・血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患  <b>【key words】</b>  血液疾患、造血器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患  <b>【授業概要】</b>  鉄欠乏性疾患をはじめとする血液疾患、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等の神経疾患、さらに、統合失調症、双極性障害等の精神疾患について解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 76 - p. 83  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60-90分</p>
第10回	<p>臨床医学各論 IV (第6章)・・・アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患  <b>【key words】</b>  アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患  <b>【授業概要】</b>  薬物アレルギー、アレルギー性鼻炎等のアレルギー疾患、関節リウマチ、シェーグレン症候群等の膠原病、食中毒、破傷風等の感染症、さらに一酸化炭素中毒、フグ中等の中毒疾患について解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 83 - p. 90  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60-90分</p>
第11回	<p>臨床医学各論 V (第6章)・・・運動器疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患  <b>【key words】</b>  運動器疾患、皮膚疾患、婦人科疾患、妊産婦疾患  <b>【授業概要】</b>  日常の臨床の場で多くみられる腰痛症、変形性膝関節症等の運動器疾患、アトピー性疾患、蕁麻疹および熱傷等の皮膚疾患、さらに更年期障害、子宮筋腫等の婦人科・妊産婦疾患について解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 91 - p. 101  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60-90分</p>
第12回	<p>臨床医学各論 VI (第6章)・・・小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム  <b>【key words】</b>  小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム  <b>【授業概要】</b>  小児にみられる疾患、眼精疲労、緑内障等の眼疾患、メニエール病、突発性難聴等の耳鼻咽喉疾患、さらにメタボリックシンドロームについて解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 102 - p. 113  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60-90分</p>
第13回	<p>人口統計と疾病の変化(第7章)、健康状態と受療状況(第8章)、医療保障制度(第9章)  <b>【key words】</b>  人口動態、世界の人口、人口動態、社会保障制度、医療保障、医療保険、老人医療、介護保険制度、国民医療費  <b>【授業概要】</b>  さまざまな保健衛生事業を効率よく実施するために必要な人口統計、さらに医療保障制度、社会保障制度として医療保険、老人医療、介護保険制度そして国民医療費について解説します。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p. 114 - p. 135  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p>
第14回	<p>医療関係の職種(第10章)、医療施設の種類(第11章)、保健医療対策(第12章)、医師法・薬事法・衛生法規(第13章)  <b>【key words】</b>  医療関係の職種、医療施設の種類、保健医療対策、医師法、薬事法、衛生法規  <b>【授業概要】</b></p>

	<p>将来チーム医療を協同して行う医師、歯科医師、看護師等の医療職について解説します。また、病院、診療所等の医療施設について学び、さらに保健医療対策、医療にまつわる法規についても解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 136 - p. 183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 総まとめ、国家試験対策 【key words】</p> <p>【授業概要】 第14回までの授業で学んだ内容を、問題を解き解説する形式で総復習します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 1 - p. 183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回までに学んできた内容の総復習を行います。同時に定期試験対策にもなりますので、知識を確かなものとするよう、自身が修得できていない部分を明らかにして授業に臨んで下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配慮してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>前もってテキストの該当する範囲を熟読し、自身がわかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに知識を深められるよう解説していきます。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業終了後の30-60分ほど対応可能です。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記による期末試験（80点満点）に加え、学期中に行う2回の小テスト（10点 x 2回）の合計で、成績評価を行います。小テストについては、再試験は行いません。各試験は選択方式で、授業範囲内の過去の国家試験問題をもとに作成されます。</p>
<p>教科書</p>	<p>医学概論 改訂6版（中外医学社）</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜紹介します。</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>かつて大学病院にて臨床医学および基礎医学研究に、医師として携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学に携わっています。また、介護保険施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。さらに、産業医として、一般企業で働く方に対する健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わり、また健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。 ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。 ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。 ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。</p>
授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり 【key words】 中枢神経、脳神経、脊髄神経、etc神経系と筋系との関わりについて配布プリント神経のしくみと働きの図の理解・暗記 【授業概要】  【教科書ページ・参考文献】  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造 【key words】 中枢神経の全体的な構造について 【授業概要】  【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳葉の名称、大脳皮質にある機能局在の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】  【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造</p>
------	---

	<p>【key words】 中枢神経の全体的な構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳大脳基底核・大脳辺縁系の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 大脳核、脳幹の構造について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 感覚系の上行路、運動系の下行路の復習 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝</p> <p>【key words】 脊髄神経の構造とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート ベル・マジヤンディーの法則、脊髄神経叢の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝</p> <p>【key words】 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋</p> <p>【key words】 腕神経叢の枝と支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝、支配筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ</p> <p>【key words】 腰神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p181 - 183大腿神経、閉鎖神経、伏在神経の暗記 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋</p> <p>【key words】 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上殿神経、下殿神経、坐骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋</p>

	<p>【key words】 坐骨神経の枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脛骨神経、内側足底神経、外側足底神経、総腓骨神経、浅腓骨神経、深腓骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第12回 脊髄神経-8 仙骨神経叢の構造とその枝、支配筋 【key words】 肋間神経の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 皮節 (T5、T7、T10) の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第13回 脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋 【key words】 脳神経について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳神経の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第14回 脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ 【key words】 自律神経（交感神経、副交感神経）について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 自律神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第15回 脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強 【key words】 試験勉強について講義内容すべて試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。</li> <li>・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。</li> </ul> <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。</li> <li>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。</li> <li>・授業の流れや雰囲気を乱</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院</li> <li>・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂</li> <li>・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂</li> <li>・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版</li> <li>・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院</li> <li>・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社</li> </ul>

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>		
授業の概要	<p>生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 心臓と循環① 【key words】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図 【授業概要】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 102-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第2回 心臓と循環② 【key words】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性 【授業概要】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 109-114 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		

第3回	<p>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>心臓と循環③ 【key words】 血圧の調節、圧受容器反射、微小循環 【授業概要】 心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 117-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第4回	<p>心臓と循環④ 【key words】 静脈還流、ポンプ作用 【授業概要】 静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 123-127 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第5回	<p>呼吸とガスの運搬 ① 【key words】 ガス交換、呼吸筋 【授業概要】 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 131-135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>呼吸とガスの運搬 ② 【key words】 呼吸気量、ガス交換 【授業概要】 呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 135-139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>呼吸とガスの運搬 ③ 【key words】 呼吸の調節、病的呼吸 【授業概要】 呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 138-142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第8回	<p>尿の生成と排泄① 【key words】 尿の生成、クレアチニンクリアランス 【授業概要】 腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 144-145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第9回	<p>尿の生成と排泄②、酸塩基平衡 【key words】 排尿と排尿障害、アシドーシスとアルカローシス 【授業概要】 排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 150-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 消化と吸収① 【key words】 嚥下、胃による消化 【授業概要】 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 消化と吸収②、内分泌① 【key words】 各消化器と消化酵素、ホルモンの作用 【授業概要】 十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割、内分泌機能とホルモンについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 164-173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 内分泌② 【key words】 負・正のフィードバック、神経内分泌、内分泌腺とホルモンおよびその異常 【授業概要】 各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 173-181 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 内分泌③、代謝と体温① 【key words】 電解質コルチコイド、糖質コルチコイド、3大栄養素 【授業概要】 内分泌腺とホルモンおよびその異常、栄養素、エネルギー代謝 について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 181-190 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 代謝と体温① 生殖と発生 【key words】 基礎代謝量と代謝等量、体温の調節 【授業概要】 体温、男性生殖機能、女性生殖機能、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 192-198 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 成長と老化、運動生理 【key words】 筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果 【授業概要】 受精、着床、胎児の発生、成長と老化、筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化 について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 200-211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習は必ず行うこと。</p>

	<p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・出席時間厳守</li> <li>・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールにて随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹一男			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。 〔到達目標〕 ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。 ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。 ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。
授業の概要	実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回 血圧測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回 実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回 心電図の測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	<p>エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の实習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業前後10分程度
評価方法	実習レポート30% 期末レポート試験70%
教科書	生理学の講義で使用する教科書を持参すること
参考書	その都度指示する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>□ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>□プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<p>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
榊原清			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。 ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。 ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。 ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。</p>		
授業の概要	ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、人間発達の概念 【key words】 発達概念・発達と成長・ライフステージ・胎芽と胎児 【授業概要】 人間発達期の区分、発達の原則について学ぶ。 人体の不思議「生命誕生」の映像を観て、胎芽期から胎児期の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p1-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、ポケットファイルに綴じてくること。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行うのでしっかりと聴講すること。 人間発達期の区分、発達の原則について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 胎芽期から胎児期の発達過程、反射、神経系の発達 【key words】 胎生期・胚芽期・胎芽期・胎児期 【授業概要】 受精から出生までの成長・発達の流れについて学ぶ。</p>		

	<p>胎生期の発達状況と出生後の発達との関係について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p11-12  配布資料「受精から出生まで」  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  p11-12の表5. 胎児の発達過程について予習しておくこと。  授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p> <p>第3回  新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達  <b>【key words】</b>  新生児期・乳児期・正常運動発達・原始反射</p> <p><b>【授業概要】</b>  新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p77-88、p89-103  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書p77-103に目を通し、腹臥位の発達の流れについてイメージしておくこと。  授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p> <p>第4回  乳児期の発達、反射、神経系の発達、出生後の成長  <b>【key words】</b>  乳児期・正常運動発達・原始反射反応  <b>【授業概要】</b>  乳児期（7か月～12か月）の粗大運動の正常発達、原始反射・反応の関係について学ぶ。  出生後の身長、体重、頭囲、歯の成長について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p105-126、p127-137、p139-149  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書p105-149に目を通し、腹臥位から立位までの発達の流れについてイメージしておくこと。  次回の授業の始まりに今回の授業内容の確認小テストを行うので復習しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第5回  姿勢反射／反応  <b>【key words】</b>  原始反射・姿勢反射／反応・出現／消失（統合）  <b>【授業概要】</b>  神経系の成熟と姿勢反射／反応の発達、および運動発達との関連について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p61-76  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。  p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中樞レベルと出現・消失（統合）時期について目を通して  おくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第6回  姿勢反射／反応の復習、上肢機能の発達  <b>【key words】</b>  目と手の協調性・リーチ・握り・つまみ  <b>【授業概要】</b>  前回の授業の確認小テストを行い、理解を深める。  上肢機能の役割を理解し、手指が効果的に作用するための要素について学ぶ。  リーチ、握り、つまみ動作の発達とものの操作、目と手の協調性との関連について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p163-175  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書p163-175に目を通し、上肢機能の発達の流れについてイメージしておくこと。  授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分</p> <p>第7回  感覚・知覚・認知・社会性の発達  <b>【key words】</b>  感覚・知覚・認知・社会性  <b>【授業概要】</b>  感覚・知覚・認知・社会性の発達について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  p201-210  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書p201-210に目を通して  授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p> <p>第8回  学童期・青年期・成人期・高齢期の発達  <b>【key words】</b>  学童期・青年期・成人期・高齢期  <b>【授業概要】</b></p>
--	--

	<p>学童期・青年期における行動について学ぶ。          青年期、成人期、高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。          高齢期では、加齢の影響を受けやすいばかりでなく、受けにくい機能もあることを学ぶ。          ヒトは生涯発達する生き物であることを学ぶ。          期末試験対策について説明する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          p211-236  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          教科書p211-236に目を通してくること。          授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、ノート、配布資料を綴じたファイルを持参すること。</li> <li>・配布資料はポケットファイル（20p）に整理して綴じ込むこと。</li> <li>・欠席した場合は、出校後速やかに、授業内容の確認、配布資料の受け取りに来ること。</li> <li>・授業の進行を妨げる行為、雰囲気乱す行為、常識を欠く行為は厳禁。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントシート方式、確認小テスト
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後の時間、または次の授業の初めの時間に確認小テストをするため、授業内容の復習をしておくこと。</li> <li>・次の回の授業内容の教科書の該当ページを読んで授業の臨むこと。</li> <li>・自身の小さい頃（0歳～1歳）の写真を探しておいてください。</li> </ul>
オフィスアワー	授業終了後
評価方法	筆記試験100%
教科書	上杉雅之監修：イラストでわかる人間発達学。医歯薬出版。2015
参考書	福田恵美子編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 2版。中外医学社。2012 細田多穂監修：小児理学療法学テキスト。南江堂。2018 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p> <p>発達段階の様子を示した映像・画像を用いた授業を展開します。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本広信			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。</li> <li>・集団としての人というより、一人ひとり独自の存在として生きる個人が出会う心の問題に対する見方を学ぶ。</li> <li>・心の健康を阻害する問題を多面的に理解し、その対処のあり方の基本を理解することを目的とする。</li> </ul> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①代表的な心理療法の理論と実際についてその基礎を理解できる。</li> <li>②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。</li> <li>③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。</li> </ol>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。</li> <li>・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスへを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。</li> <li>・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。</li> </ul>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係  ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 「心の臨床に立つ」ということを考える：科目オリエンテーション</p> <p><b>【key words】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理療法のモデル、臨床、死生学</li> </ul> <p><b>【授業概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨床」という言葉を手掛かりにして、解決に向かう答えが簡単に得られない問題と向かいあう人の心をどう受け止めていくのか。臨床心理学の誕生の経緯とその基本的な考え方について解説する。グループワークも実施しながら、言葉の奥にある「心の声」を聴く必要性について理解する。これらを通して、これから学ぶ「臨床心理学」の特殊な面や、セラピスト(臨床に関わるすべての人)に共通に求められる資質や態度を概観する。</li> </ul> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>教科書1-13頁</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p>答えの出ない問題の例として「結婚前夜に交通事故で婚約者を失い“うつ病”と診断された人が、あなたに「なぜ私の婚約者は死ななければならなかったのでしょうか？」と質問した時の答え</p>



第2回	<p>を考えておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習2時間、復習2時間</p> <p>リハビリ患者の心理① 患者の手記、闘病記を通して知るリハビリ患者の心理  <b>【key words】</b>  リハビリ体験記、患者の手記、闘病記、ストレス尺度、人生コース図 等</p> <p><b>【授業概要】</b>  たくさんの心理療法の理論を学ぶまえに、実際にリハビリを必要とした患者の心理について本を通して触れることで、リハビリ患者の抱える心の課題について考えを深めたい。患者となった日から、一人ひとりが様々な過程を経ながら、人生と生活と命のあり方を見つめ、生き方の再構築をしている。そうした患者の具体的な体験を通して、リハビリ患者の心理を学ぶ視野を広げる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  <b>【参考文献】</b>山崎明夫(2016)『にほんごがこんなふうにもえたのよ!』(株QOLサービス)、千秋実(1979)、『生きるなり』(文芸春秋)、池ノ上寛太(2009)『リハビリの結果と責任』(三輪書店)等  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  参考文献として挙げたもの以外にも、ネット等でリハビリを必要とする患者となった方々の手記、体験記録があるので、一人の方を選んで、印刷しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p>
第3回	<p>リハビリ患者の心理② 障害受容をするということは、どういうこと?  <b>【key words】</b>  ・障害受容、キューブラ・ロス、受容の5段階</p> <p><b>【授業概要】</b>  障害受容の基本原則を確認したのちに、病や事故によりリハビリを必要とする体験をもった患者の方々の本音が書かれた本を通して、障害を受容するということは、どういうことかについてグループワークを通して深めていく。臨床心理学の冒頭でリハビリ患者の心理と障害受容について学びながら、その後の心理療法の理解の前提となる、人の苦悩のあり方について理解を深めていく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  田島明子編著(2015)『障害受容からの自由』(シービーアール)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  あらかじめ、田島明子の論文をネットで検索し、目を通しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p>
第4回	<p>患者の心の状態をどのように理解するのか? : 知能検査と心理検査  <b>【key words】</b>  ・知能検査、人格検査、質問紙法検査、作業検査法、投影法検査</p> <p><b>【授業概要】</b>  心は目に見えるものではなく、行動や態度、表情や語りを通して理解することしかできないものである。そうした前提に立ちながらも、現状を把握したり、状況の変化を見極めるには心を客観的に理解する手掛かりが必要となる。ここでは、心理療法の前提となる各種検査について、代表的な知能検査やパーソナリティ検査を紹介する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料、スライド等  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  国家試験問題として頻出テーマである知能検査とパーソナリティ検査を学ぶため、事前に国家試験問題の過去問のうち、検査を扱ったものに目を通しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p>
第5回	<p>身につけてしまった行動を変えることで心と生活を回復を目指す: 学習理論と行動療法  <b>【key words】</b>  レスポネント条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論、系統的脱感作法(ウォルビ)、不安階層表、フラッディング法、オペラント法、モデリング</p> <p><b>【授業概要】</b>  ・今回から、具体的にどのように心の問題に対処するとよいのかという課題の解決のために、各種の心理療法を学んでいく。まず、教科書とは順序を変えて、学習理論を基礎とした行動療法について学ぶ。悩みや問題の背景には、不適応的な形で身につけてしまった行動があると仮定し、適応的な行動を再学習して問題の解消を目指すやり方を理解する。さらに、それで解決する問題と解決しない問題があることも考えていく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書106-118頁  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  行動療法を支える、リラクゼーション方法について、自習しておくこと。「自律訓練法」「漸進的筋弛緩法」教科書119-128頁は各自で学習しておくこと。テスト範囲に含める。</p>
第6回	<p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p> <p>認知行動療法: 「思い込み」を修正すると何がかわるのか  <b>【key words】</b>  ・ベック、抑うつ尺度、エリスの論理情動療法(RET、REBT)、ベックの認知療法、マイケンバウムの自己教示訓練</p> <p><b>【授業概要】</b>  ・人生で出会う辛く苦しい出来事や不適応状況に対し、それを捉える認知過程に着目して適応的対処が出来るようになることを目指す心理療法として、認知行動療法(CBT)について学習する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書129-146頁</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ※国試頻出テーマのため、過去問参考書を図書館で見たりネットで調べ、行動療法、認知行動療法に関する問題がどのように出ているかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第7回 ロジャーズの人格理論とクライエント中心療法</p> <p>【key words】 カール・ロジャーズ、自己実現傾向、自己論、純粋性、受容、共感的理解、ポーターの態度分析</p> <p>【授業概要】 現代の「カウンセリング」の生みの親ともいべきロジャーズが提唱した心理療法の基礎を学ぶ。本来人は、ただ苦しみ悩むだけの弱い存在ではなく、すべての人に「自己実現への動機」に向かう強い心が備わっているという基本的な考え方の意義をしっかりと理解する。また、彼が提唱した相談やカウンセリングなど対人的な臨床場面での重要な基本原理を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書83-97頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、ロジャーズが提唱した来談者中心療法について調べておくこと。特に、実際のカウンセリング場面でのどのような「態度」をとるべきかについて、一つは答えられるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
	<p>第8回 森田療法・内観療法：日本的な発想に基づく心理療法を学ぶ</p> <p>【key words】 ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動</p> <p>【授業概要】 ・二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。 ・時として人は、自分の中から生じる「不安」や何らかの「身体症状」にとらわれてしまうことがある。原因がはっきりとしなくても、なぜか自分を認められなくなったり、満たされない思いに振り回されて生きてしまうこともある。こんな、生きづらい状態からどうしたら逃れられるのか。今回は、こうした問題に正面から独自に取り組んだ二人の日本人と彼らから生まれた心理療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書178-194頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題として、この授業の前にワークシートを配布するので、それに沿って「想定書簡法」などを実施し、ワークシートを記入し提出できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第9回 フロイトが発見した意識できなこころ（無意識）とは？：精神分析の理論と技法</p> <p>【key words】 フロイト、催眠、ヒステリー、意識、前意識、無意識、心理的発達理論、防衛機制</p> <p>【授業概要】 20世紀初頭に臨床体験を通して「無意識」を発見することで、人とその心の見方をがらりと変えたフロイトの心の見方をまず確認し、それがなぜ重要な意味をもつのかを考える。さらに彼がその後展開した「心理-性的発達段階説」や「心の構造論」について解説を加え、意識、前意識、無意識など、ヒトの心を理解する上で重要な概念を理解する。さらに、人が自らの心を気づかないうちに守ろうとする防衛機制について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書14-31頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジグムント・フロイトと精神分析の基本原則、さらに「防衛機制」についてあらかじめ調べておくこと。特に「防衛機制」は一つ以上、人にある程度説明できるように準備しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第10回 人間関係の中に現れる心の癖を分析する：交流分析</p> <p>【key words】 バーン、デュセイ、自我状態、エゴグラム、ゲーム分析、シナリオ分析</p> <p>【授業概要】 ・フロイトに影響を受けたエリック・バーンにより創始された「交流分析」について学ぶ。代表的な技法である「エゴグラム」だけではなく、バーンが考えた、個人の成長と変容を引き出すシステムティックアプローチ全体を概観する。特に、人それぞれに癖のあるコミュニケーションの中に現れる心のパターンに気づき、注意を払うことで、よりよいコミュニケーションができるという彼の考え方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書67-82頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめエゴグラムの課題（ワークシート）を課すので、実施してくること。課題として提出予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第11回 フロイト以後の無意識の探究①：C. G. ユングと分析心理学を中心に</p> <p>【key words】 アドラー、ライフスタイル、権力への意志、ユング、個人的無意識、普遍的無意識、元型、個性化</p> <p>【授業概要】 フロイトにより開かれた「無意識の心理学」（精神分析）は多様な心理療法を生み出すもととなった。今回は、フロイト理論を修正しながら、独自の無意識とパーソナリティの考え方に基づいて、壮大な人の成長と発達の理論を構築したユングに注目する。彼の無意識と意識の考え方の基本と「個性化」の過程は難しいものだが、現在の心理臨床の基本ともなっているため、予習を</p>

	<p>してよく理解してもらいたい。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書46-55頁  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習としてユングに関する本として、「河合隼雄」の書いた本を一冊読んでおくことが望ましい。図書館などを利用し、早めに読んでおくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p> <p>第12回  フロイト以後の無意識の探究②：フロイト理論の発展と修正、心の中に作られるイメージとしての親  <b>【key words】</b>  ・メラニー・クライン、ウィニコット、妄想一分裂ポジション、抑うつポジション、移行対象、スクイグル、スクリブル  <b>【授業概要】</b>  ・イギリスにおいて発達した、クラインとウィニコットの対象関係理論を中心に解説する。言葉以前のイメージの世界を理解することが中心の難解な理論になるので、あらかじめネットなどで予習をしておくこと。また、現在大きな問題となっている「パーソナリティ障害」に関連し、母子関係と愛着の問題が引き起こす愛着障害に重点を置いて、親子の問題がいかに重要かを理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書56-66頁  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ネットや本などで、メラニー・クライン、ウィニコットについて予習をしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習3時間、復習1時間</p> <p>第13回  うまく機能しない家族がもたらした心の問題とそこから回復：家族療法  <b>【key words】</b>  I P、リフレミング、ブリーフセラピー、家族システム、構造派家族療法、戦略派家族療法、解決志向短期療法  <b>【授業概要】</b>  ・人は家族の中に生まれ、その影響を受けながら育つ。このことが心の強さと弱さにいかに結び付くかをまず考える。そして、家族がうまく子育てや互いを支える機能を失ったとき、何が起きるのか。そして、そこからどのように回復を目指すことが可能なのかについて、家族療法を通して学んでいく。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書147～161頁  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  機能不全家族について調べておくこと。また、映画や小説などで、そうしたうまくいかない家族を扱った作品について調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習2時間、復習2時間</p> <p>第14回  人とともに回復を目指す心理療法を学ぶ：集団心理療法について  <b>【key words】</b>  感受性訓練法、心理劇（モレノ）、SST（リバーマン）、自助グループ  <b>【授業概要】</b>  心の問題を抱えた人に対して、あえて人と関わる場を作ることで回復を目指す心理療法がある。人の中にいてこそ引き出される回復力を利用する様々な心理療法を学ぶことで、集団のもつ特性や力を活かすあり方を理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書195-207頁  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  特にSSTは作業療法としても実施することがあるので、ネット等で予習をしておくこと。簡単なワークとしてできるだけ実施できるようにする予定  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習2時間、復習2時間</p> <p>第15回  リハビリ患者と家族から学ぶ、心を支えるかわり方：当事者との対話による学習  <b>【key words】</b>  障害受容、リハビリ患者の心理、コミュニケーション  <b>【授業概要】</b>  「臨床心理学」の最終講義として、実際に大きな事故によりリハビリテーションを受けるなどし、現在障害者として生活を送る方をお呼びし、障害受容のテーマを中心に直接お話を伺う。また、ここまで学んできたことをふまえて、学生との直接対話の時間を設け、今後の勉強と実践の糧としていく。  ※感想文を課題として提出する（評価に含まれるので必ず提出すること）  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布資料を読み、当日、自分ができる質問を一つ以上用意しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習2時間、復習2時間</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	・国家試験に関連する科目であるが、それ以上に、医療現場で関わる方々の心の動きや心の回復につながる科目として、真剣に取り組むこと。 ・毎回の講義の中で、実際の患者と対話をするような姿勢を磨いてもらいたい。そのため、私語が多かったり、関心が薄い態度をとったり、授業の雰囲気や乱したりする行為には厳しく指導する。 ・悩みながら生きていく人や、心の問題を抱える人に対して、尊厳を持って向き合う姿勢を求める。 最低限、自分が人の心の学習に対して誠実に取り組んでいるときちゃんとと言える程度の態度は求める。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式

授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。</li> <li>・毎年講義の後半に、リハビリ患者を代表してゲスト講師をお呼びして、学生と対話をしながら、「リハビリ患者の心理」について学んでいく。一人一人が患者の方々に、専門職を目指すものとして誠実に向かい合っていける態度を養ってもらいたい。</li> </ul>
オフィスアワー	月曜 14:30～15:00 (授業後に教室か事務室非常勤講師控え所にて声をかけること)
評価方法	<p>〈総合評価〉総合得点60～69点:C 70～79:B 80～89:A 90点以上:S で評価。</p> <p>〈評価割合〉期末試験70点、小レポート・感想文等提出物 30点 30点÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点)</p>
教科書	・窪内節子・吉武光世(2003)『やさしく学べる心理療法の基礎』(培風館)
参考書	・松島恭子(2004)『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』(創元社) その他適宜指示をする。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	<p>2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ (歴史、理念、位置づけ、評価)                  【key words】                  配布される リハビリテーション医学Keywords を参照                  【授業概要】                  リハビリテーション医学の歩み、他の医学との関連、位置づけ、急性期、回復期、維持期の定義とそこで行うべきことを解説する。                  【教科書ページ・参考文献】                  最新リハビリテーション医学 第3版 P2-P25                  【課題・予習・復習・授業準備指示】                  配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。                  【予習復習に必要な想定時間】                  予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>第2回 リハビリテーション医学総論Ⅱ (医療経済学)                  【key words】                  配布される リハビリテーション医学Keywords を参照                  【授業概要】                  社会保険制度の中で、リハビリテーション医療を行うに当たって避けて通れない、医療保険、介護保険、身体障害者手帳などの各種制度の概要を解説する。患者さんのためになるようアドバイ</p>
------	--

	<p>スできることはもちろんであるが、将来の君たちの生活に直結する内容でもある。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P2-P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後 リハビリテーション医学総論Ⅲ (評価、 廃用症候群)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 リハビリテーション医療で使われる各種評価項目を解説。リハビリテーションの計画、実施後の評価をするうえで重要な項目である。また、廃用症候群についても解説。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P38-45、P84-P93、P148-P154 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第3回	<p>運動器リハビリテーションⅠ (骨疾患、骨折)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 高齢者の代表的運動器疾患であり、かつ寝たきりの原因となる上記疾患についての病態、治療方法、問題となる合併症とその対策について解説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P346-P357 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第4回	<p>運動器リハビリテーションⅡ (関節疾患 1)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 痛みのために、日常生活に支障をきたすことの多い上記疾患の病態生理ならびに リハビリテーションを解説。 なぜ痛むのか、どうしたら痛まないようになるのか。そのための予防は、などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p281-P289+ プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第5回	<p>運動器リハビリテーションⅢ (関節疾患 2)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 肩関節周囲炎の病態ならびにリハビリテーション、股関節置換術後の後療法について解説</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P362-366、p376-380 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第6回	<p>運動器リハビリテーションⅣ (腰痛、頸肩腕痛)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 腰痛ならびに肩こりの病態、治療方法、物理療法について解説。なぜ痛むのか、繰り返さないためにはどうしたらよいかを学習する。手術に至るケースはわずかであり、リハビリが治療の主役である。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p358-361、p367-375 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第7回	<p>運動器リハビリテーションⅤ (スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 スポーツ外傷の初期治療、リハビリテーションの実際、痛みの評価方法としてのVAS、CRPSのリハビリテーションについて解説する。早く痛みをとるには？早期に復帰するには？を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p381-P392</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>小テスト①（第1回から第8回までの内容）脳神経リハビリテーションⅠ（脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1回から第8回までの内容、25点満点）を実施する。その後、脳血管障害のさまざまな病態と、そこに起こる問題点、それらの評価方法、急性期に行うべきことを概説する。併せて、運動障害（麻痺）の発生機序を解剖学的観点から深く学ぶ。リハビリテーション医学の最重要領域である。気をいれて学習すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p220-P228、p94-P102+ プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第10回	<p>脳神経リハビリテーションⅡ（脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の回復期で起こる様々な問題の病態を理解し、それらの評価方法、対策（リハビリテーション）を概説する。錐体路の障害によって発生する痙縮、錐体外路の障害によって生じる固縮の違い、病態、対処法を理解する。前回に引き続きリハビリテーション医学の最重要領域である。気をいれて学習すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p229-242、P155-P162 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第11回	<p>脳神経リハビリテーションⅢ（高次脳機能障害）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害や頭部外傷に発生する高次脳機能障害について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P163-P181 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第12回	<p>脳神経リハビリテーションⅣ（認知症）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 機能障害の1つである認知症、日本で急増する認知症、認知症の早期発見と対応について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P182-P187+プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第13回	<p>脳神経リハビリテーションⅤ（神経変性疾患）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 神経内科領域の代表疾患であるパーキンソン病の病態、評価方法、リハビリテーションの注意点を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p269-275 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第14回	<p>小テスト②（第9回から13回までの内容）内科領域のリハビリⅠ（心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 虚血性心疾患へのリハビリテーションについて学習。引き続き、高血圧、糖尿病などの生活習慣病に対するリハビリテーションを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 p112-128、p319-336 + プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後  内科領域のリハビリⅡ (呼吸器リハビリテーション)  <b>【key words】</b>  配布される リハビリテーション医学Keywords を参照  <b>【授業概要】</b>  閉塞性ならびに拘束性肺疾患の病態を学んだ後、その障害に対するリハビリテーションの実際を学習する。現場で呼吸リハビリテーションを実践している理学療法士による特別講義を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  最新リハビリテーション医学 第3版 p337-P345 + プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50% (25点x2回)、期末テストの点数に50% (50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定 (CまたはD評価のみとなる) する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	最新リハビリテーション医学 第3版 江藤文夫 理宇明元 監修 医歯薬出版株式会社
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<b>授業担当教員</b> ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 日本リハビリテーション医学会認定医 日本整形外科学会認定 運動器リハビリテーション医 通所リハビリテーション管理者 (13年) <b>アクティブラーニング要素</b> <input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <b>情報リテラシー教育</b> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <b>ICTの活用</b> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
前島 俊孝			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生病序や病態について学び、理解することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。</li> <li>・基本的な疾患の病態について説明できる。</li> </ul>		
授業の概要	細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 解剖学、病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>解剖学の復習</p> <p>【key words】 上皮、細胞増殖能</p> <p>【授業概要】 病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。 細胞増殖能からみた、各種細胞の特徴について学習し、様々な疾患との関連を意識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学の教科書 p.13-15、教科書(病理学) p.31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>病因</p> <p>【key words】 病因、内因、外因</p> <p>【授業概要】 様々な疾患の原因について、また、細胞死に関する用語を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 27-31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>細胞傷害</p> <p>【key words】 壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成</p> <p>【授業概要】 細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 50-52</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第5回	<p>循環障害 1</p> <p>【key words】 出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行</p> <p>【授業概要】 循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 65-71</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第6回	<p>循環障害 2</p> <p>【key words】 浮腫、ショック</p> <p>【授業概要】 循環障害に関する用語を理解し、説明できるようにする。また、スライドで、循環障害性の疾患について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 71-75</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第7回	<p>炎症</p> <p>【key words】 炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫</p> <p>【授業概要】 炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 76-87</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第8回	<p>免疫、アレルギー</p> <p>【key words】 免疫細胞、I型～V型アレルギー</p> <p>【授業概要】 免疫機能、アレルギー反応について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 88-101</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第9回	<p>腫瘍 1</p> <p>【key words】 良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫</p> <p>【授業概要】 腫瘍の定義、分類について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 118-121</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>

	<p>第10回 腫瘍 2  <b>【key words】</b>  リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移  <b>【授業概要】</b>  腫瘍発生の原因や、転移様式を理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書: p. 118-134  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の該当する部分を読んで復習する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p> <p>第11回 腫瘍 3  <b>【key words】</b>  診断、検査、治療  <b>【授業概要】</b>  腫瘍の診断、治療の流れを理解する。スライドを用いて、腫瘍の肉眼、顕微鏡像を観察する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書: p. 118-134  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の該当する部分を読んで復習する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p> <p>第12回 代謝異常、糖尿病  <b>【key words】</b>  血糖、インスリン、1型糖尿病、2型糖尿病、診断、合併症、治療  <b>【授業概要】</b>  代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。  また、課題を与えるので、レポート作成に取り組む。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書: p. 317-323  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の該当する部分を読んで復習する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p> <p>第13回 先天異常  <b>【key words】</b>  染色体異常、遺伝  <b>【授業概要】</b>  主な染色体異常、遺伝性疾患について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書: p. 53-64  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の該当する部分を読んで復習する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p> <p>第14回 感染症  <b>【key words】</b>  HIV、AIDS、結核、日和見感染  <b>【授業概要】</b>  特徴的な感染症をいくつか取り上げて、感染症について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書: p. 97-100, 103-117, 201-205  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  教科書の該当する部分を読んで復習する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30-60分</p> <p>第15回 まとめ  <b>【key words】</b>  <b>【授業概要】</b>  補足、講義のまとめ、試験について  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2~3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義で扱った範囲の教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにす

	む。
オフィスアワー	講義の前後
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%
教科書	堤 寛：クイックマスター 病理学 第2版，サイオ出版，2018
参考書	解剖学の教科書（病理学概論の講義でも使用する）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえ講義を行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断においての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、骨 I：骨の基礎</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 骨の発生、成長、構造について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>Keywords完成後に、PTOTでもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、プリントや標準整形外科学で確認しておく（予習）。授業後A4のノートの左頁にチェックの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆく。繰り返しの復習が重要。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p> <p>第2回 骨 II：骨疾患、骨折総論①</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】</p>
------	---

第3回	<p>各種骨疾患の症状と特徴を学習。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度          骨 III：骨折総論②  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第4回	<p>骨 IV：骨折各論① 体幹部の骨折  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第5回	<p>骨 V：骨折各論② 上肢の骨折  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第6回	<p>骨 VI：骨折各論③ 下肢の骨折  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頸部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第7回	<p>関節 I：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。          Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第8回	<p>関節 II：変形性関節症総論  <b>【key words】</b>          配布するKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を</p>

第9回	<p>学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 小テスト①（骨ⅠからⅥまでの範囲）、関節Ⅲ：変形性関節症各論 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 講義に先立ち、第1講から第6講までの内容（骨Ⅰ～Ⅵ）の小テストを実施する。その後変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第10回	<p>関節Ⅳ：関節リウマチ 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ADLを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第11回	<p>関節Ⅴ：外傷性疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第12回	<p>関節Ⅵ：外傷性疾患② 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第13回	<p>小テスト②（関節ⅠからⅥまでの範囲）、脊椎Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第7講から第12講までの範囲（関節Ⅰから関節Ⅵまで）に関する小テストを実施する。その後脊椎と脊髄の構造を理解した後・1次ニューロン障害、2次ニューロン障害について理解する。その後、脊椎疾患の代表である、頸椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 II：脊椎疾患②</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、リハビリテーションによる保存的治療で改善することに気付く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 III：脊椎疾患③</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日
教科書	1：標準整形外科学 第14版 中村利孝 他編 医学書院 2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）1年次で使用したテキスト、も適宜使用する。 3：PTOT国家試験共通問題 でるもん でたもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本専門医機構 認定 整形外科専門医 日本整形外科学会認定 リウマチ医 日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医 日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医 整形外科臨床経験 25年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p>



	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/> その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係  
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 大脳の構造と機能について学習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P2-p21</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布する神経内科学KeyWordsの項目を予めテキストで確認しておく(予習)。授業後、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p> <p>第2回 中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P22-p31</p>
------	--

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p> <p>中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P32-P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第4回	<p>中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P43-P55</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第5回	<p>障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア、脳腫瘍</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。最後に脳腫瘍の分離と症状を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P58-P82</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第6回	<p>障害のメカニズム II 言語障害、認知症、てんかん</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。最後にてんかんについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P83-P108</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第7回	<p>小テスト①(第1回から4回までの内容:20点満点) 障害のメカニズム III 運動麻痺</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 授業に先立ち、第1講から第4講までの範囲の小テストを実施する。その後の授業は、運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P109-P130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第8回	<p>障害のメカニズム IV 知覚障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P131-P149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>

第9回	<p>障害のメカニズム V 脳神経障害①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳神経障害（IからVI）の発症機序ならびにその症状について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P150-P166</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第10回	<p>障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳神経障害（VIIからXII）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生の部位とその症状を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P166-P190</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第11回	<p>障害のメカニズム VII 小脳の障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 小脳障害の病態を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P191-P194</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第12回	<p>障害のメカニズム VIII 排尿障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P195-P200</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第13回	<p>障害のメカニズム IX 脳血管障害①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第5から10回までの内容【30点満点】）を実施。その後高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P201-P214</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第14回	<p>障害のメカニズム X 脳血管障害②</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P214-P224</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第15回	<p>障害のメカニズム ? 脳脊髄液障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P225-P234</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] で演習する。（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（20点×1回+30点×1回=合計50点）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	① JJNブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第4版 馬場元毅 著 医学書院（1年次の解剖学実習で使用したテキストである） ② ベッドサイド神経の診かた 第18版 田崎義昭 著 南山堂 ③ PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学） 脳神経外科学教室 所属経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/> PBL（課題解決型学習）  <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/> グループワーク  <input type="checkbox"/> プレゼンテーション  <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
諸川由実代、石関圭			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。</p> <p>〔達成目標〕</p> <p>①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。          ②現代社会とストレスおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。          ③“脆弱性—ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。          ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。          ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。          ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。          ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。          ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。</p>		
授業の概要	<p>理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係          ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類            教科書第1章・第2章 (P1~15)</p> <p>日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。</p>	
	第2回	<p>精神機能の障害と精神症状 (1)            第3章 (P16~45)            精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。</p>	
	第3回	<p>精神機能の障害と精神症状 (2)            第3章 (P16~45)</p>	

第4回	精神機能の障害のうち、知覚、思考および感情の障害について学ぶ。 精神障害の診断と評価 第4章 (P46~67)
第5回	精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。 (WA I S、kohs 立方体テスト、HDS-R、B P R S、G A F、Hamilton うつ病評価尺度、WHO/Q O L26など) 脳器質性精神障害/てんかん 第5章 (P68~93)、第8章 (P114~124)
第6回	・認知症の症状は、中核症状(基本症状)、周辺症状があることを学ぶ。 ・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。 ・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。 症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害 第6章 (P94~99)、第7章 (P100~113)
第7回	・精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要である。症状精神病の概念と主な症状精神病について学ぶ。 ・精神作用物質による精神および行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。 統合失調症およびその関連障害 第9章 (P125~146)
第8回	・統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーションの重要性を認識する。 気分(感情)障害① 第10章 (P147~161)
第9回	・気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。 気分(感情)障害② 第10章 (P147~161)
第10回	・気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。 神経症性障害 第11章 (P162~173)
第11回	・神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。 ・神経症性障害の治療について学ぶ。 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害 第12章 (P174~178)、第13章 (P179~185)
第12回	・摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。 ・睡眠障害の分類と症状について学ぶ。 ・パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学 第14章 (P186~194)、第15章 (P196~204)、第16章 (P205~209)
第13回	・精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。 ・精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。 ・リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学 第17章 (P210~212)、第18章 (P213~228)
第14回	・心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。 ・ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。 精神障害の治療とリハビリテーション 第19章 (P229~251)
第15回	・精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス 第20章 (P252~270)、第21章 (P271~277)
	・精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。 ・社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。
受講生に関する情報 および受講のルール	[受講生に関する情報] 極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。 [受講のルール] 携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる 情報	より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

オフィスアワー	授業終了後20分対応可能
評価方法	出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。
教科書	上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学 (第4版) . 医学書院, 2015
参考書	上島国利 立山萬里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>医学部講義、臨床実習 看護学校講義</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>		
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念	症候学Ⅰ
		<p>【key words】 症候学 【授業概要】 内科的治療内科学概論、診察法、臨床検査。内科的治療について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P1-37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>	
	第2回	症候学Ⅱ	
		<p>【key words】 症候学 【授業概要】 内科領域の主要な症候について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P38-54 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第3回	<p>90分 循環器Ⅰ 【key words】 循環器 【授業概要】 循環器疾患の主要症候，診断法を概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P55-70 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅱ 【key words】 循環器 【授業概要】 高血圧症，低血圧症，虚血性心疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P70-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅲ 【key words】 循環器 【授業概要】 心筋疾患，心筋炎，弁膜症，先天性心疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P78-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅳ 【key words】 循環器 【授業概要】 心不全，不整脈，肺性心，大動脈疾患，末梢血管疾患，末梢静脈疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P83-101 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅰ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 呼吸器疾患の主要症候，診断法を概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P102-112 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅱ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 感染性肺疾患，慢性閉塞性肺疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P112-120 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅲ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 びまん性汎細気管支炎，気管支喘息，サルコイドーシス，拘束性肺疾患について概説．講義中に</p>

	<p>生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          内科学 P121-127  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第10回	<p>90分          呼吸器Ⅳ  <b>【key words】</b>          呼吸器  <b>【授業概要】</b>          肺腫瘍、肺循環障害、胸膜疾患、横隔膜疾患、異常呼吸、呼吸不全について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          内科学 P127-141  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第11回	<p>90分          消化器Ⅰ  <b>【key words】</b>          消化器  <b>【授業概要】</b>          消化器疾患の主要症候、診断法を概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          内科学 P142-156  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第12回	<p>90分          消化器Ⅱ  <b>【key words】</b>          消化器  <b>【授業概要】</b>          口腔疾患、食道疾患、胃疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          内科学 P156-167  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第13回	<p>90分          消化器Ⅲ 肝胆膵Ⅰ  <b>【key words】</b>          消化器 肝胆膵  <b>【授業概要】</b>          小腸・大腸疾患、肝胆膵疾患検査法について概説。P167-186講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          内科学 P167-186  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第14回	<p>90分          老年学Ⅰ（総論）  <b>【key words】</b>          老年学  <b>【授業概要】</b>          加齢、老化について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          老年学 P1-78  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>
第15回	<p>90分          老年学Ⅱ（高齢者に特徴的な症候と疾患1）  <b>【key words】</b>          老年学  <b>【授業概要】</b>          高齢者に特徴的な症候と疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          老年学 P81-172  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院 ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内 尉義 編集 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学・作業療法士として活躍するために必要な内科および老年医学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 肝 胆 膵 Ⅱ 【key words】 肝 胆 膵 【授業概要】 急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P186-191 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 肝 胆 膵 Ⅲ 【key words】 肝 胆 膵 【授業概要】 肝硬変、肝癌、胆嚢炎、胆道癌、膵炎、膵癌、膵内分泌、腹膜炎について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>内科学 P192-200  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  血液 造血器 I  <b>【key words】</b>  血液 造血器  <b>【授業概要】</b>  血液疾患の主要徴候，赤血球疾患血液疾患の主要徴候，赤血球疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第4回	<p>内科学 P201-213  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  血液 造血器 II  <b>【key words】</b>  血液 造血器  <b>【授業概要】</b>  白血球疾患，リンパ網内系疾患，M蛋白血症，出血性疾患，血栓性素因について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第5回	<p>内科学 P213-227  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  代謝 I  <b>【key words】</b>  代謝  <b>【授業概要】</b>  糖尿病，インスリノーマについて概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第6回	<p>内科学 P228-245  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  代謝 II 内分泌 I (総論)  <b>【key words】</b>  代謝 内分泌  <b>【授業概要】</b>  脂質異常症，メタボリックシンドローム，痛風・高尿酸血症，骨粗鬆症，ビタミン欠乏症・過剰症，糖尿病について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第7回	<p>内科学 P245-259  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  内分泌 II (各論)  <b>【key words】</b>  内分泌  <b>【授業概要】</b>  視床下部疾患，下垂体疾患，甲状腺疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第8回	<p>内科学 P260-265  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  90分  内分泌 III (各論)  <b>【key words】</b>  内分泌  <b>【授業概要】</b>  甲状腺疾患，副甲状腺疾患，副腎疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>

第9回	腎、泌尿器 I 【key words】 腎 泌尿器 【授業概要】 尿の異常, 腎検査, 腎不全, 糸球体疾患について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P270-283 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第10回	腎、泌尿器 II 【key words】 腎 泌尿器 【授業概要】 二次性腎障害, 尿路疾患, 腎泌尿器系腫瘍, 前立腺疾患, 電解質異常について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P283-296 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第11回	アレルギー 【key words】 アレルギー 【授業概要】 気管支喘息, 花粉症, アナフィラキシーショック, アレルギー, 関節リウマチについて概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P297-311 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第12回	膠原病 【key words】 膠原病 【授業概要】 リウマチ熱, 皮膚筋炎・多発性筋炎, 全身性エリテマトーデス, 全身性硬化症について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P310-316 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第13回	感染症 I 総論 【key words】 感染症 【授業概要】 免疫不全症, 感染症総論について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P317-327 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第14回	感染症 II 各論 【key words】 感染症 【授業概要】 グラム陽性細菌, グラム陰性細菌, 嫌気性細菌, ウイルス, 真菌について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P327-339 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第15回	老年学 III (高齢者をとりまく環境) 【key words】 老年学 【授業概要】 高齢者をとりまく環境について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決し

	<p>た疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          老年学 P172-394  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          90分  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度は対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院</li> <li>・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内 尉義 編集 医学書院</li> </ul>
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員  <b>■実務経験のある教員が担当している</b>          具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>脊髄損傷 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもの 該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	第2回	<p>脊髄損傷 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第3回 脊髄損傷 III 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷におけるリハビリテーションについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	<p>第4回 末梢神経 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	<p>第5回 末梢神経 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 第4講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	<p>第6回 神経・筋疾患 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、DVDにより目で見て確認する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	<p>第7回 小テスト①（脊髄損傷IからIIIと末梢神経IからIIが範囲）、骨・軟部腫瘍 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1講から5講までの範囲、脊髄損傷、末梢神経）を実施する。その後、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>

第8回	<p>四肢の循環障害と壊死性疾患</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第9回	<p>切断および離断と義肢 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第10回	<p>切断および離断と義肢 II</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第11回	<p>切断および離断と義肢 III</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。供覧する義手、義肢の実物に触れながら、第10講と11講の重要点を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P310-318</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第12回	<p>小テスト②（神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲）熱傷、手の外科</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第6講から11講までの範囲、神経・筋疾患、骨・軟部腫瘍、四肢の循環障害と壊死性疾患、切断および離断と義肢）を実施する。その後、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第13回	<p>スポーツ外傷・障害 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。  +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392  【課題・予習・復習・授業準備指示】  配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  【予習復習に必要な想定時間】  予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第14回  スポーツ外傷・障害 II  【key words】  配布するKeyWords 参照  【授業概要】  スポーツ障害の対処方法について学習する。  【教科書ページ・参考文献】  授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。  +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392  【課題・予習・復習・授業準備指示】  配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  【予習復習に必要な想定時間】  予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第15回  整形外科的治療法  【key words】  配布するKeyWords 参照  【授業概要】  整形外科領域で行われる保存的治療から各種手術まで、適応と実際を学習する。1年間学習してきたことの総復習を兼ねる。  【教科書ページ・参考文献】  授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。  【課題・予習・復習・授業準備指示】  配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。  【予習復習に必要な想定時間】  予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
<p>受講生に関わる情報  および受講のルール</p>	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。  チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。</p>
<p>毎回の授業に関する  質問や学習の進捗状況の  確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる  情報</p>	<p>授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習（PT OT 国家試験共通問題 であるもん でたもん [臨床医学] を使用）と併せノートの復習を行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日の授業終了後の休憩時間。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。</p>
<p>教科書</p>	<p>1：標準整形外科学 第14中村利孝 他編 医学書院  2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）（1年次で使用したテキスト）も適宜使用する。  3：PT OT 国家試験共通問題 であるもん 出たもん [臨床医学] 医学書院</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜紹介する</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/  リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員  ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容  日本専門医機構 整形外科専門医  日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医  日本整形外科学会認定 スポーツ医  整形外科臨床経験25年以上</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/>グループワーク  <input type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p>

<p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li><li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/> その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション、 小児神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p316-338 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成(予習)。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上
	第2回	てんかん 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p284-P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】

第3回	<p>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p> <p>筋疾患</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p. 288-P301</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第4回	<p>脳腫瘍、外傷性脳損傷</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p224-P237</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第5回	<p>脳血管障害①</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p173-P203</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第6回	<p>脳血管障害②</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  脳血管障害のリハビリテーションについて学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p173-P203</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第7回	<p>認知症</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p204-P223</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第8回	<p>変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  Parkinson病（症候群）と変性、脱髄疾患について学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  神経内科学 第5版 p253-p274</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第9回	<p>小テスト ①（第1-6回の内容） 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患</p> <p><b>【key words】</b>  配布されるKeywords を参照</p> <p><b>【授業概要】</b>  授業に先立ち、第1講から第6講までの範囲の小テスト(25点満点)を行う。その後、髄膜炎、脳炎を</p>

第10回	<p>代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p302-P315  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上          脊髄疾患、末梢神経疾患  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p238-P252、P275-P283  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第11回	<p>廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性機能障害について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p339-P362  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第12回	<p>高次脳機能障害①（失語症、失認、失行）  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p107-P151  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第13回	<p>小テスト②（第7回～第11.回の内容）高次脳機能障害②（記憶障害、注意障害、遂行機能障害）  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          授業に先立ち、第7講から第11講までの範囲の小テスト②（25点満点）を行う。その後、高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第14回	<p>脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）、構音障害、嚥下障害  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）についても学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p152-P171  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第15回	<p>総復習 神経診断技術から診る神経疾患  <b>【key words】</b>          配布されるKeywords を参照  <b>【授業概要】</b>          神経診断学的手法を復習し、そこから得られる情報をもとに考えられる疾患について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          神経内科学 第5版 p 35-P70          ベッドサイド神経の診かた 第18版  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p>



	【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上
受講生に関わる情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、配布するプリント、テキストのでもんでもん〔臨床医学〕で行う（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 川平和美 編集 医学書院 ② ベッドサイド神経の診かた第18版 田崎義昭 著 南山堂 ③ PT OT 国家試験共通問題 であるもん であるもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）脳神経外科学教室 事績経験あり アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じるような様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。
授業の概要	物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達                  【key words】                  配布するKeywords を参照                  【授業概要】                  camonの成長曲線、原始反射、発達診断小児科学の授業の展開と重要事項チェックシートを用いた学習方法を解説。その後、小児の発達（身長・体重・脳重量）と発達と各種運動反射について解説する。                  【教科書ページ・参考文献】                  標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P2-P14                  【課題・予習・復習・授業準備指示】                  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼り付け、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。                  【予習復習に必要な想定時間】                  予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p> <p>第2回 小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要                  【key words】                  配布するKeywords を参照                  【授業概要】                  小児の離乳までの過程、小児保健の重要事項、について解説。また小児におこりやすい、発熱や痙攣などの対処法を学習する。                  【教科書ページ・参考文献】                  標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P14-P37</p>
------	---

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p> <p>新生児・未熟児疾患 I</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 新生児の評価と問題の把握について解説</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P38-P57</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第4回	<p>新生児・未熟児疾患 II</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 新生児の呼吸全身所見と神経学的所見を学習する。その後、代表的中枢神経障害とその疾患について学習。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P38-P57</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第5回	<p>先天異常と遺伝病</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 先天異常と遺伝のメカニズム、頻度の高い遺伝病、染色体異常について、その遺伝形式、代表的症状について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P58-76</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第6回	<p>神経・筋・骨系疾患 I 中枢神経疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 中枢神経疾患の診断方法、代表的疾患の病態、症状などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P77-P95</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第7回	<p>小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 II てんかん</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1回から5回までの内容）を行う。 その後、てんかんについてのDVDを供覧する。難解な用語や症状を、目でみて理解する。併せて、抗てんかん薬の副作用についても学習する、</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P96-P99</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第8回	<p>神経・筋・骨系疾患 III 脳性麻痺</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳性麻痺の診断から発育、発達の過程をDVDにて学習。聞きなれない、なじみのない用語を、目で見て学習する。発育の過程でおこる様々な問題について、どう対処してゆくかを考えてゆく</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P99-P104</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>

第9回	<p>神経・筋・骨系疾患 IV 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 知的障害、精神遅滞、の定義、指標を知り、近年、学童教育の現場で問題となっている発達障害（多動症候群、学習障害、Asperger症候群、）を学ぶ。頻度は少ないものの、臨床的に重要な、筋ジストロフィーについても学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P104-P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第10回	<p>循環器疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 胎児期から出生にあたっての血液循環の変化を学習したのち、代表的な先天性心疾患（VSD、ファロー四徴症）について学習する。川崎病については、問題となる合併症を理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P120-P132</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第11回	<p>呼吸器疾患、感染症</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 その後、乳幼児、学童期の呼吸器疾患と、感染症について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P133-155</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第12回	<p>消化器疾患、代謝内分泌疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 消化器疾患については、年齢ごとに起きやすい疾患を理解し、外科的対処方法を学習する。発達、発育障害をきたす大きな原因となる内分泌代謝疾患については、早期発見のための注意点と対処法について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P156~P176</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第13回	<p>血小テスト②（第6階から第11回までの範囲） 液疾患・免疫・アレルギー・膠原病</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 多授業に先立ち、小テスト②（第6回から11回の範囲）を実施する。能性造血幹細胞から、各血球への分化を理解した後、貧血、白血病、出血性疾患を学習する。1年生で学んだ、免疫システムを再復習した後、アレルギー疾患（特にI型アレルギー）や自己免疫疾患を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P177-P195</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第14回	<p>腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 小児に特徴的な、腎疾患、生殖器疾患、腫瘍を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P196-P205</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第15回	<p>心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患</p> <p>【key words】</p>

	<p>配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】  習癖、睡眠関連障害、心身医学的疾患を学び、その背後にあるものを感じ取るセンスを学ぶ。虐待の気づき、気づいた時の行動を学習する。重症心身障害児については、その定義と特有の問題を学ぶ。最後に、幼児期、学童期に注意すべき眼科的、耳鼻科的疾患を知る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P206-P226</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】  予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
受講生に関する情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 編集 富田 豊 医学書院 （第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県立小児医療センター 在籍経験あり アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木利定			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかにかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。 論語 史記 信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きな者について、学問について。</p> <p>第2回 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 命の使い方P1、P174</p> <p>第3回 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 プロタゴラス (真理なし) ソクラテス プラトン (イデア論) (真理あり) プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。</p> <p>第4回 大学の道についての孔子の説明。大学辛句 (右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明</p> <p>第5回 至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) コメントカードの質問に答える。 ① 形物上学他、② ギリシャの愛についてプリント配布して説明成有一徳 P14～22</p>
------	--

第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。
第9回	国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。(右第十、十一章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 後世へ残すもの、1、お金 2 事業 3、 思想 、祈 4、 元気 結論 誰にでも出来て 害にならないもの
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 ①西洋の2聖人 アリストテレス イエスキリストのその後の影響 ②宗教と哲学の違い 宗教は信ずること 哲学は問うこと P8
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 現代のみだれ 宗教・道徳が必要 宗教の問題 1、救済の問題 2、続行者の問題 3、 信仰者の問題(行為) 「親鸞」についても話すプリント 日本の仏教一覧表
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(2回以上のもの)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10時30分～12時。
評価方法	■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □その他評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究一修正版」(明治図書) 咸有一徳(中央法規)
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容  アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない  情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない  ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容
--	-----------



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。</p> <p>[到達目標] ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。</p>		
授業の概要	<p>・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとつ（事象の論説・事実把握・論述すること）	
	第2回	咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する	
	第3回	論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について	
	第4回	「真心」の解説（中国における儒学関係古典の解釈）「心」の字源	
	第5回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説	
	第6回	王陽明『伝習録』と建学の精神－仁について－	

	<p>第7回 王陽明『伝習録』と教育理念－知行合一について－</p> <p>第8回 小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷</p> <p>第9回 小学校・中学校における道徳課題について</p> <p>第10回 道徳課題に基づき指導案を作成してみる</p> <p>第11回 模擬授業</p> <p>第12回 続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）</p> <p>第13回 豊かな人間性の涵養と、人格の向上について（交際・礼儀作法・エチケット）家庭生活の基本マナー（儒学における関係古典文献より考察）</p> <p>第14回 福祉界が望むマナー（人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察）</p> <p>第15回 時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える）</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。</li> <li>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。</li> <li>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。</li> <li>・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、課題15%、発表15%。
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月 鈴木利定・中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明徳出版社、2016年6月
参考書	『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
江島正子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。</p> <p>〔到達目標〕 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>		
授業の概要	<p>1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）－授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。教育における人間観－「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。	
	第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点	
	第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点	
	第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム	
	第5回	学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型	
	第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる	

第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題
第9回	教育課程の編成
第10回	子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-
第11回	子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-
第12回	学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか- 近言語的、非言語-
第13回	学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境等-
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。
受講生に関わる情報および受講のルール	1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式、その他（ミニレポート）
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日 9時～11時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容  アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない  情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない  ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他  その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原章			
基礎科目			
添付ファイル			
授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。		
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	国際社会における議論	
	第3回	日本での議論・政策	
	第4回	生涯学習の理念と理論(その1)	
	第5回	生涯学習の理念と理論(その2)	
	第6回	生涯学習の内容と形態	
	第7回	学校教育と生涯学習	
	第8回	外国の生涯学習(その1)	
	第9回	外国の生涯学習(その2)	
	第10回	生涯学習の先駆け(その1)	
	第11回	生涯学習の先駆け(その2)	

	<p>第12回 社会教育制度</p> <p>第13回 生涯学習支援の動向と課題</p> <p>第14回 まちづくりと生涯学習</p> <p>第15回 グローバリゼーションと生涯学習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 小論文、レポートは必ず提出すること。 5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分。
評価方法	定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。（目安）定期試験70%、小論文・レポート30%。
教科書	「テキスト生涯学習 新訂版」学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
橋本広信			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムについて理解し、人間を理解する視野を広げる。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①知覚や認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職としてやがて出会う「患者の心理」に関連する事柄を学ぶことで、今後の学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。</p>
授業の概要	<p>広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学や、人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：心理学は「心」と「人」をどのように見てきたのか</p> <p><b>【key words】</b> ・心身二元論、ヴント、マズロー、ロジャーズ、ワトソン、フロイト、レヴィン、実験、観察、面接、心理テスト、事例研究 等</p> <p><b>【授業概要】</b> ・現在までに至る心理学に至る歩みを知ること、心理学という学問が対象にしてきた、「心」というものの特徴と、それを捉える試みの歴史について学ぶ。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書204-215頁、リチャード・ドーキンス(2016)『進化とは何か』(早川書房) <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> キーワードで挙げられている心理学者の人生と業績について辞典、ネット等で調べておくこと <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習2時間、復習2時間</p>

第2回	<p>なぜヒトの目は、顔の前に二つついているのか？ 進化と環境を知る働き</p> <p>【key words】 進化、自然淘汰、感覚、適刺激、刺激閾、刺激頂、弁別閾、知覚、知覚の体制化、図と地、プレグナントの法則、恒常現象、錯視</p> <p>【授業概要】 ・すべての生物は進化の過程を経て、環境に対応する姿かたちと生きる能力を備えている。心についても、そうした観点から考えることができる。まずは、基本的な心を支える重要な機能である「感覚」と「知覚」について学び、ヒトが生きている環境とは、どのようなものなのかを考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書2-9頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「錯覚」について、ウェブサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第3回	<p>なぜヒトは地上でうまく動けるのか？：空間・運動知覚と認知</p> <p>【key words】 奥行知覚、運動知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚の異常に基づく発達障害、学習障害、コグニティブ・トレーニング</p> <p>【授業概要】 ・人間が生きている三次元空間に対応した知覚として、奥行きや運動を捉える知覚について学ぶ。そして、それぞれの人が発達させる知覚傾向と個人の生きている環境との関連性について理解する。さらに発展的な問題として、「不器用な子」に対して提起されている「認知作業トレーニング」について体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書10-14頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版)、宮口幸治他 (2014) 『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』 (三輪書店)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知作業トレーニング (コグニティブ・トレーニング) について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第4回	<p>ヒトはいかにして環境や新たな状況に対応できるようになるのか？：学習のメカニズム</p> <p>【key words】 レスポナント条件付け (パブロフ)、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け (スキナー)、報酬と罰、プログラム学習、観察学習 (バンデューラ)、洞察学習 (ケーラー)</p> <p>【授業概要】 生まれながらにヒトには多くできる行動 (本能) があるが、それらはやがて意識的な行動に置き換わっていく。すなわち、ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」されたものであるが、そうした行動の変化が起きるメカニズムをヒトが備えている意味を、学習理論を学ぶことで考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書16-20頁、山崎明夫 (2016) 『にほんごがこんなふうに見えるのよ！』 (株QOLサービス)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 生後に獲得した行動について、書き出しておくこと。また、仮に「脳出血」で倒れた後、徐々に回復できたとして、どのような行動ができなくなるかについても、調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第5回	<p>ヒトはなぜ目の前のことだけに生きられないのか？：記憶のメカニズムとその混乱</p> <p>【key words】 記銘・保持・想起、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、サブリミナル効果、作動記憶 (ワーキングメモリ)、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、忘却、健忘、デジャヴュ、認知症検査、気分一致効果等</p> <p>【授業概要】 ・学習や経験したことが保持をされ、ヒトは目の前の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることが出来る。こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか、また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのか。記憶と記憶に影響を及ぼす要因についても考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書21-26頁、ジュリア・ショウ (2016) 『脳はなぜ都合よく記憶するのか』 (講談社)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・第1回課題提示、「記憶もしくは認知症に関連する映画を視聴し、そのあらすじと視聴しての感想を心理学的観点も入れて報告しなさい」 (A4用紙2枚以上) 二週間後、第7回授業時までに提出。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、課題3時間</p>
第6回	<p>ヒトの心はなぜ動くのか？ (そして、時に動かなくなるのか)：動機づけと感情の心理学</p> <p>【key words】 マズローの理論、自己効力感、学習性無力感・コンフリクト、フラストレーション、防衛機制、ストレスコーピング、感情</p> <p>【授業概要】 ヒトの心は常に刺激に対して反応し、動き続ける。一定の方向に強く動かす動機づけのメカニズムや種類をまず学び、次に人に備わる感情の役割について考えていく。特に負の感情が強く働く状態について理解し、感情と人との関係性について理解を深め、感情に溺れない生き方とはどのようなものかについても理解を深めていく。</p> <p>・防衛機制をしっかりと復習し、理学療法・作業療法士国家試験で防衛機制が出てきた過去問題を調べ、ノートに写しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書28-52頁、ディラン・エヴァンズ (2005) 『感情』 (岩波書店)</p>



第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自分が感情的になりやすい場面」について書き出しておくこと。ワークシートを作成する予定。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>考える力をもつことは、ヒトには何をもたらすのか? : 思考</p> <p>【key words】 創世記(アダムとイブ)、素朴理論、ブラジルのキャンディ売り、思考、知識、概念、集中的思考、拡散的思考、アルゴリズム、ヒューリスティック、帰納的推論、演繹的推論、確証バイアス、ディープラーニング</p> <p>【授業概要】 ヒトは本能的・感覚・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって状況を推理したり、状況を打破する方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書82-92頁、三宅芳雄・三宅なほみ(2014)『新訂教育心理学概論』(放送大学教育振興会)</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分で一つ、「なぜなぜ」を考えておくこと。提示できるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>ヒトに備わる高い知的能力とその働きを理解する。知能と知能検査</p> <p>【key words】 知能、人工知能、スパイマン、サーストン、キャッテルとホーン、ギルフォード、スターンバーグ、ガードナー、多重知能、ビネー式知能検査、ターマン、I Q、ウェクスラー式知能検査、その他の知能検査、認知症</p> <p>【授業概要】 ヒトは、反射的な反応ではなく、知的能力を使って何らかの行動や課題を解決することを日々行っている。ここでは、そうした力を「知能」としてとらえ、ヒトの知能の構造や働きの基本について学ぶ。また、知的能力の状態を調べるたくさんの検査がある。認知症も含め、そうした知能を調べる検査について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書68-80頁、配布資料</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 代表的な知能検査についてあらかじめよく調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>生まれてからヒトはどのように変化していくのか? 発達① 子ども時代</p> <p>【key words】 胎児期、生理的早産、乳児期、言葉の発達、幼児期、アニミズム、愛着(アタッチメント)、ピアジェ、児童期、エリクソンの発達段階論</p> <p>【授業概要】 ヒトは生物として見た時、非常に変わった状態で誕生する。このことの意味や意義を確認しながら、人が乳幼児期から児童期という子ども時代に何を発達させ、どのようなことに向き合いながら生きているのか、発達心理学の視点から学んでいく。特に愛着の問題は現在重要な問題として再認識されているので、そのトピックにも触れる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書94-110頁</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着障害について調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>ヒトがオトナになるとは、どのようなことなのか? : 発達② 青年時代</p> <p>【key words】 第二次性徴、思春期スパート、ボディ・イメージ(身体的自己)、醜形恐怖、見られる自己、見る自己、アイデンティティ、アイデンティティ拡散、モラトリアム、マーシャの4分類、アイデンティティ・ゲーム</p> <p>【授業概要】 ヒトは大人と明らかに違う姿かたちで生まれるが、思春期を過ぎると身体と生殖機能は大人と同様になっていく。しかし、まだオトナとしては生きられず、中途半端な形で、社会で自分が生きていくあり方を確立していく、すなわちアイデンティティの課題に取り組んでいく。今回は、アイデンティティをキーワードに、オトナになるとは、どのようなことなのか。その道筋にある危険や変容の可能性について学んでいく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書112-116頁</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2回課題提示: 日ごろの自分自身を振り返り、ワークシートを作成しておくこと。(授業時に提出日を指示した上で提示予定)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>ヒトが老いることと死ぬことに近づくこととは? : 発達③ 中年期・老年期</p> <p>【key words】 ジェネラティビティ、加齢、更年期、空の巣症候群、中年期の危機、サクセスフルエイジング、モーニング・ワーク、グリーンワーク、お迎え現象</p> <p>【授業概要】 長い時間をかけてオトナとしての時間を生きていくうちに、やがてヒトは種々の能力や社会的なつながり、立場を喪失し、衰退を体験する人生後半の課題に向き合うことになる。この人生の後半にこそ、ネガティブな自分の心に捕らわれず、創造的に変化を遂げることが試される。一人のヒトとして自分の人生をいかに閉じていくか、ライフサイクル終盤の発達課題について検討する。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書117-124頁、エリクソン（1997）『老年期』（みすず書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「高齢者（老人）」「老い」をテーマにした映画や小説を探し、あらすじを説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第12回 「ワタシ」が、他の誰でもない「ワタシ」であること：パーソナリティと自己の心理学 【key words】 類型論、特性論、ビッグファイブ、パーソナリティ検査 【授業概要】 ・同じ環境下にあっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ（人格）として捉える視点と、様々なパーソナリティ論について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書54-66頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書66頁の「自己概念の測定：20 答法回答用紙」を実施しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第13回 ヒトとして、心が健康である状態とは？：精神的健康 【key words】 抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安症、人格障害、物質関連性障害、心身症 等 【授業概要】 ヒトは体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとらわれて日々の生活を送る人々がいる。本格的な一人一人の苦悩に寄り添う臨床心理学は後期に学ぶが、ここでは、基本的に心の健康が損なわれている状態についてどのようなことが起こるのかを学ぶことで、健康な心の状態についての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書150-164頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分や身近の人のことを振り返り、自分の心が健康に働いていなかったような状態について思い出し、書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第14回 病と心の関係性について：患者の心を支える心理学 【key words】 病、難病、がん、ロールプレイング、障害受容 【授業概要】 将来医療現場で仕事をする専門職を目指す学生を対象とする講義という特性を考え、教科書にはないが、人生の中で大きな病を体験し、医療的支援を受けた患者当事者や医療専門職として現場で活躍されている方をお呼びして、ゲスト講師による授業を行う。生きていくということは、病や事故という不確実な状況といつか出会う可能性の中に生きるということを理解し、そうした場で何が患者の心の支えになるかを理解するための手掛かりを得る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、指示された参考書など 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめゲスト講師に関係することについて、調べ学習の課題を出す予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第15回 心理学の応用分野（第14回の続きの可能性あり） 【key words】 健康心理学、タイプA他、選択の科学（アイエンガー）、プロファイリング、スヌープ、福祉心理学、環境心理学、災害心理学など 【授業概要】 これまで学んだことのまとめとして、心理学が応用されている多くの分野や広がりについて学び、そのうち、医療に関連する項目をピックアップして人間理解の視野を広げる。 ※第14回の「患者の心を支える心理学」が1回で終わらない場合、続きを実施する可能性あり 【教科書ページ・参考文献】 教科書184-201頁 テスト解説も行う予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという、人間観の基礎を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>シャトルカード方式（疑問・質問に限らず、聞いてみたい伝えてみたいことはなんでも書いてよいので、積極的に書いて下さい。）</p>

授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。</li> <li>・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。</li> </ul>
オフィスアワー	火曜日 1号館事務局にて午前中に声をかけること。授業後の質問なども受け付ける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：C、70-79点：B、80-89点：A、90点以上S</li> <li>・期末試験80点、小レポート・課題提出20点（20÷提出回（予定2回）=1提出物得点（1回10点満点：提出により得点）</li> </ul>
教科書	二宮克美（2016）『ベーシック心理学 第2版』（医歯薬出版）
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2020）『心理学（第5版補訂版）』（東京大学出版会） 他適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山宗彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 国際文化論（intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。</p> <p>[到達目標] 国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。</p>		
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～</p> <p>第2回 和の文化（1）～その構造について～</p> <p>第3回 和の文化（2）～神の文化との比較～</p> <p>第4回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）</p> <p>第5回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～</p> <p>第6回 日本外交の原点に位置する聖徳太子</p> <p>第7回 ヨーロッパ文明とEU</p> <p>第8回 日本と中東（1）</p> <p>第9回 日本と中東（2）</p>		

	<p>第10回 湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動</p> <p>第11回 ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて</p> <p>第12回 「平和」実現への第一歩とは（1）</p> <p>第13回 「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～</p> <p>第14回 国際文化論として考えるリハビリテーション</p> <p>第15回 個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業レジュメは原則として毎回配布する。</li> <li>・授業には積極的な態度で臨むように。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	世界の国々に関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
栗原秀司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。</p>
授業の概要	物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 (科目オリエンテーション) 物理を理解するための道具とルール</p> <p>【key words】 単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル</p> <p>【授業概要】 物理で扱う量には単位があること、測定値の有効数字と計算の仕方を学ぶ。物理に必要な最低限の数学の知識として、累乗、三角比、ベクトルの復習をする。第1章 章末問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p1 ~ p8 第1章「物理を理解するための道具とルール」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第2章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分~90分</p> <p>第2回 力学の基本ー物体の運動を数式で表すー</p> <p>【key words】 速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動、反発係数</p> <p>【授業概要】 速さと速度の違い、等速直線運動のv-t図、x-t図の見方を学ぶ。速度が変わるときは加速度があり、直線上で加速度が一定の場合(等加速度直線運動)のグラフや式を考える。その応用として、自由落下・鉛直投射運動について学ぶ。第2章 章末問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p9 ~ p17 第2章「力学の基本」</p>
------	--

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第3章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>物体の運動と力の関係(1) ー力の表し方と力の種類ー</p> <p>【key words】 力、力のつりあい、作用反作用の法則、重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力、合力、分力</p> <p>【授業概要】 物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。力はベクトルなので、矢印で表す。力のつり合い、作用反作用の法則を知る。力には重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などがあることを知る。力の合成、分解の仕方(作図)を学ぶ。プリントで演習をする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p23 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 力の演習プリントの残った問題を解いておく。(次回の最初に答え合わせをする。)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第4回	<p>物体の運動と力の関係(2) ー運動方程式ー</p> <p>【key words】 慣性の法則、運動の法則、運動方程式</p> <p>【授業概要】 前時の力の演習プリントの残りの問題について答え合わせをする。物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、運動方程式のつくり方を学ぶ。練習問題で1物体、2物体の運動について運動方程式を作る。第3章 章末問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p20、p23 ～ p25 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第4章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第5回	<p>圧力のはたらきと物を回転させる力 ー身近な力を数式で表すー</p> <p>【key words】 圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心</p> <p>【授業概要】 気圧や水圧など身近な圧力を知る。大気圧や、水圧の求め方、浮力が生じる理由について学ぶ。力のモーメント、大きさのある物体はたらく力やその合力の求め方、重心について学ぶ。3種類のこと、その応用例について学ぶ。第4章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p26 ～ p33 第4章「圧力のはたらきと物を回転させる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。)</p> <p>教科書の第5章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第6回	<p>エネルギーとその保存法則</p> <p>【key words】 仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則</p> <p>【授業概要】 物理の「仕事」の定義について知り、問題を解く。「仕事の原理」とその例について学ぶ。「仕事率」の意味を知り練習問題で求める。エネルギーとは何か、エネルギーの種類、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。第5章 練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p34 ～ p40 第5章「エネルギーとその保存法則」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第6章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第7回	<p>運動量と視点の違いにより感じる力</p> <p>【key words】 運動量、力積、運動量保存の法則、相対速度、慣性力</p> <p>【授業概要】 瞬間的な力が働くときは、運動量や力積を考えると便利なことを知り、衝突や分裂などのときの運動の扱い方、考え方を学ぶ。見る位置の違いで速度や力のはたらき方に違いがあることを学ぶ。第6章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p41 ～ p47 第6章「運動量と視点の違いにより感じる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。)</p> <p>教科書の第7章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第8回	<p>気体分子の運動と熱エネルギー</p> <p>【key words】 温度、熱、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則</p> <p>【授業概要】 物質の三態変化とその時に出入りする熱について知る。比熱、熱容量の定義をし、熱量保存の法</p>

	<p>則が成り立っていることを学ぶ。気体の体積は圧力や温度によって変化し、ボイルの法則、シャルルの法則が成り立っていること、内部エネルギーの定義とその変化について熱力学第一法則が成り立っていることを学ぶ。第7章 章末問題を解く。  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 48 ～ p 56 第7章「気体分子の運動と熱エネルギー」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第7章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。  教科書の第8章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】  60分～120分</p>
第9回	<p>波の性質とその表し方  【key words】  振幅、波長、周期、振動数、横波・縦波、反射、屈折、回折、定常波、干渉  【授業概要】  波を表す「振幅・波長・周期・振動数」を知り、媒質の振動の様子や波の進み方について学ぶ。縦波・横波の違いと例、波の性質（反射・屈折・回折）、重ね合わせの原理、定常波について実験を観察することによって学ぶ。第8章 章末問題を解く。  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 57 ～ p 65 第8章「波の性質とその表し方」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第8章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。  教科書の第9章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】  60分～120分</p>
第10回	<p>波で理解する音と光の現象  【key words】  音波、うなり、ドップラー効果、光波、全反射、レンズ、光の干渉  【授業概要】  音の三要素について知る。音叉のうなりを聞き、成り立つ式を学ぶ。ドップラー効果が起こる理由を考える。光の波としての諸現象（分散によるスペクトル、反射・屈折及び全反射等）について実験・観察を通して学ぶ。凸レンズ・凹レンズの像を観察し、作図の仕方及びレンズの式を学ぶ。光の干渉・散乱の例とその理由を学ぶ。第9章 章末問題を解く  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 66 ～ p 78 第9章「波で理解する音と光の現象」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第9章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。  教科書の第10章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】  60分～120分</p>
第11回	<p>静電気力とその表し方  【key words】  電子、静電気力、電気量保存の法則、電場、電位  【授業概要】  目に見えない電気について原子の構造から考え、電荷の間にはたらく力（クーロンの法則）、電気量保存の法則について学ぶ。電気力がはたらく空間として「電場」を考え、その表し方、電位の意味とその求め方について学ぶ。第10章 章末問題を解く。  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 79 ～ p 83 第10章「静電気力とその表し方」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第10章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。  教科書の第11章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】  60分～120分</p>
第12回	<p>オームの法則から理解する電気回路  【key words】  自由電子、オームの法則、ジュール熱、電力量、電力、アース、コンデンサー  【授業概要】  金属中の自由電子の運動と電流の考え方、抵抗にかかる電圧と電流の関係（オームの法則）とその水流によるイメージを学ぶ。抵抗の直列接続と並列接続の合成抵抗の求め方、電流の熱作用、電力量・電力について学ぶ。アースの役割、コンデンサーの原理とそのはたらき（実験を含む）を学ぶ。第11章 章末問題を解く。  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 84 ～ p 93 第11章「オームの法則から理解する電気回路」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第11章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。冬休み中に今までの復習をしておく。  教科書の第12章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】  60分～120分</p>
第13回	<p>電流と磁場の関係  【key words】  磁場、コイル、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、ローレンツ力、モーター  【授業概要】  磁石のまわりに磁場があること、電流によって磁場ができることを知り、その磁場の表し方と磁力線について学ぶ。磁場から電流にはたらく力（フレミングの左手の法則）、磁場の中で運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツ力）を学ぶ。その例として、直流モーターの仕組みを学ぶ。第12章 章末問題を解く。  【教科書ページ・参考文献】  教科書 p 94 ～ p 100 第12章「電流と磁場の関係」  【課題・予習・復習・授業準備指示】  第12章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。  教科書の第13章を読んでおく  【予習復習に必要な想定時間】</p>



	<p>60分～120分 電磁誘導と交流 【key words】 誘導起電力、誘導電流、交流、自己誘導、相互誘導、電磁波 【授業概要】 、交流や電磁波について学ぶ。磁石やコイルを動かすと起電力が生じる現象（電磁誘導）について成り立っているレンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則（実験を含む）について学ぶ。日常使用している交流の作り方とその利用について、及びコイルのはたらきと自己誘導、相互誘導について学ぶ。第13章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 101 ～ p 108 第13章「家庭のコンセントに流れる交流電源の作り方とその利用」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第13章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第14章を読んでおく。次回の授業の後半に今までの学習内容全てについて質問の時間があるので、復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>第15回 原子の構造と放射線 【key words】 放射線、放射性崩壊、半減期 【授業概要】 原子の構造とその表し方、放射線（<math>\alpha</math>線・<math>\beta</math>線・<math>\gamma</math>線）の本体と放射性崩壊のしかたについて学ぶ。崩壊の法則により半減期の式と意味を考える。核分裂・核融合によるエネルギーの解放、放射線の利用例について学ぶ。残った時間で全範囲についてのまとめをする。今まで学習した全範囲について疑問があれば質問をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 109 、 p 111 ～ p 114ページ 第14章「原子の構造と半導体・放射線」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「まとめ」の事項について、確認テストを重点的に復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 300分～</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・高校で物理を履修していなくてもよいが、授業の前に教科書を読んでおおよその内容を把握しておくこと。 ・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。 ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。 〔受講のルール〕 ・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。 ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>・授業終了後30分間 ・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>確認テスト15%、筆記試験85%</p>
<p>教科書</p>	<p>時政孝行監修、栗子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂</p>
<p>参考書</p>	<p>佐藤和良著：看護学生のための物理学、医学書院</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援</p>

	<input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田隆夫			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①六法で条文を調べることができる。 ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。</p>		
授業の概要	法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を理解してもらいます。さらに、具体的な事案についてディベートすることで、法解釈を体験してもらいます。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範 【key words】 社会規範、法源、法の解釈 【授業概要】 授業の進め方（シラバスの説明） 法の市民生活との関わり合い（日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理綱領」） 「法源」、「法の解釈」について 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P2～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P9～19 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 概論2：市民生活の各領域と主な関係法 【key words】 日常生活上の法律関係、仕事上の法律関係、消費者保護関連法、不法行為法、労働関係法 【授業概要】 日常生活や仕事上、生活上の法律関係（消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等）</p>		

	<p>関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P9～19予習：教科書P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P22～33 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第3回	<p>憲法1：憲法総論、基本的人権総論1 【key words】 憲法、基本原理、日本国憲法、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重 【授業概要】 憲法一般の概念・歴史・基本原理 日本国憲法の歴史・基本原理、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P33～37 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由 【key words】 人権、新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由 【授業概要】 人権についての思考方法 新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等 関連する事例についての討論P33～37予習：教科書 P38～41 【教科書ページ・参考文献】 P33～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P38～41 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第5回	<p>憲法3：表現の自由、経済的自由 【key words】 表現の自由、知る権利、経済的自由 【授業概要】 民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等 経済的自由（精神的な自由との比較も含めて） 関連する事例についての討論P38～41予習 P41、P44～46 【教科書ページ・参考文献】 P38～41予習 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41、P44～46 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第6回	<p>憲法4：財産権、社会権 【key words】 財産権、社会権 【授業概要】 財産権 「国家による自由」と言う性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら） 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41～43、P45～51 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第7回	<p>憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務 【key words】 人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務 【授業概要】 人身の自由 その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務 関連する事例についての討論P41～43、P45～51予習 P50～59 【教科書ページ・参考文献】 P41～43、P45～51予習 P50～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P50～59 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第8回 憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣 【key words】 統治、権力分立、国会、立法権、内閣、行政権 【授業概要】 統治機構の概説（権力分立を中心として） 国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等 行政を担当する内閣の地位、組織、権能等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P50～59</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P59～70 【予習復習に必要な想定時間】 60分 憲法7：裁判所、財政、地方自治 【key words】 裁判所、司法権、財政、財政民主主義、法地方自治、地方自治の本旨 【授業概要】 裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。 財政における民意を反映方法 法地方自治につき、その本旨から考える 関連する事例についての討論 P59～70予習：P72～82 【教科書ページ・参考文献】 P59～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P72～82 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>民法1：民法総則 【key words】 法律行為、権利能力、行為能力、代理、時効 【授業概要】 法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力 その他、代理、時効等 関連する事例についての討論 P72～82予習：P96～102 【教科書ページ・参考文献】 P72～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P96～102 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>民法2：契約総論 【key words】 契約、契約の成立、契約の効力、解除 【授業概要】 法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P96～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P102～115 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>民法3：契約各論 【key words】 売買、賃貸借、典型契約、不法行為 【授業概要】 売買、賃貸借等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P102～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P130～159 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>民法4：親権 【key words】 婚姻、親子、親権 【授業概要】 夫婦の関係、親子の関係 関連する事例についての討論 P130～159予習：P162～180 【教科書ページ・参考文献】 P130～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P162～180 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第14回	<p>民法5：相続 【key words】 相続、遺言 【授業概要】 自らの意思に基づいて遺言、遺言のない場合のための法定相続 関連する事例についての討論 P162～180教科書、プリント等の見直し 【教科書ページ・参考文献】 P162～180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、プリント等の見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第15回	<p>まとめ 【key words】 法学概論、憲法、民法、まとめ</p>

	<p>【授業概要】          法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめ P2~180          【教科書ページ・参考文献】          P2~180          【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。</li> <li>・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。</li> <li>・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	月曜日 9時~12時
評価方法	定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館、2015年、有斐閣「ポケット六法」
参考書	授業中に随時紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員  <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している          具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/>グループワーク  <input type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石憲一			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 [到達目標] そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。</p>		
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>第2回 貧困</p> <p>第3回 社会保障と経済</p> <p>第4回 医療経済学</p> <p>第5回 格差</p> <p>第6回 GDP</p> <p>第7回 幸福の経済学</p> <p>第8回 ストック経済学</p> <p>第9回 経済成長</p> <p>第10回 教育の経済学</p>		

	<p>第11回 福祉と経済学</p> <p>第12回 国際収支</p> <p>第13回 国際金融</p> <p>第14回 金融</p> <p>第15回 経済学と日本経済</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4 限。
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巖「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>①パソコンの基本的な操作を理解する。 ②インターネットを正しく利用できる。 ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。 ④Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。 ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションを行うことができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、Word/Excel/PowerPointを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。</p> <p>また、情報の検索など、インターネットの活用方法も理解できるようにする。</p> <p>他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWord/Excel/PowerPointを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 (概論)オリエンテーション、パソコンの基本操作</p> <p><b>【key words】</b> キーボード、マウス、タッチタイピング</p> <p><b>【授業概要】</b> ・講義のオリエンテーション ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> スライド資料 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> キーボード入力を練習する <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 30分</p> <p>第2回 (Word)基本的な文章の入力</p> <p><b>【key words】</b> 日本語入力、ファイル</p> <p><b>【授業概要】</b> ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存</p>
------	--

	<p>・ファイルを開く 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本語入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第3回 (概論) ホームページの利用と情報セキュリティ 【key words】 ホームページ、検索、ブックマーク、ダウンロード 【授業概要】 ・ホームページの見方 ・Googleを利用したホームページの検索 ・ファイルのダウンロードと保存 ・よく見るホームページのブックマーク ・インターネットのセキュリティ(ウイルス対策、各種詐欺対策等) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホームページの検索やファイルのダウンロードを練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第4回 (Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式) 【key words】 ページレイアウト、文字書式、段落書式 【授業概要】 ・ページレイアウトの設定(用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き／横書き) ・文字書式の設定(太字、斜体、下線、フォント、色) ・段落書式の設定(揃え、行間、インデント) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文書に書式を付ける練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第5回 (Excel) Excelの基本操作 【key words】 ブック、ワークシート、セル、行、列 【授業概要】 ・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等) ・行、列の操作(行／列の挿入、削除等) ・データのコピーと貼りつけ ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートにデータを入力する練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 (PowerPoint) プレゼンテーション作成の基本 【key words】 スライド、レイアウト、インデント、アウトライン 【授業概要】 ・プレゼンテーションの作成 ・スライドの作成と編集(コピー、移動、削除等) ・レイアウトの変更 ・インデントとアウトライン ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文章だけのプレゼンテーションを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第7回 (Word/PowerPoint共通) 表を含む文書の作成 【key words】 表、行、列、セル 【授業概要】 ・表の作成とデータ入力 ・表の操作(行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作) ・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 WordやPowerPointで表を作る練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第8回 (Word/Excel/PowerPoint共通) 図形や写真を含む文書の作成 【key words】 図形、写真、ワードアート、スマートアート 【授業概要】 ・図形の挿入と書式設定</p>
--	---

	<p>・図や写真の挿入  ・図等のレイアウト  ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入  ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  図形や写真を含む文書を作る練習をする  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第9回 (Word)複数ページ文書の作成  【key words】  改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次  【授業概要】  ・改ページの挿入  ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用  ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定  ・目次の作成  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  複数ページの文書をスムーズに作れるように練習する  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第10回 (Excel)グラフの作成  【key words】  棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ  【授業概要】  ・棒グラフの作成  ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど)と書式設定  ・折線、円グラフの作成  ・複合グラフの作成  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  グラフの作成を練習する  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第11回 (Excel)基本的な計算  【key words】  数式、オートSUM、関数  【授業概要】  ・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け)  ・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など)  ・よく使う関数(COUNT, ROUND, IF など)  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  数式や関数を使った計算を練習する  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第12回 (PowerPoint)画面切り替えとアニメーション  【key words】  画面切り替え、アニメーション  【授業概要】  ・画面切り替えの設定  ・アニメーションの設定  ・動画と音声の利用  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第13回 (PowerPoint)プレゼンテーションに関する機能  【key words】  ノート、スライドショー、リハーサル、配布  【授業概要】  ・フッターとスライド番号の挿入  ・ノートの作成  ・スライドショーの実行  ・リハーサル機能  ・資料の配布  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  実際のプレゼンテーションを行えるように練習する  【予習復習に必要な想定時間】  30分</p> <p>第14回 (Word/Excel/PowerPoint共通)アプリケーションにまたがる操作とファイル操作  【key words】  コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル</p>
--	---

	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリケーション間のコピーと貼り付け</li> <li>・ドライブ/フォルダ/ファイルの概念</li> <li>・フォルダ/ファイルの操作（コピー、移動、削除など）</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>アプリケーション間のデータのやり取りを練習する ファイル操作に慣れる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p> <p>第15回 情報モラルと課題説明・作成</p> <p>【key words】</p> <p>情報モラル、課題</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルについて</li> <li>・課題内容の説明</li> <li>・課題作成実習</li> <li>・課題を作成して期限までに提出</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする 課題を作成して期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。</li> <li>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業の資料をホームページで配布するのでそれを見て復習する レポート作成などで授業の内容を活用する
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題による評価(100%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	できるWord&Excel 2019、インプレス、2019年 できるPowerPoint 2019、インプレス、2019年
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Office関係の雑誌原稿執筆多数あり</li> <li>コンピュータ関連書籍執筆多数あり</li> </ul> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li>■アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>■その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p> <p>内容がやや複雑な一部の箇所について、YouTubeに復習用の動画を用意</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 情報処理Iに続き、パソコンをより深く使いこなせるようになることを目的とする。 また、自助具作成などのために、パソコンで立体の物を作ることも目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①Word/Excel/PowerPointをより深く使いこなすことができる。 ②3Dデータの作成方法を学び、自助具作りに生かすことができるようになる。</p>
授業の概要	WordおよびExcelのより詳しい使い方を学ぶ。 3次元モデリングソフトのFusion 360の基本的な使い方や、3Dプリンタでの出力などを学ぶ。
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 [Word]長文関連の機能 (1) 【key words】 脚注、図表番号、テンプレート 【授業概要】 ・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注) ・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照) ・テンプレートの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 [Word]長文関連の機能 (2) 【key words】 セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献 【授業概要】 ・段組みの設定(2段組み等) ・セクションで文章を複数のブロックに区切る ・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入 ・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する) ・引用文献の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する</p>

<p>第3回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>[Word] 差し込み印刷関連の機能</p> <p>【key words】 差し込み印刷</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差し込み印刷の基本</li> <li>・差し込み印刷ウィザードの使い方</li> <li>・はがき宛名印刷ウィザードの使い方</li> <li>・封筒やラベルへの差し込み印刷</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
<p>第4回</p>	<p>[Excel] データの視覚化</p> <p>【key words】 スパークライン、条件付き書式</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スパークラインの作成</li> <li>・条件付き書式の設定</li> <li>・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
<p>第5回</p>	<p>[Excel] データベース的な活用</p> <p>【key words】 データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース用のデータ入力</li> <li>・データの並べ替え</li> <li>・データの抽出</li> <li>・ピボットテーブルを使った集計</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
<p>第6回</p>	<p>[Excel] 複雑な計算 (1)</p> <p>【key words】 相対参照、絶対参照、関数</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相対参照と絶対参照</li> <li>・順位 (RANK関数)</li> <li>・複合条件 (AND関数/OR関数)</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
<p>第7回</p>	<p>[Excel] 複雑な計算 (2)</p> <p>【key words】 名前、関数</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルに名前を付けて数式で利用する</li> <li>・セルにふりがなを表示する</li> <li>・日付に関する関数</li> <li>・文字列に関する関数</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 名前機能や各種の関数の使い方を理解する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
<p>第8回</p>	<p>3Dプリンタによる物作りの概要</p> <p>【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dプリンタの仕組みや方式</li> <li>・3Dデータの入手や作成の概要</li> <li>・3Dプリンタでの出力の概要</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書50ページまで</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 3Dプリンタや3Dデータについて復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

第9回	<p>30分  Fusion360の基本操作(1)  【key words】  Fusion 360、立体  【授業概要】  ・基本的な立体(直方体など)の作成  ・立体の移動や回転  ・各種の立体作成操作(トールス、ミラーなど)  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  Fusion 360で立体物を作る操作を復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>30分  Fusion360の基本操作(2)  【key words】  スケッチ、拘束、押し出し  【授業概要】  ・スケッチの作成  ・拘束の設定  ・スケッチから立体を押し出す  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  平面に描いたものから立体を作る方法を復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>30分  Fusion 360の基本操作(3)  【key words】  スカルプト、フォーム  【授業概要】  ・スカルプトとフォーム  ・フォームの押出  ・フォームの移動  ・フォームの拡大、縮小、回転  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  粘土細工のような要領で立体を作る方法を復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>30分  3Dプリンタ出力を想定したデータの作成  【key words】  サポート、分割  【授業概要】  ・普通には出力しづらい／できない形状  ・サポートを利用して出力する  ・複数の部品に分割して出力する  ・ネジ穴の作り方  【教科書ページ・参考文献】  スライド資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】  3Dプリンタで出力しづらい形状があるので、それに対応したデータを作る方法を復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>30分  自助具を作ってみる  【key words】  自助具  【授業概要】  ・ストローホルダーの作成  ・スプーンホルダーの作成  【教科書ページ・参考文献】  教科書86～105ページ  【課題・予習・復習・授業準備指示】  具体的なものを作る方法を復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>30分  3Dプリンタでの出力  【key words】  スライス、素材、パラメータ、3D出力サービス  【授業概要】  ・素材の選択  ・データのスライス  ・出力パラメータの調整  ・3D出力サービスの利用  【教科書ページ・参考文献】  教科書58～84ページ  【課題・予習・復習・授業準備指示】  3Dデータを3Dプリンタで出力するまでの流れを復習する  【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>30分  3Dデータ作成実習</p>

	<p>【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ</p> <p>【授業概要】 ・好きなものを自分で考えて作ってみる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 作成したデータを期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。</li> <li>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業の資料は公開するので、それを使って復習すること
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	平常点(50%)、3Dデータの作成(50%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	はじめてでも簡単！3Dプリンタで自助具を作ろう、三輪書店
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン関連書籍執筆多数</li> </ul> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井英司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。</p> <p>[到達目標] ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。</p>		
授業の概要	テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	おしゃべりは明るく元気にありがとう	
	第3回	恥かき、汗かき、原稿書き	
	第4回	3分間スピーチは四コママンガ	
	第5回	番組づくりは八木節音頭	
	第6回	身近なところにヒントあり	
	第7回	地名は知らないとかメイ的	
	第8回	ニュースとは何か	
	第9回	客観報道とメディア・リテラシー	

	<p>第10回 たかが順番、されど順番</p> <p>第11回 スタッフの複眼生きるナマ中継</p> <p>第12回 実況は大和言葉で花盛り</p> <p>第13回 アブになれ</p> <p>第14回 人生はミスマッチ、三日三月三年</p> <p>第15回 満点を狙わぬ結果が合格点</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を發表い合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後30分は対応可能。
評価方法	筆記試験100%。
教科書	テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。          ② 医療の専門用語を理解できる。          ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
------------	--

授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
--	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Class orientation</li> <li>• 'Getting to know you' exercise</li> <li>• Grammar: Present simple of be</li> <li>• Conversation 1</li> <li>• Textbook p4 &amp; 5</li> <li>• Homework: Review conversation 1</li> </ul> <p>第2回 Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 1</li> <li>• Grammar: Present simple</li> <li>• Numbers &amp; time expressions</li> <li>• Textbook: p6 &amp; 7</li> <li>• Homework: Review conversation 1</li> </ul> <p>第3回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review time expressions</li> <li>• Conversation 2</li> <li>• Listening practice</li> <li>• Textbook: p7 &amp; 8</li> <li>• Homework: Review conversations 1 &amp; 2</li> </ul> <p>第4回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 2</li> <li>• Family vocabulary</li> </ul>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Visitor's code</li> <li>• Grammar: Imperative</li> <li>• Conversation 3</li> <li>• Textbook: p8 &amp; 9</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 3</li> </ul> </li> <li>Meeting Colleagues IV- Escorting a Patient for Tests <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 3</li> <li>• Ordinal numbers &amp; dates (handout)</li> <li>• Hospital equipment and giving comfort expressions</li> </ul> </li> <li>第6回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conversation 4</li> <li>• Textbook: p10 &amp; 11</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 4</li> </ul> </li> <li>Nursing Assessment I - Checking Patient Details <ul style="list-style-type: none"> <li>• Asking for personal details</li> <li>• Grammar: Wh- questions</li> <li>• Patient details interview</li> <li>• Textbook: p12 &amp; 13</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 4</li> </ul> </li> <li>第7回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review patient details</li> <li>• Symptom vocabulary</li> <li>• Describing and asking about symptoms</li> <li>• Conversation 5</li> <li>• Textbook: p14 &amp; 15</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 5</li> </ul> </li> <li>Nursing Assessment II - Describing Symptoms</li> <li>第8回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 5</li> <li>• Patient ward vocabulary</li> <li>• Prepositions of place</li> <li>• Grammar: There is/There are</li> <li>• Textbook: p22 &amp; 23</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 5</li> </ul> </li> <li>The Patient Ward I - The Patient Ward</li> <li>第9回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Listening</li> <li>• Conversation 6</li> <li>• Grammar: Present continuous</li> <li>• Textbook p24 &amp; 25</li> <li>• Prepare for next week's test</li> </ul> </li> <li>The Patient Ward II - Nursing Duties</li> <li>第10回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes)</li> <li>• Go over answers</li> </ul> </li> <li>Review Test ① ・ノート提出 ①</li> <li>第11回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Body parts vocabulary</li> <li>• Body movement vocabulary</li> <li>• Conversation 7</li> <li>• Giving exercise instructions</li> <li>• Textbook p36 &amp; 37</li> <li>• Homework: Review body parts vocabulary</li> </ul> </li> <li>The Body and Movement I - The Body: Limbs and Joints</li> <li>第12回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 7</li> <li>• More body parts vocabulary</li> <li>• Giving body movement instructions (pairwork)</li> <li>• Textbook: p38 &amp; 39</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 7</li> </ul> </li> <li>The Body and Movement II - The Body: Torso and Head</li> <li>第13回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review body parts vocabulary</li> <li>• Grammar: Comparative adjectives</li> <li>• Asking patients about their goals</li> <li>• Conversation 8</li> <li>• Textbook: p40 &amp; 41</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 8</li> </ul> </li> <li>The Body and Movement III - Setting Goals and Giving Encouragement</li> <li>第14回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review body parts vocabulary</li> <li>• Review conversation 8</li> <li>• Review body movement</li> <li>• ROM exercise vocabulary</li> <li>• Textbook p42 &amp; 43</li> <li>• Prepare for review test</li> </ul> </li> <li>The Body and Movement IV - Documenting ROM Exercises</li> <li>第15回 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Do test</li> <li>• Go over answers</li> <li>• Japanese things quiz (speaking practice)</li> <li>• Revise for final test</li> </ul> </li> <li>Review Test ② ・ノート提出 ②</li> </ul>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関する情報]  • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。</p> <p>[受講のルール]  • 授業をよく聞いて、ノートをとる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。</li> <li>・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。</li> <li>・分からない単語があれば、調べておくこと。</li> </ul>
オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Medication vocabulary</li> <li>• Prepositions</li> <li>• Talking to patients about medication (listening)</li> <li>• Conversation 1</li> <li>• Textbook p44 &amp; 45</li> <li>• Review conversation 1</li> </ul> <p>第2回 Medication II - Dosages and Frequency</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 1</li> <li>• Dosage and frequency vocabulary</li> <li>• Expressions of frequency</li> <li>• Textbook p46 &amp; 47</li> <li>• Review conversation 1</li> </ul> <p>第3回 Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Side effects vocabulary</li> <li>• Talking to patients about medication and side effects</li> <li>• Grammar: Auxiliary verbs (may/might)</li> <li>• Conversation 2</li> <li>• Textbook: p48 &amp; 49</li> <li>• Review conversations 1 &amp; 2</li> </ul> <p>第4回 Communicating with Relatives by Phone</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Telephone etiquette</li> <li>• Grammar: Auxiliary verb (will)</li> </ul>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Conversation 3</li> <li>• Textbook p50 &amp; 51</li> <li>• Homework: Review conversation 1 ~ 3</li> </ul>
第5回	Moving and Handling Patients <ul style="list-style-type: none"> <li>• Equipment for moving and handling patients vocabulary</li> <li>• Grammar: Phrasal verbs, be + going to, will</li> </ul>
第6回	Conversation 4 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Textbook: p52 &amp; 53</li> <li>• Homework: Review conversation 1 ~ 4</li> </ul>
第7回	The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone <ul style="list-style-type: none"> <li>• Listening</li> <li>• Talking on the phone: procedures and phrases</li> <li>• Conversation 5</li> <li>• Grammar: Past simple of be</li> <li>• Textbook: p54 &amp; 55</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 5</li> </ul>
第8回	Ordering Supplies <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 5</li> <li>• Listening</li> <li>• Supplies vocabulary</li> <li>• Grammar: Quantifiers (any, enough, much, many)</li> <li>• Textbook: p55 ~ 57</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 5</li> </ul>
第9回	Hospital Food and Beverages <ul style="list-style-type: none"> <li>• Food and beverages vocabulary</li> <li>• Grammar: a/an, some</li> <li>• Conversation 6</li> <li>• Textbook: p28 &amp; 29</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 6</li> </ul>
第10回	Measurements and Quantities <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review conversation 6</li> <li>• Listening</li> <li>• Numbers &amp; measurements vocabulary</li> <li>• Textbook p30</li> <li>• Homework: Prepare for review test</li> </ul>
第11回	Review Test ① ・ノート提出 ① <ul style="list-style-type: none"> <li>• Do test (40 minutes)</li> <li>• Go over answers</li> <li>• Review test answers</li> </ul>
第12回	Caring for a Patient in the Recovery Room ① <ul style="list-style-type: none"> <li>• Recovery room questions</li> <li>• Grammar: Past simple, irregular verbs</li> <li>• Textbook p60 &amp; 61</li> <li>• Review conversations 1 ~ 6</li> </ul>
第13回	Caring for a Patient in the Recovery Room ② <ul style="list-style-type: none"> <li>• Grammar: Review past simple (negative and questions)</li> <li>• Conversation 7</li> <li>• Christmas Listening Activity</li> <li>• Textbook: p61</li> <li>• Homework: Review conversation 1 ~ 7</li> </ul>
第14回	Removing Sutures <ul style="list-style-type: none"> <li>• Grammar: Sequencers</li> <li>• Removing sutures vocabulary</li> <li>• Conversation 8</li> <li>• Textbook: p62 &amp; 63</li> <li>• Homework: Review conversations 1 ~ 8</li> </ul>
第15回	Assessing an Elderly Care Home Resident <ul style="list-style-type: none"> <li>• Care home resident vocabulary</li> <li>• Assessment form Q &amp; A</li> <li>• Assessment form pairwork</li> <li>• Textbook: p66 &amp; 67</li> <li>• Homework: Prepare for review test</li> </ul>
第16回	Review Test ② ・ノート提出 ② <ul style="list-style-type: none"> <li>• Do test</li> <li>• Go over answers</li> <li>• Students study by themselves and ask me questions</li> <li>• Revise for final test</li> </ul>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業をよく聞いて、ノートをとる。</li> <li>• ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。</li> <li>• 英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。</li> <li>• 分からない単語があれば、調べておくこと。</li> </ul>

オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	・筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員  <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している  具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/>グループワーク  <input type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]          ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。          韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。</p> <p>[到達目標]          1) ハングル文字が書けて正しく読める。          2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。          3) 韓国語で自己紹介が出来る。          4) パソコンで韓国語の入力が出来る。</p>
------------	--

授業の概要	<p>ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。          ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様になり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。</p>
-------	--

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係          ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
--	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴</p> <p>第2回 ハングルの母音、出会いの挨拶</p> <p>第3回 ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶</p> <p>第4回 ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）感謝、謝罪の際の会話</p> <p>第5回 ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話</p> <p>第6回 ハングルのパッチム、お願いの時の会話</p> <p>第7回 ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶</p> <p>第8回 ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化</p>
------	--

	<p>第9回 ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記</p> <p>第10回 パソコンでのハングルの入力の仕方</p> <p>第11回 ～は～ですの文型、自己紹介</p> <p>第12回 ～は何ですか?の文型 指示代名詞</p> <p>第13回 疑問詞を用いての分の表現 (いつ、どこ、なに、だれ)</p> <p>第14回 ある、ない、分かる、分からないの表現</p> <p>第15回 読み書きのまとめ、日常会話の復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう (初級)』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。</p> <p>〔到達目標〕 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2) 月・日・番号・値段が言える。 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。</p>
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	否定文の表現 助詞～も
	第2回	指示代名詞（事物・場所）身の回りの単語
	第3回	家族の呼び名 助詞～の
	第4回	この～は誰の物ですかの文型
	第5回	位置関係の言葉
	第6回	何処に～がありますの文型 助詞～が（主格助詞）
	第7回	助詞～に（場所）、～と（並列・羅列）
	第8回	動詞、形容詞の会話体（です、ます）の活用 助詞～を（目的格）

	<p>第9回        ～で～をしますの文型 助詞～で</p> <p>第10回       体の名称の単語 主要副詞語</p> <p>第11回       時を表す言葉 疑問を表す言葉</p> <p>第12回       映像で学ぶハングル</p> <p>第13回       尊敬型の活用 曜日</p> <p>第14回       リウル変則用言、助詞～しに</p> <p>第15回       まとめ (助詞 活用 変則活用の復習)</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見もあり、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。</li> <li>中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。</li> </ul> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピンインを見て発音ができるようになる。</li> <li>中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。</li> </ul>
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション（教科書2・3頁を読んでおく）</p> <p>第2回 第1課 你好（こんにちは） 中国語の音節 声調 ドリル</p> <p>第3回 第2課 明天見（また明日） 単母音 複母音 ドリル</p> <p>第4回 第3課 谢谢（ありがとう） 子音（1）ドリル</p> <p>第5回 第4課 好久不见（お久しぶり） 子音（2） 鼻音 ドリル</p> <p>第6回 第5課 迎接（出迎える） 名前の言い方・たずね方</p> <p>第7回 第6課 欢迎会（歓迎会） 動詞「是」・助詞「的」の使い方</p> <p>第8回 第7課 打的（タクシーに乗る） 基本語順S+V+O 連動文</p> <p>第9回 第8課 住宿（宿泊する） 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞</p>
------	--

	<p>第10回 第9課 問路（道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方</p> <p>第11回 第10課 买东西（ショッピングをする）数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方</p> <p>第12回 第11課 聊天儿（おしゃべりをする）年月日・曜日の言い方、年齢の言い方</p> <p>第13回 第12課 点菜（料理を注文する）量詞、動詞の重ね方</p> <p>第14回 第13課 买足球票（サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」</p> <p>第15回 前期総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。</li> <li>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。</li> <li>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身の周りの日常的な事柄を表現できるようにする。</li> <li>・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。</li> <li>・語学学習を通して、異文化理解を深めます。</li> </ul> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。</li> </ul>
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 第14 課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表す「了」</p> <p>第2回 第15 課 网吧（ネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」</p> <p>第3回 第16 課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」</p> <p>第4回 第17 課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」二重目的語をとる動詞</p> <p>第5回 第18 課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文</p> <p>第6回 第19 課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文</p> <p>第7回 第20 課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）補語結果 様態補語</p> <p>第8回 中国の日本事情</p>

	<p>第9回 第21課 全家照（家族写真） 「是～的」構文、比較表現「比」</p> <p>第10回 第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語</p> <p>第11回 第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語</p> <p>第12回 第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語 可能補語</p> <p>第13回 第25課 看病（診察）主述述語文 受身表現</p> <p>第14回 第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現</p> <p>第15回 総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。</li> <li>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。</li> <li>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月
参考書	相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月 倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようにすることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につけている</li> <li>2. 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている</li> <li>3. 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につけている</li> <li>4. 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている</li> <li>5. 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている</li> <li>6. 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につけている</li> </ol>
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・レクリエーションの理解</p> <p>【key words】 レクリエーション</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～P8 学習課題の概要を確認しておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アイズアレキシングとして相応しい材料を検討しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム</p> <p>【key words】</p>
------	--

	<p>アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】          集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          教科書P66</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          30分</p>
第3回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①</p> <p>【key words】          アレンジ</p> <p>【授業概要】          対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          30分</p>
第4回	<p>レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 段階的に成功体験をしやすいようにアレンジの基本と応用</p> <p>【key words】          アレンジの方法</p> <p>【授業概要】          アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          30分</p>
第5回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のための歌</p> <p>【key words】          アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】          室内でできるレクリエーションゲーム実践する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          対対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          【予習復習に必要な想定時間】          1時間</p>
第6回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)</p> <p>【key words】          アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】          新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム 遊びができることを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          【課題・予習・復習・授業準備指示】          自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          30分</p>
第7回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】          レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】          レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          参考書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          2時間</p>
第8回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】          レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】          レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。</p>

第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第10回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第11回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第12回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p>

第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分 前期の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第16回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 参考書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第17回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第18回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ①あたたかくもてなすという意識と配慮 【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第19回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 【key words】 レポート ジョイニング トラッキング アコモデーション マイム 【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。レポートの成立している状態等について意識してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第20回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 ユニバーサルホッケー 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第21回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動  <b>【key words】</b>  ユニバーサルホッケー  <b>【授業概要】</b>  ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。    <b>【教科書ページ・参考文献】</b>    <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第22回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）  <b>【key words】</b>  レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング  <b>【授業概要】</b>  レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  参考書P162～206  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  2時間</p>
第23回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）  <b>【key words】</b>  レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング  <b>【授業概要】</b>  レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  参考書P162～206  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  2時間</p>
第24回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評）  <b>【key words】</b>  レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング  <b>【授業概要】</b>  レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  参考書P162～206  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第25回	<p>レクリエーション支援の方法 良好な集団作りの方法・アイスブレイキング 集団がまとまる仕組みを活かすプログラム アイスブレイキングモデル  <b>【key words】</b>  よりよい生の実現  <b>【授業概要】</b>  レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書P70 参考書P274  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  CASE STUDY の事例を確認しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  30分</p>
第26回	<p>レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）  <b>【key words】</b>  素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス  <b>【授業概要】</b>  支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書P78 参考書P278～P287  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分 第27回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第28回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第29回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3 (企画案の評価及び好評) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第30回 1年間の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。</li> <li>・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。</li> <li>・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること</li> <li>・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ インターネット等で収集するよう心がけること。</li> <li>・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。</li> </ul>
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	<p>評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50% レポート等提出物(活動企画書)20% 実技30% として総合的に評価する。</p>
教科書	<p>レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】楽しさ・心地よさを活かす理論と技術?(財)日本レクリエーション協会編</p>
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート</p>

- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位 (60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につけている</li> <li>2. 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている</li> <li>3. 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につけている</li> <li>4. 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている</li> <li>5. 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている</li> <li>6. 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につけている</li> </ol>
------------	--

授業の概要	<p>年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割</p> <p>【key words】                  生きがい、基本的人権、良循環</p> <p>【授業概要】                  余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】                  参考書 レクリエーション活動援助法P2～P7</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】                  これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者としてのレクリエーションの在り方について考えてみる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】                  1時間</p>
------	---



第2回	<p>レクリエーション概論 レクリエーションという言葉の主旨</p> <p>【key words】 RE-CREATE</p> <p>【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11 参考書 レクリエーション活動援助法P10～P11</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的と方法 インストラクターの役割</p> <p>【key words】 厚生、コムニウス、フレール、プレイグランド運動</p> <p>【授業概要】 レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P11～P24 参考書 レクリエーション活動援助法P12～P16</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第4回	<p>基礎理論 レクリエーションへの期待</p> <p>【key words】 生活者 支援者 人を支える</p> <p>【授業概要】 生活者 支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第5回	<p>基礎理論 生活のレクリエーション化</p> <p>【key words】 生活のレクリエーション化</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>基礎理論 レクリエーションの生活化</p> <p>【key words】 レクリエーションの生活化</p> <p>【授業概要】 日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>日常生活におけるレクリエーションの捉え方</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活</p> <p>【授業概要】 近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくことを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P39～P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第8回	<p>日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活 ライフスタイル 基本的欲求</p> <p>【授業概要】 福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の3つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P43～P48</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>楽しさと心の元気づくりの理論 レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援</p> <p>【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン</p> <p>【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P162～P169</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み</p> <p>【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン</p> <p>【授業概要】 身近な地域（コミュニティ）とより広い領域の（リージョン）。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きかけることができる課題についてあげてみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>レクリエーション支援理論 レクリエーション支援におけるコミュニケーション</p> <p>【key words】 コミュニケーションワーク ホスピタリティ</p> <p>【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>レクリエーション支援理論 コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング～プログラミングの原則～</p> <p>【key words】 アイスブレイキングモデル</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 ～アイスブレイキングモデルの作成～</p> <p>【key words】 アイスブレイキングモデル</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表</p> <p>【key words】 アイスブレイキングのプログラミング</p> <p>【授業概要】 アイスブレイキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。（質疑応答含む） 【教科書ページ・参考文献】</p>

第15回	<p>教科書P259～269  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間  まとめ（評価・ふりかえり）  <b>【key words】</b></p> <p><b>【授業概要】</b>  前期 授業の振り返りとテストについての確認を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  前期テストにむけて配付プリント ノートを整理しておくこと  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第16回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 乳幼児期～児童期～青年期～老年期  <b>【key words】</b>  ライフスタイル 対応するレクリエーション課題  <b>【授業概要】</b>  年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書P70～P81  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。今回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第17回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 少子高齢社会の課題とレクリエーション  <b>【key words】</b>  ライフスタイル 対応するレクリエーション課題  <b>【授業概要】</b>  少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 P92～P141  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみる  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第18回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）  <b>【key words】</b>  生活のレクリエーション化 個人への働きかけ 集団への働きかけ  <b>【授業概要】</b>  高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書P92～116  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第19回	<p>支援論 治療的意味合いを含めたレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス  <b>【key words】</b>  レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション  <b>【授業概要】</b>  治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  参考書 レクリエーション活動援助法(中央法規) P150～P168  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第20回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 素材アクティビティの提供  <b>【key words】</b>  素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス  <b>【授業概要】</b>  レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目</p>

	<p>的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 P274～P277  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第21回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク ハードル設定 CSSプロセス  <b>【key words】</b>  素材・アクティビティ、すり合わせ  <b>【授業概要】</b>  素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。  レクリエーション実技 “リズム手合わせ”</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 P278～P287  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第22回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク 対象者間の相互作用の活用法  <b>【key words】</b>  ハードル設定 CSSプロセス  <b>【授業概要】</b>  達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書P288～P297  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第23回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク 指導実習  <b>【key words】</b>  ハードル設定 CSSプロセス  <b>【授業概要】</b>  乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第24回	<p>レクリエーション支援のプログラム 事業計画 レクリエーション事業とは  <b>【key words】</b>  マズロー5段階欲求説 生活の快 動機づけ  <b>【授業概要】</b>  レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 P162～P169 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第25回	<p>レクリエーション支援のプログラム アセスメントに基づいたプログラム計画 A-PIEプロセスへニーズの確認 目標設定 展開 期待される効果 ～  <b>【key words】</b>  A-PIEプロセス  <b>【授業概要】</b>  A-PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 P184～P195 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  1時間</p>
第26回	<p>レクリエーション支援のプログラム レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画の作り方～  <b>【key words】</b>  レクリエーションプログラム総合計画 A-PIEプロセス  <b>【授業概要】</b>  福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。</p>

	<p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書P162～P195 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 1時間</p> <p>第27回 レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 <b>【key words】</b> Plan Do See プロセス <b>【授業概要】</b> 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書P196～P207 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 1時間</p> <p>第28回 レクリエーション支援のプログラム リスクマネジメント リスクマネジメントの方法～ <b>【key words】</b> リスクマネジメント <b>【授業概要】</b> レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>教科書P208～P223 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 1時間</p> <p>第29回 レクリエーション支援のプログラム レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 <b>【key words】</b> レクリエーションプログラム総合計画 <b>【授業概要】</b> 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) <b>【教科書ページ・参考文献】</b> 教科書P162～P195 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 1時間</p> <p>第30回 一年間のまとめ(評価・ふりかえり) <b>【key words】</b> <b>【授業概要】</b> 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b> <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 1時間</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。</li> <li>・授業シラバスを必ず確認すること。</li> <li>・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。</li> </ul>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	筆記試験60% 授業中レポート20% グループワーク及び発表20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ?楽しさ・心地よさを活かす理論と技術? (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】 (中央法規)

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>地域スポーツクラブでの指導経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理する力を育む。</p> <p>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。  ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。  ③レポートを形式に則って作成できる。  ④グループワークを円滑に実施できる。  ⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。  ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。  ⑦データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理することができる。</p>
授業の概要	本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身に付ける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、建学の精神、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学士力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 基礎学士力とは何か。また、基礎演習 I において建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。ポートフォリオについて概要、制作方法について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：建学の精神について調べ、資料を印刷してくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回 建学の精神と実践教育プログラム②：学び方、ノートの取り方について</p> <p>【key words】 基礎学士力、学び方、ノートの取り方</p> <p>【授業概要】 高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
------	--

第3回	<p>建学の精神と実践教育プログラム③：図書館の利用について</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学力、図書館の利用、データベース、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第4回	<p>建学の精神と実践教育プログラム④：グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【key words】 建学の精神、グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第5回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑤：礼儀、挨拶の実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶</p> <p>【授業概要】 他者から好感をもたれる礼儀・挨拶について、電話のかけ方、メールの受信・送信についてまとめ実践できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム①： レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱いについても学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：①次回までに図書館及び大学HPから文献を検索し各自1点以上の文献を印刷し次回持参すること。文献は原著論文のみ。文献検索のテーマは自由</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム②：レポートの書き方②</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。それをもとに、各自に事前に提出したレポートを振り返り、改善点を見出す。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第8回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑥：身だしなみの実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 臨床の場を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。</p>



	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第9回 建学の精神と実践教育プログラム⑦：礼儀・挨拶、環境美化について①</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化</p> <p>【授業概要】 学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰しも理解しているが、臨床場面（病院での環境衛生）においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ（A4用紙2枚 パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日掲示する。 ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 punn 60～90分</p> <p>第10回 建学の精神と実践教育プログラム⑧：礼儀・挨拶、環境美化について②</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、礼儀・挨拶・環境美化の重要性を学び、自己を振り返り、今後の学生生活に活かしていく。 レポート課題：前期を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題あり ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p> <p>第11回 学士力育成プログラム③：レポートの書き方③</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、レポートの書き方</p> <p>【授業概要】 礼儀・挨拶・環境美化のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。 用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第12回 建学の精神と実践教育プログラム⑨：個人情報保護について</p> <p>【key words】 建学の精神、個人情報保護、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、グループワークにより個人情報保護について情報収集を行い、それらを統合し自らの解釈を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：個人情報保護が守れなかった事例等について調べ、印刷してくること 復習：ポートフォリオの作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第13回 学士力育成プログラム④：【事前学習：命の大切さ】</p> <p>【key words】</p>
--	---

	<p>命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 1985年8月12日に起こった日航機墜落事故について、何故事故が起こったのかその原因と共に理解する。データベースを用いて調べた後、正確な情報とは何か、情報の分析について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日航機墜落事故について調べ、資料を印刷してくること 復習：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第14回 学士力育成プログラム⑤：【講演：命の大切さ】</p> <p>【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 命の大切さについて、いのちを織る会事務局の美谷島氏の講演を聴講する。遺族の思いについて考える機会を持つ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：講演内容をまとめておくこと。ポートフォリオの作成。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第15回 学士力育成プログラム⑥：【まとめ：命の大切さ】</p> <p>【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 聴講した内容を基に、事前学習内容を整理する。当事者の思い、遺族の思いについて考える。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題：日航機墜落事故についてまとめ、突然発症した患者と向き合いながらPT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。</p> <p>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ④内容が類似した課題は受け付けなため、自己の努力で作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。
オフィスアワー	木曜日16：00～17：00
評価方法	<p>◆レポート30%◆発表30%◆ポートフォリオ40%</p> <p>&lt;レポート採点基準&gt;</p> <p>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点） 必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点） ②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点） ③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点） ④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点） ⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点） ⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点）</p> <p>&lt;発表評価基準&gt;</p> <p>①声の大きさ・明瞭度：聞きやすいこの大きさと明瞭度で発表できた（3点） ②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点） ③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点） ④時間：4分30秒以上5分以内（5点） 4分以上4分30秒以内（3点） 4分未満、5分以上（1点） ⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点） 所々不十分（5点） 不十分（1点）</p> <p>&lt;ポートフォリオ評価基準&gt;</p> <p>①ポートフォリオの基本事項が守られている</p> <p>1)全ての資料に日付が記載されている（5点） 2)日付順にファイリングしてある（5点） 3)全ての資料に出典が記載されている（5点） 4)全ての資料に考察が書かれている（10点）</p> <p>②資料</p> <p>1)各階の全ての配布資料がファイリングされている（5点） 2)自ら収集した資料がファイリングされている（10点）</p>
教科書	基礎演習テキスト、地へのステップ、学生生活G U I D E
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p>

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b>          本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。          ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができ</p>
授業の概要	基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係          ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム 1：科目オリエンテーション  <b>【key words】</b>          学士力、社会人基礎力、建学の精神  <b>【授業概要】</b>          学士力、建学の精神基礎演習Ⅱの位置づけやボランティア活動Ⅱとの関連性についてレクチャーを行う。また、学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          基礎演習テキスト、学生生活GUIDE  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          基礎演習Ⅰおよびボランティア活動Ⅰの振り返りをしておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>第2回 学士力育成プログラム1：1) 敬語  <b>【key words】</b>          敬語、文法、語彙力  <b>【授業概要】</b>          敬語・文法・語彙力の基礎的知識を学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳)P5-30          配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。          特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ <a href="https://www.nihongokentei.jp/">https://www.nihongokentei.jp/</a>  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>第3回 学士力育成プログラム2：2) 文法  <b>【key words】</b>          言葉の意味、言葉の表記、漢字  <b>【授業概要】</b>          言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>          スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳)P32-56          配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p>
------	---

<p>第4回</p>	<p>以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。          特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ <a href="https://www.nihongokentei.jp/">https://www.nihongokentei.jp/</a>  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p> <p>学士力育成プログラム3：3) 語彙力・言葉の意味</p> <p><b>【key words】</b>          言葉の意味、言葉の表記、漢字</p> <p><b>【授業概要】</b>          言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>          スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳) P58-82</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。          特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ <a href="https://www.nihongokentei.jp/">https://www.nihongokentei.jp/</a>  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
<p>第5回</p>	<p>学士力育成プログラム4：4) 表記・漢字</p> <p><b>【key words】</b>          敬語、文法、語彙力、言葉の意味、言葉の表記、漢字</p> <p><b>【授業概要】</b>          表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>          スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳) P84-96</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          事前に配布した資料の復習を十分に行い理解しておくこと。          特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ <a href="https://www.nihongokentei.jp/">https://www.nihongokentei.jp/</a>  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
<p>第6回</p>	<p>学士力育成プログラム5：1) リハビリテーション職種のマネジメント</p> <p><b>【key words】</b>          第一印象、管理運営、マネジメント</p> <p><b>【授業概要】</b>          小テスト</p> <p>現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。</p> <p>①第一印象に二度目はない P12-14          ②タイムマネジメントができない P41-43</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
<p>第7回</p>	<p>学士力育成プログラム6：2) リハビリテーション職種のマネジメント</p> <p><b>【key words】</b>          多職種連携、管理運営、マネジメント</p> <p><b>【授業概要】</b>          現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。</p> <p>①利用者は何を求めているのか P18-20          ②多職種連携を成功させるコツは? P21-23</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b></p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
<p>第8回</p>	<p>学士力育成プログラム7：1) 国際福祉機器展の事前学習</p> <p><b>【key words】</b>          生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p><b>【授業概要】</b>          国際福祉機器展の概要、過去の展示会の状況などを理解する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>          国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          国際福祉機器展での学外学習後に、学習の成果をグループごとにプレゼンテーションする。各グループで、当日に見学・学習する内容を明確にしておくこと(事前学習が重要である)。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>
<p>第9回</p>	<p>学士力育成プログラム8：2) 国際福祉機器展</p> <p><b>【key words】</b>          生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p><b>【授業概要】</b>          国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>          国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>          事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>          30分程度</p>

第10回	<p>学士力育成プログラム9：3) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム10：4) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム11：5) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第13回	<p>学士力育成プログラム12：6) 国際福祉機器展の振り返り</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第14回	<p>学士力育成プログラム13：7) 国際福祉機器展の振り返り</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ <a href="https://www.hcr.or.jp/">https://www.hcr.or.jp/</a></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム2：基礎演習まとめ</p> <p>【key words】 学士力、社会人基礎力、建学の精神</p> <p>【授業概要】 第1回～第14回までの建学の精神と実践教育プログラムと学士力育成プログラムを通して学んだ事のまとめをおこなう。ここでは、今まで学んだ事を整理し、各グループにて口頭で自分の考えを説明することができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの配布資料や収集した資料を整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。

る情報	
オフィスアワー	木曜日の13時以降。また、可能な日については授業時に指示する。
評価方法	・日本語検定の小テスト30%、マネジメントに関するレポート30%、国際福祉機器展に関する取り組みレポート20%、プレゼンテーション20%で評価します。60%に達しない場合、課題の指示をします。
教科書	基礎演習テキスト、学生生活GUIDE、スキルアップ！日本語力、リハビリテーション職種のマネジメント。
参考書	参考書については、授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。
------------	---

授業の概要	総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」をグループワーク等を通して身につけていく。
-------	---

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
---	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	△
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／学力について (山口) 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 本科目のオリエンテーションを行うとともに、本科目で学ぶべき事項を明らかにする。ポートフォリオの説明と評価基準大学生における学力について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに、「学力とは何か？どのような力なのか？」という問いについて自分なりに解答できるように、配布資料を基に各自で調べたことをまとめ、ポートフォリオを作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第2回	学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1 (山口) 【key words】 学び、学力、多様性 【授業概要】 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。 前回提示された課題の用紙を基に、学力について理解を深め、自分が今まで学び成長したことを振り返り、今後2年間の課題を見つめなおす機会とする。 視点の多様性について(多文化・多面的視点に関する教材をみる) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料  【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第3回	学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2 (山口) 【key words】 グループワーク 【授業概要】 定められた課題に対して、グループで解決していくための取り組みを行う。それらの活動を通して、グループワークの難しさや課題、メリットなどについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】



第4回	<p>60分            学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3（山口）  <b>【key words】</b>            多様性、民主主義、自由  <b>【授業概要】</b>            学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            90分</p>
第5回	<p>学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1（村山）  <b>【key words】</b>            課題解決型学習  <b>【授業概要】</b>            提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成            次回までに課題を作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            120分</p>
第6回	<p>学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2（村山）  <b>【key words】</b>            課題解決、グループワーク  <b>【授業概要】</b>            グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成  <b>【レポート①】</b>の作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            180分</p>
第7回	<p>学習統合プログラム⑥：問題解決型学習2-1（榎原）  <b>【key words】</b>            課題解決、グループワーク  <b>【授業概要】</b>            提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する  <b>【レポート①】</b>の提出  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成            次回までに課題を作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            180分</p>
第8回	<p>学習統合プログラム⑦：問題解決型学習2-2（榎原）  <b>【key words】</b>            課題解決、グループワーク  <b>【授業概要】</b>            グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            180分</p>
第9回	<p>学習統合プログラム⑧：問題解決型学習3-1（山口）  <b>【key words】</b>            課題解決、グループワーク  <b>【授業概要】</b>            提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b>            配布資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>            ポートフォリオ作成            次回までに課題を作成  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>            90分</p>
第10回	<p>学習統合プログラム⑨：問題解決型学習3-2（山口）  <b>【key words】</b></p>

	<p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【予習復習に必要な想定時間】 60分 学習統合プログラム⑩：問題解決型学習4-1（村山） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 次回までに課題を作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑪：問題解決型学習4-2（村山） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【予習復習に必要な想定時間】 60分 学習統合プログラム⑫：問題解決型学習5-1（榎原） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 次回までに課題を作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑬：問題解決型学習5-2（榎原） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【レポート②】の作成 【予習復習に必要な想定時間】 180分 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ（山口） 【key words】 これまでの授業の振り返り（振り返りシートの記入等）</p> <p>【授業概要】 レポート②の提出 全てのポートフォリオ提出 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	グループワークが多いので休まないこと。 ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

オフィスアワー	毎週水曜日 16:00～17:00
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ポートフォリオ30% (期限遵守、適切な時系列でのファイリング、思考過程が追える工夫)</li> <li>■ルーブリック評価 (自己評価等) 70%</li> </ul>
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>担当する教員は理学療法士や 作業療法士としての臨床経験だけでなく、各職能団体や関連NPO法人の役員など様々な社会活動の経験を持っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>□実習、フィールドワーク</li> <li>□アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報モラルに関する教育</li> <li>□課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等)</li> <li>□情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</li> <li>□情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li>□その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b>          本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。          ②社会人としてのマナーを身につける。</p>		
授業の概要	総合演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自身自身を客観的に捉え直す機会とする。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係          ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について <b>【key words】</b> 科目オリエンテーション、建学の精神 <b>【授業概要】</b> 授業の流れと建学の精神について説明を行う。 課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b> 指定なし <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 建学の精神について振り返りをしておく。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 復習180分	
	第2回	進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ <b>【key words】</b> 就職活動 <b>【授業概要】</b> 就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b> P77-81 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分	
	第3回	進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座① <b>【key words】</b> 就職活動、マナー <b>【授業概要】</b> 就職活動に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。 <b>【教科書ページ・参考文献】</b> P27-36 <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 <b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分	
	第4回	進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座② <b>【key words】</b> 就職活動、マナー <b>【授業概要】</b>	

	<p>就職活動に必要なとなる社会人としてのマナーを学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P27-36  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>進路・資格取得プログラム④：働くときの基礎知識  <b>【key words】</b>  就職活動、求人票  <b>【授業概要】</b>  求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見てみる。気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  P16-17  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>進路・資格取得プログラム⑤：情報収集①  <b>【key words】</b>  就職活動、情報収集  <b>【授業概要】</b>  興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  就職活動に関する情報収集を行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>進路・資格取得プログラム⑥：情報収集②  <b>【key words】</b>  就職活動、情報収集  <b>【授業概要】</b>  興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  就職活動に関する情報収集を行う。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①  <b>【key words】</b>  就職活動、自己分析  <b>【授業概要】</b>  就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P85-88  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②  <b>【key words】</b>  就職活動、自己分析  <b>【授業概要】</b>  就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P85-88  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①  <b>【key words】</b>  就職活動、履歴書  <b>【授業概要】</b>  就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  P18-19  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第11回	<p>進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②  <b>【key words】</b>  就職活動、履歴書  <b>【授業概要】</b>  就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>

	<p>P18-19  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  進路・資格取得プログラム⑪：面接①  <b>【key words】</b>  就職活動、面接  <b>【授業概要】</b>  面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>P27-36  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  進路・資格取得プログラム⑫：面接②  <b>【key words】</b>  就職活動、面接  <b>【授業概要】</b>  面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p> <p>P27-36  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編）  <b>【key words】</b>  就職活動、卒業生講話  <b>【授業概要】</b>  卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  卒業生講話を踏まえて、就職活動と国家試験の準備を進める。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  復習180分  進路・資格取得プログラム⑭：まとめ  <b>【key words】</b>  就職活動、まとめ  <b>【授業概要】</b>  これまでの振り返りとポートフォリオを用いての自己評価を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  指定なし  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  全15回の授業の振り返りを行い、ポートフォリオを作成する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  ポートフォリオ作成180分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<b>【受講生に関わる情報】</b> 教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。 <b>【受講のルール】</b> 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	チャトルカード
授業外時間にかかわる 情報	予習復習を欠かさないこと。 科目内で学んだことを踏まえて、計画を立てて就職活動を進めること。
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> ポートフォリオ 100%
教科書	学校法人昌賢学園：進路の手引き
参考書	授業内で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。その中で作業療法部門主任として、人事に携わり求人活動を行っていた経験が、科目内で活かされている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)

- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称： \*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。 ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。 ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。 ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。 ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる</p>
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係	
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/ポートフォリオとは</p> <p>【key words】 ボランティア、目標、学視力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第2回	<p>マナー</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、挨拶、敬語、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける挨拶、敬語、身だしなみについて、社会人としての心構えに加え、医療従事者としての態度や対象者への関わり方の実践について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 身だしなみについて体験学習を行うため、授業態度として適切な服装を調べた上で参加すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第3回	<p>マナー</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、電話対応、来客対応、訪問マナー</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける電話対応、来客対応、訪問マナーについて、社会人としての基礎対応に加え、医療従事者としての態度など医療や介護施設スタッフの一員として相手に与える影響を考える機会を作りながら説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 案内などを体験学習するため、大学の設備や教室の配置を学生ハンドブックなどで確認しておく</p>



第4回	<p>こと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 マナー 【key words】 ビジネスマナー、文書作成</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおけるメール作成、文書作成、FAX送信について、臨床実習やボランティア参加を想定した作成例を提示しながら、文章作成方法や送信方法を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>マナー 【key words】 ビジネスマナー、ハウレンソウ、個人情報保護 【授業概要】 ビジネスマナーにおけるハウレンソウ、個人情報保護について、法令などを提示しながら、チーム医療の中で必要な情報の取り扱い方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人情報保護法について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、積極的質問 【授業概要】 コミュニケーション技法の基礎について、対人援助職における必要性を踏まえて、臨床実習における対象者との面接で行う対話方法や環境設定について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問診や初回面接で質問する内容を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【授業概要】 第6回で学んだコミュニケーション技法を活用し、1対1の面接（テーマ：現在抱えている問題）を体験しながら学習する。面接でのやりとりを記録し、逐語録を作成し、第8回で分析する資料を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、第6回の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接の記録に使用する録音機器を持参する。次回の授業までに逐語録を作成してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第8回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【授業概要】 第7回で作成した逐語録を見ながら、面接時の、自身の応答の傾向を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、第7回で作成した逐語録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で作成した逐語録を印刷して持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>講話：学生ボランティア経験について 【key words】 ボランティア経験、目標 【授業概要】 挨拶・礼儀、環境美化、ボランティア・これまでのボランティア経験と臨床との繋がり等に関して、各専攻の先輩からの体験談を聞き、今後のボランティア活動の取り組みについて内省する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動記録簿を見直し、未記入の欄があれば埋めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>資料の作成方法 【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p>

	<p>【授業概要】 分かりやすいプレゼンテーションを行うための資料作成の基礎（パワーポイント等を中心に）を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 分かりやすい資料作成の条件などが記載されている資料を印刷準備しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第11回 資料の作成方法</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p> <p>【授業概要】 第10回で共有し知識をもとに、プレゼンテーション用資料を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回スムーズに発表ができるように、発表スライドの確認や発表の際の役割分担などを話し合っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第12回 資料の作成方法</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p> <p>【授業概要】 第10・11回で準備したプレゼンテーションを、4人一組のグループで行う。グループ内で各プレゼンテーション用資料に対し、良かった箇所や改善案を挙げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に配布資料を行う場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第13回 グループワークの進め方</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー分類、構造化</p> <p>【授業概要】 与えられたテーマに基づき、グループワークのプロセスを学ぶ。作業を役割分担し、各グループメンバーから出た意見をカテゴリー化し、構造化して発表資料を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティアについて自信の考えを整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第14回 グループワークの進め方</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー化、構造化</p> <p>【授業概要】 与えられたテーマに基づき、第13回でまとめた内容を発表し、グループ間で意見交換を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に資料を配布する場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第15回 学んだことの振り返り</p> <p>【key words】 目標、ボランティア</p> <p>【授業概要】 第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に係る情報〕 A4クリアブック(40ポケット)を用意</p> <p>〔受講のルール〕 積極的なボランティア活動の実践が前提である。 ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	各専攻担任より指示
評価方法	<p>ポートフォリオ 30% 授業内課題 60% ボランティア講話 10%</p> <p>&lt;ポートフォリオ採点基準&gt;</p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）</p> <p>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）</p> <p>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）</p> <p>&lt;授業内課題&gt;</p> <p>①電話対応（10点）</p> <p>②ハウレンソウ（10点）</p> <p>③個人情報保護（10点）</p> <p>④コミュニケーション技能（10点）</p> <p>⑤資料作成（10点）</p> <p>⑥グループワーク（10点）</p> <p>&lt;ボランティア講話&gt;</p> <p>感想文（10点）</p>
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	<p>鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006</p> <p>尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解, サンクチュアリ出版, 2010</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士歴 13年 作業療法士養成校教員経験 7年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
漆畑典子			
基礎科目	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><b>【授業の目的】</b> 将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させ、心と心の通い合いによって生まれる暖かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を深め、自己肯定感を高めるための取り組みを自ら実践できる。</li> <li>対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解し、コミュニケーションスキルを習得し向上させる具体的な方法について説明、実践できる。</li> <li>感情に関する基本を理解し、自分の感情をコントロールする取り組みができる。</li> <li>自分も相手も大切にしたい伝え方(アイメッセージ)や自己主張(アサーティブネス)の基本を理解し、方法について説明できる。</li> </ul>
------------	---

授業の概要	本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要なコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。
-------	---

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
---	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 【key words】 メタ認知 【授業概要】 授業概要、シラバス(内容・評価法など)、授業方式と注意点などを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 pⅢ～XVI、p2～20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。教科書 pⅢ～pXVI、p2～20 を読む。 教科書、筆記用具、持っていればカラーペンや色鉛筆などを持参する。 復習：教科書、配布資料を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>第2回 自己理解 I 【key words】 自己存在、自己概念、エゴグラム 【授業概要】 自分を理解するためのグループワークなどを通して自己理解に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>教科書 p21～33  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：教科書 p 21～33 を読む。  教科書、筆記用具、ハサミ、カラーペンや色鉛筆など、糊（スティックのり等）持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p> <p>自己理解Ⅱ  <b>【key words】</b>  自己認知、自己肯定感、ジョハリの窓  <b>【授業概要】</b>  自己肯定感について理解し、自己肯定感を高めるためのグループワークなどに取り組む。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  授業時に配布する資料  教科書 p 34～40、P200  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：配布資料を再度読み、理解を深める。教科書 p 34～40 を読む。  教科書、筆記用具、ハサミを持参する。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第4回	<p>コミュニケーション力を育もうⅠ  <b>【key words】</b>  言語・準言語・非言語コミュニケーション  <b>【授業概要】</b>  言語・準言語・非言語コミュニケーションについて学び、ペアワークやグループワークを通して具体的に理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 p 41～50  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：教科書 p 41～50 を読む。  教科書、筆記用具持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第5回	<p>コミュニケーション力を育もうⅡ  <b>【key words】</b>  聞く、聴く、訊く、  <b>【授業概要】</b>  ペアワークやグループワークを通して基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解する  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 p 50～60, p 165～170  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：教科書 p 50～60, p 165～170 を読む。  教科書、筆記用具持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第6回	<p>コミュニケーション力を育もうⅢ  <b>【key words】</b>  傾聴  <b>【授業概要】</b>  傾聴の基本的知識を理解し、その方法について学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書 p 147～155  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：教科書 p 147～155 を読む。  教科書、筆記用具持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第7回	<p>コミュニケーション力を育もうⅣ  <b>【key words】</b>  協働  <b>【授業概要】</b>  グループワークを通して協働の具体的な方法について理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  授業時に配布する資料  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  復習：配布資料を読む。  教科書、筆記用具持参。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  180分</p>
第8回	<p>コミュニケーション力を育もうⅤ  <b>【key words】</b>  報告・連絡・相談（ほうれんそう）、会議  <b>【授業概要】</b>  グループワークを通して伝える方法について考える。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  授業時に配布する資料  教科書 p60～63, 64one point, p67  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習・復習：教科書 p 60～63, 64one point, p67 を読む。  教科書、筆記用具、持っていればカラーペンや色鉛筆などを持参する。</p>

第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>コミュニケーションスキルⅠ 自分も相手も大切にした伝え方</p> <p>【key words】 アイメッセージ、感情管理、リフレーミング</p> <p>【授業概要】 自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」や感情に関する基本を理解し、セルフワークやペアワークを通して具体的な方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 63～65、p 78～82、p 178～183</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 63～65、p 78～82、p 178～183を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第10回	<p>コミュニケーションスキルⅡ アサーションⅠ</p> <p>【key words】 アサーティブ、ノン・アサーティブ、アグレッシブ</p> <p>【授業概要】 自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、セルフワーク、ペアワークを通して方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 65～68</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 65～68を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第11回	<p>コミュニケーションスキルⅢ アサーションⅡ</p> <p>【key words】 DESC法</p> <p>【授業概要】 ペアワーク、グループワークを通して、アサーショントレーニングのひとつであるDESC法を体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：配布資料を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第12回	<p>自己管理</p> <p>【key words】 時間管理、社会人基礎力</p> <p>【授業概要】 セルフワークやグループワークを通して医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 69～78、p 92～93</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 69～78、p 92～93を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第13回	<p>自己実現</p> <p>【key words】 マズローの欲求階層説</p> <p>【授業概要】 自己実現に関する基礎的知識を学び、自身の自己実現について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 83～92</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 83～92を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第14回	<p>キャリア</p> <p>【key words】 キャリア、キャリア発達、キャリアプラン</p> <p>【授業概要】 キャリアに関する基礎的知識を学び、自身のキャリアプラン、身につけるべき社会人基礎力について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 93～101</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 93～101を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>

	<p>第15回</p> <p>まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ふりかえり、全体を通した感想（学んだこと、身についたことなど）をグループでシェアする。 レポート課題の説明。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書、配布資料に目を通す。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>・本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施する予定となっておりますが、新型コロナウイルス関連の状況によっては、ペアワーク、グループワークを実施しない場合があります。</p> <p>・時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち、“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください。</p> <p>・本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい状況にある人は、遠慮、無理、我慢をせずに申し出てください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ る情報	教科書該当ページを、予習として各自読んでおく。授業時に配布した資料と教科書を用いて復習する。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。
評価方法	授業内での積極的・意欲的取り組み20%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容50%、レポート30%
教科書	山口 美和 PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド(第2版) 医学書院 2016
参考書	講義の際に適宜指定する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 教育相談、労働相談、職業相談などの相談員として、対人援助や心理的支援を、職場内外との協働と連携をしながら行った。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>□実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p>□情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p>□情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]          身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標]          ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。          ②運動時の筋収縮様態を説明することができる。          ③生体力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できる。          ④各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べることができる。          ⑤各関節運動の主動作筋を列挙することができる。</p>		
授業の概要	<p>ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能を力学的な視点で学ぶ。授業を通して理学療法士・作業療法士が対象とする機能障害を把握するために必要な各関節の動作や筋肉の働きをについて理解を深める。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係          ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動学総論・筋の構造・運動力学【野口】          【key words】          骨格筋、運動の面と軸、ベクトル          【授業概要】          ・運動学の学問的特徴について理解を深め、骨格筋を含めた筋の種類や構造の理解、筋収縮のメカニズム、生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。          【教科書ページ・参考文献】          教科書：p1～36          【課題・予習・復習・授業準備指示】          ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社          【予習復習に必要な想定時間】          60分</p> <p>第2回 筋の構造・運動力学【野口】          【key words】          ベクトル、モーメント          【授業概要】          ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。          ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。          【教科書ページ・参考文献】          教科書：p1～36</p>		



第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社  【予習復習に必要な想定時間】  60分  筋の構造・運動力学【野口】  【key words】  ベクトル、モーメント、てこの種類、筋収縮  【授業概要】  ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きを説明する。  ・身体内で働く3種類のものでこについて説明する。  ・骨格筋の筋収縮の違いについて理解する。  ・骨格筋を理解する上で必要な用語（起始・停止・作用）を理解する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p1～36</p>
第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社  【予習復習に必要な想定時間】  60分  肩関節の構造と運動①【野口】  【key words】  上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p98～118  参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分  肩関節の構造と運動②【野口】  【key words】  上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p98～118  参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分  肩関節の構造と運動③【野口】  【key words】  上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p98～118  参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分  肘関節・前腕の構造と運動①【野口】  【key words】  上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p119～143  参考書：p39～79、134～149、223～260</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】  ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分  肘関節・前腕の構造と運動②【野口】  【key words】  上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p>

	<p>する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p119～143  参考書：p39～79、134～149、223～260  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第9回	<p>手関節・手指の構造と運動①【野口】  <b>【key words】</b>  上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨  <b>【授業概要】</b>  ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p144～179  参考書：p39～106、150～152、261～341  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第10回	<p>手関節・手指の構造と運動②/小テスト【野口】  <b>【key words】</b>  上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨  <b>【授業概要】</b>  ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。    ・第1～9回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p144～179  参考書：p39～106、150～152、261～341  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第11回	<p>骨盤・股関節の運動について【柴】  <b>【key words】</b>  骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザネラトン線  <b>【授業概要】</b>  ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。    <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p180～183、189～199  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
第12回	<p>股関節の運動に作用する筋【柴】  <b>【key words】</b>  股関節、運動  <b>【授業概要】</b>  ・股関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p183～188、200～202  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60～90分</p>
第13回	<p>膝関節の運動【柴】  <b>【key words】</b>  膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA  <b>【授業概要】</b>  ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。    <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p212～234  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  ・解剖学で学習した骨の用語（特に大腿骨・脛骨・膝蓋骨、腓骨など）や膝関節については復習しておくこと  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60～90分</p>
第14回	<p>距腿関節の構造、足部の運動について【柴】</p>

	<p>【key words】 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p244～261</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾節骨など）や距腿関節については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第15回 頭部、頸部、体幹の運動について/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 頭蓋骨、椎骨</p> <p>【授業概要】 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・第11～14回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p281～306</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に頭蓋骨・椎骨など）や脊柱については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関する情報] ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>【柴】 木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 【野口】 月曜日16時～17時30分（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験60% 小テスト・実技試験40%</p>
<p>教科書</p>	<p>・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー</p>
<p>参考書</p>	<p>・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【柴】 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>【野口】 急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■ グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p>

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li>□ e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li>□ その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]          身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸、リーチ・把握などについて説明できることを目的とする。また、理学療法士・作業療法士の対象となる疾患を運動学的視点を用いて理解することができる。</p> <p>[到達目標]          ①重心、姿勢の名称について答えることができる。          ②歩行周期について説明することができる。          ③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。          ④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。          ⑤リーチ・把握動作や日常生活を運動学的な知識を用いて説明することができる。          ⑥上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、理学療法士・作業療法士の対象となる機能障害を把握するうえで必要な身体の構造・機能、力学について学ぶ。また自らの身体を使って各関節や身体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時、リーチ・把握動作に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動力学【野口】          【key words】          運動の面と軸、ベクトル、モーメント、筋収縮          【授業概要】          ・基礎運動学Ⅰでの復習          ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。          ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。          【教科書ページ・参考文献】          教科書：p1～36          【課題・予習・復習・授業準備指示】          基礎運動学Ⅰの運動力学について復習をしておくこと          【予習復習に必要な想定時間】          60分</p> <p>第2回 人体における重心について【柴】          【key words】          重心、重心線          【授業概要】</p>
------	--

	<p>・安静立位における重心位置について、その求め方を含めて理解する。  ・重心を通る重心線について説明する。  【教科書ページ・参考文献】  教科書：p341～345  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：参考書「基礎運動学」のP347～352を事前に読み、重心についてまとめ重心の指標を調べておくこと。  【予習復習に必要な想定時間】  60～90分</p> <p>第3回 姿勢・重心【柴】  【key words】  姿勢、重心、支持基底面、安定性  【授業概要】  ・支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。  ・姿勢の安定性について考える</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  教科書：p341-355  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：姿勢の保持はどのような場面で必要か、なるべく多く挙げてくること  【予習復習に必要な想定時間】  60分</p>
	<p>第4回 正常歩行：歩行周期【柴】  【key words】  歩行、歩行周期  【授業概要】  ・正常歩行の歩行周期を理解する。  ・重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  教科書：p365～367  配布プリント  【課題・予習・復習・授業準備指示】  復習：歩行周期を替え歌を用いて表現できるようにすること  【予習復習に必要な想定時間】  60分</p>
	<p>第5回 正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動【柴】  【key words】  歩行周期、下肢の関節運動  【授業概要】  ・各歩行周期で行われる下肢の関節運動を理解する。  ・歩行時の重心の移動を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  教科書：p367～372  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：矢状面上の下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動を復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分</p>
	<p>第6回 正常歩行：歩行時の筋活動について【柴】  【key words】  歩行周期、筋活動  【授業概要】  ・下肢のモーメントについて理解する。  ・各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  教科書：371～382  【課題・予習・復習・授業準備指示】  予習：下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動に作用する主動筋を復習しておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60～90分</p>
	<p>第7回 上肢帯・肩関節の運動/運動障害【野口】  【key words】  上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。  ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。  ・上肢帯・肩関節の代表的な運動障害（腱板断裂、脱臼）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】  教科書：p98～118  参考書：p16～59、108～133、154～222  【課題・予習・復習・授業準備指示】  基礎運動学Ⅰの上肢帯・肩関節の運動について復習をしておくこと  【予習復習に必要な想定時間】  60分</p>
	<p>第8回 肘関節・前腕の構造と運動/運動障害【野口】  【key words】  上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉  【授業概要】  ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</li> <li>・肘関節・前腕の代表的な運動障害（コーレス骨折・スミス骨折・テニス肘）について理解する。</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの肘関節・前腕の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第9回	<p>手関節・手指の構造と運動/運動障害【野口】</p> <p>【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・手関節・手指の代表的な運動障害（手・手指の変形）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの手関節・手指の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>骨盤・股関節の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】 骨盤・寛骨・仙骨・大腿骨・関節・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・骨盤・股関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・骨盤・股関節の代表的な運動障害（変形性股関節症・大腿骨頸部骨折）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p203～211 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの骨盤・股関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>膝関節の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】 大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・関節・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・膝関節の代表的な運動障害（変形性膝関節症・ACL損傷・PCL損傷）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：235～243 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの膝関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>距腿関節・足部の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・距腿関節・足部に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・距腿関節・足部の代表的な運動障害（内反捻挫・外反捻挫・内反尖足）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p262～268 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの距腿関節・足部の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>呼吸【柴】</p> <p>【key words】 呼吸・胸郭・運動・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・呼吸時の胸郭の運動を理解する。 ・呼吸の運動に関与する筋の特徴（構造・騎士・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：545～553 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：生理学で履修した呼吸について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>60～90分</p> <p>第14回 上肢の運動学習【野口】  <b>【key words】</b>  リーチ動作・把握動作  <b>【授業概要】</b>  ・リーチ動作・把握動作の特徴について理解できる。  ・日常生活動作における各動作についてリーチ動作・把握動作を用いて説明できる。  ・上肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布プリント  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  肌を露出しやすい・動きやすい服（ジャージ推奨）を着てくること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b></p> <p>第15回 下肢の運動学習【柴】  <b>【key words】</b>  運動学習  <b>【授業概要】</b>  ・運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解できる。  ・下肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。    <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書：p60～76  資料配布  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習：これまでの経験から上達した動作を挙げ、どのようにして上達したのか理由を5個以上考えてくること  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]  ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール]  ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。  ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	WEBポータルを使用したコメントスレッド
授業外時間にかかわ る情報	・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
オフィスアワー	<b>【柴】</b> 木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 <b>【野口】</b> 月曜日16時～17時30分（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約
評価方法	筆記試験60% 小テスト・実技試験40%
教科書	・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー
参考書	・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員  ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p><b>【柴】</b> 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p><b>【野口】</b> 急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)  <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク  <input type="checkbox"/> プレゼンテーション  <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育  <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p>



	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li>□ e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li>□ その他</li></ul> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位 (30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔・古田常人			
		作業療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[ 授業の目的 ] 人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する。そして、人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・機能を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。</p> <p>[ 達成目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。</li> <li>2) セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる。</li> <li>3) 重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定できる。重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる。</li> <li>4) 体重を用いてこの原理で重心の位置を測定することができる。</li> <li>5) 筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。また肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定できる。</li> <li>6) 筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる。</li> <li>7) 健常者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学（教科書）に記載されている運動分析手順にそって分析ができ、動作分析に必要な表現ができる。</li> <li>8) 学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する。</li> <li>9) 3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析を学ぶ。</li> <li>10) 運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化炭素呼出量を測定できる。呼吸機能を理解し、その評価を実施できる。</li> </ol>
授業の概要	ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われている。このひとの動きの基礎となる、姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身に付ける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、形態計測1</p> <p>【key words】 形態計測、体格</p> <p>【授業概要】 授業目標の確認や実習スケジュールの確認を行う。個人実習では、形態計測をペアで計測し合う。肢長、周径、身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学pp19-21</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける身体計測の結果を記入しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
	第2回	<p>形態計測2，筋力評価</p> <p>【key words】 形態計測、体格、筋力測定</p> <p>【授業概要】 ・第1回に引き続き、形態計測を実施。 ・身体各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価する。 ・肢位の違いによる握力の計測、連続握力測定による筋持久力を評価する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第3回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学pp19-46  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける身体計測の結果を記入しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分  姿勢評価  <b>【key words】</b>  姿勢計測、重心動揺、重心、セグメント  <b>【授業概要】</b>  ・姿勢計測装置(デジタルカメラ、重心動揺計、体重計など)を使用して各自の姿勢を計測する。  ・セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明する。  ・重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定する。  ・重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を理解する。  ・体重を用い、てこの原理で重心の位置を測定する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第4回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学pp347-377  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける重心動揺・セグメントなど必要な部分の結果を記入しておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分  解析方法について1  <b>【key words】</b>  平均値、標準偏差、t検定、相関分析  <b>【授業概要】</b>  ・第1回～3回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。  ・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。  ・クラス全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析(t検定、相関)の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第5回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学pp19-46、347-377  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  個人レポートを提出。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分  基本動作分析/運動学習  <b>【key words】</b>  基本動作分析、運動学習、学習曲線、熟練  <b>【授業概要】</b>  ・グループ学習。被験者を選出し、基本動作を機器を使って計測および分析をする。  ・グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。  ・学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第6回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈基本動作〉基礎運動学pp297-325、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分  //  <b>【key words】</b>  基本動作分析、運動学習、学習曲線、熟練  <b>【授業概要】</b>  ・第5回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、基本動作を機器を使って計測および分析する。  ・グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。  ・学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第7回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈基本動作〉基礎運動学pp297-325、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分  解析方法について2  <b>【key words】</b>  基本動作分析、運動学習、学習曲線、熟練  <b>【授業概要】</b>  ・第5回、6回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。  ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。  ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b></p>
第8回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈基本動作〉基礎運動学pp297-325、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習180分/復習180分(内レポート作成180分)  筋電図/筋機能解析装置</p>

	<p>【key words】 筋電図、筋機能解析</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈筋電図、筋機能解析〉基礎運動学pp78-88</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>〃</p>
	<p>【key words】 筋電図、筋機能解析</p> <p>【授業概要】 ・第8回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈筋電図、筋機能解析〉基礎運動学pp78-88</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>解析方法について3</p>
	<p>【key words】 筋電図、筋機能解析</p> <p>【授業概要】 ・第5回、6回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈筋電図、筋機能解析〉基礎運動学pp78-88</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分(内レポート作成180分)</p>
第11回	<p>呼吸機能評価/3次元動作分析</p>
	<p>【key words】 呼吸曲線、3次元動作解析</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、呼吸機能、動作を計測および分析する。 ・3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析する。 ・運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定する。 ・呼吸機能を理解し、その評価を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈呼吸機能評価〉基礎運動学pp167-176、〈3次元動作分析〉基礎運動学pp379-414</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。グループレポートが提出できるように準備していくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第12回	<p>〃</p>
	<p>【key words】 呼吸曲線、3次元動作解析</p> <p>【授業概要】 ・第11回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、呼吸機能、動作を計測および分析する。 ・3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析する。 ・運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定する。 ・呼吸機能を理解し、その評価を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、〈呼吸機能評価〉基礎運動学pp167-176、〈3次元動作分析〉基礎運動学pp379-414</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。グループレポートが提出できるように準備していくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第13回	<p>解析方法について4</p>
	<p>【key words】 呼吸曲線、3次元動作解析</p> <p>【授業概要】 ・第11回、12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、基礎運動学pp167-176、297-325、379-414、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習180分/復習180分(内レポート作成180分)  解析方法について5/発表準備  <b>【key words】</b>  平均値、標準偏差、t検定、相関分析  <b>【授業概要】</b>  ・第5回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。  ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。  ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。  ・次回発表できるように発表資料を作成する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、基礎運動学pp167-176、297-325、379-414、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。次回発表できるように準備をすること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習180分/復習180分(内発表資料準備180分)  発表  <b>【key words】</b>  発表、質疑応答  <b>【授業概要】</b>  ・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)、基礎運動学pp167-176、297-325、379-414、467-500  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  グループレポートの提出  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分/復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを用意しておくこと。 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。 課題の提出は、原則としてデータ収集、あるいは解析方法の指導後2週間後の17時、担当教員に提出すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる 情報	解析方法などは授業内で説明するが、解析し、結果・考察を導き出すためには、解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる。グループで協力し、理解を深めること。
オフィスアワー	火曜日9時～12時00分は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> レポート70% (個人レポート50%、グループレポート20%) <input type="checkbox"/> 演習課題30%
教科書	実習手引きの配布。
参考書	授業の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 作業療法士経験 14年 作業療法士養成校教員経験 10年 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input checked="" type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input checked="" type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。</p> <p>〔目標〕 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。</p>
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：多職種連携やチームケアについてまとめている論文をメディカルオンライン等を用いて調べ、要点にラインを引いたうえで持参すること。 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回</p> <p>チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。</p>
------	--

	<p>【key words】 多職種、連携、チームケア、職種理解</p> <p>【授業概要】 チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種をまとめるうえで必要な文献や資料を準備すること。 復習：ポートフォリオの作成 課題：自己の職種調ベシートを提出すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第3回 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、自職種の役割</p> <p>【授業概要】 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：事例に対する支援方法をまとめること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第4回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、グループワーク</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容や異なる内容を挙げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種に関する発表の準備をすること 復習：自己の職種と多職種の共通点や異なる点について整理しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容を話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種が事例に対して行う支援内容の発表準備をしておくこと 復習：事例に対する各々の職種の支援内容を整理しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容について共通する項目を挙げる。連携を行う意義について考え、意見をまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：事例に対する支援内容について共通項目をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、発表</p> <p>【授業概要】 連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：他のグループの発表内容も含め連携の意義について整理しておくこと。 ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
--	--



	<p>第8回 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：後日、ポートフォリオを提出すること（期限については授業内で提示する） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。</p> <p>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①積極的に取り組む事。</p> <p>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。</p> <p>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード・その他（ポートフォリオ）
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む。
オフィスアワー	木曜日の15:30～17:30
評価方法	①グループワークでの取り組み50% ②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	<p>1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008.</p> <p>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>□実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
高坂駿・新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>ねらい： 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」</p> <p>目的： 事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと</p>
授業の概要	<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係  
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>【key words】 チームケア、多職種連携</p> <p>【授業概要】 ・科目オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 事例展開に関する調べ学習</p> <p>【key words】 チームケア、多職種連携、事例、社会資源</p> <p>【授業概要】</p>
------	---

<p>第3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。</li> <li>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。</li> <li>【教科書ページ・参考文献】</li> </ul> <p>配布資料(事前に配布)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>      配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>      30分程度</p> <p>事例展開に関する調べ学習</p> <p><b>【key words】</b>      チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション</p> <p><b>【授業概要】</b>      ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>      配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>      30分程度</p>
<p>第4回</p>	<p>事例について各学部毎に課題</p> <p><b>【key words】</b>      チームケア、多職種連携、事例、社会資源</p> <p><b>【授業概要】</b>      ・第1, 2回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 <li>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。</li> <li>・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ)</li> <li>・報告準備。</li> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>      配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>      30分程度</p> </p>
<p>第5回</p>	<p>事例について各学部毎に課題</p> <p><b>【key words】</b>      チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション</p> <p><b>【授業概要】</b>      ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) <li>・報告準備。</li> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>      配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>      30分程度</p> </p>
<p>第6回</p>	<p>明確化した課題</p> <p><b>【key words】</b>      チームケア、多職種連携、事例、問題点</p> <p><b>【授業概要】</b>      ・事例検討をグループで進めていく。 <li>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。</li> <li>・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。</li> <li>・体験者によるIPWの講義</li> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>      配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>      30分程度</p> </p>
<p>第7回</p>	<p>明確化した課題</p> <p><b>【key words】</b>      チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定</p> <p><b>【授業概要】</b>      ・事例検討をグループで進めていく。 <li>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。</li> <li>・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。</li> <li>・体験者によるIPWの講義</li> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)</p> </p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 学習過程の振り返り 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 ・事例発表。総括。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他
授業外時間にかかわる情報	関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	金曜日の15:30～17:30
評価方法	1. グループワークでの取り組み50%, 2. ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008。 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員  <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している      具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素  <input checked="" type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)  <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート  <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク  <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション  <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク  <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育  <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育  <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）  <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）  <input checked="" type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）  <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用  <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施  <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援  <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
大竹勤			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。</p>		
授業の概要	<p>講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。</p> <p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、自己紹介カード</p> <p>【key words】 【keywords】 授業の進め方 自己紹介</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する 予習・復習について説明する 評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 障害者の理解、DVD 視聴 ( 障害者の自立について)</p> <p>【key words】 【keywords】 障害者の自立 筋ジストロフィー 難病</p> <p>【授業概要】</p>		

	<p>【授業概要】          援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る          専門職者としての役割をレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          【教科書ページ・参考文献】          筋ジストロフィーに関する資料配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          【課題・予習・復習・授業準備】          筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく          【予習復習に必要な想定時間】          60分</p> <p>第3回 対人援助技術の原則</p> <p>【key words】          【keywords】          ソーシャルワーカー バイスティック</p> <p>【授業概要】          【授業概要】          場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ          バイスティックの7原則について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          【教科書ページ・参考文献】          バイスティックの7原則に関する資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          【課題・予習・復習・授業準備】          バイスティックについて事前に調べておくこと          ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実          践の場で確認する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          60分</p> <p>第4回 コミュニケーションスキルを磨こう DVD 視聴</p> <p>【key words】          【keywords】          コミュニケーションスキル ア行トーク サイレントトーク</p> <p>【授業概要】          【授業概要】          援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ          映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          【課題・予習・復習・授業準備】          授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          60分</p> <p>第5回 情報を共有し合意するということ</p> <p>【key words】          【keywords】          コンセンサス</p> <p>【授業概要】          【授業概要】          グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ          演習を通して学んだことをレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】          【教科書ページ・参考文献】          演習（ゲーム）の資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】          【課題・予習・復習・授業準備】          他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】          30分</p> <p>第6回 リハビリテーションを通しての援助支援について考える DVD 視聴</p> <p>【key words】          【keywords】          スポーツ リハビリテーション</p> <p>【授業概要】          【授業概要】          ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する</p>
--	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 感想文を提出していただきます 【予習復習に必要な想定時間】 30分 人の一生と社会福祉 事例検討 【key words】 【keywords】 相談援助 社会福祉 児童福祉 老人福祉 障害者福祉 生活保護</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分 援助の基本原則 まとめ 【key words】 【keywords】 バイスティックの7原則</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	2回に1回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業終了後20分ほど、対応可能。
評価方法	筆記試験（レポート試験）80%と授業中に出すレポート課題等の提出物20%により評価する。レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li><li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li></ul> ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li><li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul> その他の具体的内容
--	---



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。それを基に作業療法士がどのような専門職か学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①リハビリテーションについて簡潔に説明することができる。 ②WHO分類について理解し、説明することができる。 ③リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することができる。 ④ライフステージにおける障害特性と疾病ごとのリハビリテーションについて概要を理解することができる。 ⑤作業療法の歴史、原理、理論、対象、領域、病期、圏域、過程について説明することができる。 ⑥社会における作業療法士の役割を理解し、どのような専門職か説明することができる。</p>		
授業の概要	<p>本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、リハビリテーションの理念と概要を知り、専門性の核となる「作業 (occupation)」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学ぶ。前半は、リハビリテーションの理念と概要、WHO分類について学ぶ。後半は、教科書に沿って、作業療法の定義や歴史、原理・理論、対象、領域、病期、作業療法過程、教育について体系的に学習する。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／リハビリテーションの定義と理念</p> <p>【key words】 リハビリテーションの定義と理念、障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動 (IL運動)</p> <p>【授業概要】 リハビリテーションの定義と理念を理解する。ノーマライゼーションと自立生活活動 (IL運動) について様々なエピソードや歴史の変遷から学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料を確認すること</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第2回	<p>WHO分類について</p> <p>【key words】 国際障害分類 (ICIDH)、国際生活機能分類 (ICF)</p> <p>【授業概要】 国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) の概要について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P123-130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第3回	<p>WHO分類について グループワーク</p> <p>【key words】 国際障害分類 (ICIDH)、国際生活機能分類 (ICF)、グループワーク</p> <p>【授業概要】 国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) の概要について、事例をもとに各項目を実際</p>	

	<p>にICFに当てはめて、グループで検討する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P123-130  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>第4回  作業療法の定義  <b>【key words】</b>  リハビリテーション、作業療法、作業療法の定義  <b>【授業概要】</b>  リハビリテーションの概要と作業療法の位置づけを確認し、作業療法の定義を学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P21-60  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>第5回  作業療法の養成課程  <b>【key words】</b>  作業療法士、養成課程  <b>【授業概要】</b>  作業療法士の養成課程について学び、自身が作業療法士となるための課程を知り、必要なことの枠組みを学ぶ。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P243-276  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>第6回  リハビリテーション・作業療法の歴史／職能組織・専門職組織  <b>【key words】</b>  作業療法、歴史、日本作業療法士協会  <b>【授業概要】</b>  作業療法の歴史と制度的変遷、先人たちの思考を理解し、日本の作業療法の現状と課題を知る。その上で今後作業療法に期待される活動について学ぶ。また、作業療法に関連する制度、診療報酬について学ぶ。  また、社会における作業療法士の貢献をより推し進めるために大切な役割を担う職能団体の機能と組織を知る。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P277-285  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>第7回  作業療法の実際  <b>【key words】</b>  作業療法、基本原理、理論、対象疾患、領域、病期  <b>【授業概要】</b>  高校生に「作業療法がどのような専門職か」を説明することを想定し、資料作成と発表を行う。発表を通して、作業療法士の理解を深める。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P139-207  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p> <p>第8回  作業療法過程  <b>【key words】</b>  作業療法過程、評価、治療  <b>【授業概要】</b>  作業療法過程（処方、スクリーニング、評価、作業療法計画立案、作業療法実施、作業療法計画の修正、作業療法の終了）の内容を学び、作業療法実践の流れを理解する。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  教科書①P209-221  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<b>【受講生に関わる情報】</b> ・発表やグループワークは出席が前提となるので、体調管理をしっかりすること。 <b>【受講のルール】</b> ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。 学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 70% <input type="checkbox"/> グループワーク 30%
教科書	①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論. 協同医書出版 ②大野義一朗：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	栢森良二 著：学生のためのリハビリテーション医学概論 第2版. 医歯薬出版株式会社. 2015 吉川ひろみ 著：作業って何だろう 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2008
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。臨床場面にてプリントを作成し、装具療法を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>作業療法概論Ⅰで学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれら学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。</p> <p>②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してることができる。</p> <p>③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。</p>		
授業の概要	作業療法士が働いている医療機関（身体障害領域を中心とした病院）での1日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／臨床実習の目的、見学実習の内容</p> <p><b>【key words】</b> 身体障害領域の作業療法、臨床実習の目的</p> <p><b>【授業概要】</b> 臨床実習手引きや教科書を参照しながら、臨床実習の目的や、見学実習の内容を考える。身体障害領域の作業療法業務内容を紹介する。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 臨床実習手引きp2,4、資料は随時指定</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 臨床実習手引き、教科書をよく読んで参加すること。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分</p> <p>第2回 守秘義務について／個人情報保護／挨拶・自己紹介</p> <p><b>【key words】</b> 守秘義務、個人情報、挨拶</p> <p><b>【授業概要】</b> 個人情報、守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える。またその具体的な方法を説明する。また個人情報保護に留意し、挨拶や自己紹介方法を学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 臨床実習手引きp22、資料は随時指定</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 第4回の自己紹介シート記入を想定し、自身の長所・短所、作業療法士を目指した動機等を考えておく。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分</p> <p>第3回 リスク管理（感染症対策など）</p> <p><b>【key words】</b> リスク管理、健康管理、感染症対策</p> <p><b>【授業概要】</b> 医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明する。大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版。医学書院 スタンダードブリコーションについて学ぶ。</p> <p><b>【教科書ページ・参考文献】</b> 臨床実習手引きp22-24、資料は随時指定</p> <p><b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b> 感染症対策マニュアルを良く読んで参加すること。自己の抗体検査結果を確認して参加すること。</p> <p><b>【予習復習に必要な想定時間】</b> 予習90分／復習90分</p>		

第4回	<p>守秘義務，リスク管理に関するまとめ</p> <p>【key words】 守秘義務，リスク管理，感染症対策</p> <p>【授業概要】 守秘義務，感染症対策に関する小テストを行い，知識の確認を行う．大野義一郎：感染症対策マニュアル第2版．医学書院の内容を確認しておくこと．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2,3回の内容をよく復習して参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分（小テストの勉強含む）／復習90分</p>
第5回	<p>職業人としての態度・習慣</p> <p>【key words】 態度的サービス，身だしなみ，コミュニケーション</p> <p>【授業概要】 職業人としての態度・習慣を身につける（時間を守る，服装や身だしなみに気をつける，他職種ともコミュニケーションが取れるなど）．身だしなみチェックリストを使用して，お互いの身だしなみを確認する．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp20，資料は随時指定</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 職業人としての身だしなみを考えて，各自適切と思う服装で参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>実習記録について① メモの取り方</p> <p>【key words】 メモ，承諾，個人情報保護</p> <p>【授業概要】 メモをとる承諾の方法，メモの取り方，メモの取り扱いについて学ぶ．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自メモを持参し参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>実習記録について② デイリーノート</p> <p>【key words】 デイリーノート，客観的事実，考察</p> <p>【授業概要】 実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6回で使用したメモを持参し参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>実習記録について③ デイリーノート</p> <p>【key words】 デイリーノート，客観的事実，考察</p> <p>【授業概要】 実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6回で使用したメモを持参し参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>実習施設の予備知識の収集</p> <p>【key words】 実習生の心構え，作業療法士の業務説明</p> <p>【授業概要】 実習施設の概要に関する情報を，施設パンフレットやホームページ等を参照して収集する．また，実習場所の確認など実習施設の地域での役割や実習施設におけるリハビリテーション関連職種の人數，対象疾患などを調べる．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp22-24，実習施設環境情報（配布資料）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホームページ検索できる準備（パソコン，タブレット端末）をして参加すること．</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>病院見学指導／課題発表の準備</p> <p>【key words】 実習生の心構え，作業療法士の業務説明</p> <p>【授業概要】 病院見学へ向けての準備，心構えについて学ぶ．また，作業療法士がどのような専門職であるのかを他者（家族，友人，地域住民，中高生など）に説明することを想定して，資料を作成し発表する準備を行う．各自実習施設への事前連絡．</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp19-24，資料は随時指定</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第9回で収集した実習施設に関する資料を整理して参加すること。実習施設に事前連絡する内容をまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第11回 病院見学 【key words】 実習生の心構え、見学実習、作業療法士の業務説明 【授業概要】 グループに分かれて病院見学を行う。作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて、具体的に（どのような対象者に、どのような場所で、どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする。教科書②p2-41 「第1章 見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp2, 4, 19-24, 資料は随時指定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間に余裕をもって行動すること。身だしなみを整えて参加すること。実習中は実習指導者の指導に従うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第12回 病院見学 【key words】 実習生の心構え、見学実習、作業療法士の業務説明 【授業概要】 グループに分かれて病院見学を行う。作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて、具体的に（どのような対象者に、どのような場所で、どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする。教科書②p2-41 「第1章 見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp2, 4, 19-24, 資料は随時指定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間に余裕をもって行動すること。身だしなみを整えて参加すること。実習中は実習指導者の指導に従うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第13回 実習記録の作成 【key words】 実習生の心構え、見学実習、デイリーノート 【授業概要】 各自実習施設にお礼状を作成し送付する。見学実習でメモした内容をデイリーノート、実習レポートに記載する。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp19-24, 資料は随時指定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自見学実習で使ったメモを持参し参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第14回 課題発表準備（グループワーク） 【key words】 見学実習、実習施設の概要、作業療法士の業務説明 【授業概要】 実習施設で得られた情報をグループ内で共有する。課題発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp2, 4, 19-24, 資料は随時指定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自見学実習で使ったメモ、第13回で作成した資料を持参し参加すること。次回の授業の前日までに発表資料を1部印刷して提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第15回 課題発表 作業療法士の仕事 【key words】 見学実習、実習施設の概要、作業療法士の業務説明 【授業概要】 資料作成と発表を通して作業療法がどのような専門職なのかを学ぶ。各グループの発表を聞き、施設による作業療法士の業務内容の違いについて意見交換をする。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きp2, 4, 19-24, 資料は随時指定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自見学実習で使ったメモ、第13回で作成した資料を持参し参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりすること。〔受講のルール〕</li> <li>・見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。</li> <li>・OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。</li> <li>・実習に不適切な身だしなみや態度で臨む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。</li> <li>・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。</li> <li>・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</li> <li>・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメイトからコピーを取ること。</li> </ul>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状</p>	<p>シャトルカード方式</p>

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前にオリエンテーションを行う。</li> <li>・実習の手引きをよく確認しておくこと。</li> <li>・見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと。</li> <li>・グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的ににかかわること。</li> <li>・学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。</li> </ul>
オフィスアワー	月・火曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験60% <input type="checkbox"/> 発表20% <input type="checkbox"/> レポート20%
教科書	①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論. 協同医書出版 ②大野義一朗：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	吉川ひろみ 著：作業って何だろう 第1版. 医歯薬出版株式会社 2008
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<b>授業担当教員</b> <b>■実務経験のある教員が担当している</b> <b>具体的な実務経験の内容</b> 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として4年間の臨床業務に携わった経験を有する。作業療法の基本的な概念に基づき臨床業務を行っていた経験が、科目内で活かされている。 <b>アクティブラーニング要素</b> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <b>■ディスカッション・ディベート</b> <b>■グループワーク</b> <b>■プレゼンテーション</b> <b>■実習、フィールドワーク</b> <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <b>情報リテラシー教育</b> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <b>■情報リテラシー教育は実施していない</b> <b>ICTの活用</b> <b>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</b> <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。 ②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。 ③作業分析の概要を理解・説明することができる。 ④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。</p>
授業の概要	「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係  
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>オリエンテーション/作業とは</p> <p>【key words】 作業、occupation</p> <p>【授業概要】 ・作業療法の仕事に関する動画視聴 ・作業(療法)の定義 ・生活の中の作業</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう、第2版。医歯薬出版株式会社、pp.2-20, 2017. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第2回	<p>作業科学の誕生</p> <p>【key words】 作業の分類、PEOモデル、作業科学</p> <p>【授業概要】 ・作業の分類 ・作業の意味 ・作業科学の歴史</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう、第2版。医歯薬出版株式会社、pp.2-20, 2017. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第3回	<p>作業の意味①</p> <p>【key words】 作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学</p> <p>【授業概要】 ・作業と健康との関連性 ・作業の社会的意味 ・作業の類型化 ・作業と感情 ・作業と世界との繋がり ・作業とアイデンティティ</p>



第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp. 22-43，2017． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>作業の意味②</p> <p>【key words】 作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学</p> <p>【授業概要】 ・作業と健康との関連性 ・作業の社会的意味 ・作業の類型化 ・作業と感情 ・作業と世界との繋がり ・作業とアイデンティティ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp. 22-43，2017． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>作業科学の諸概念①</p> <p>【key words】 作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正</p> <p>【授業概要】 ・作業の階層 ・人の進化と作業 ・occupational-being、occupational rights ・作業的公正、作業的不公正</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp. 46-69，2017． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>作業科学の諸概念②</p> <p>【key words】 作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正</p> <p>【授業概要】 ・作業の階層 ・人の進化と作業 ・occupational-being、occupational rights ・作業的公正、作業的不公正</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp. 46-69，2017． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>多様な文化とひとの作業①</p> <p>【key words】 作業、文化、社会、風習、価値観</p> <p>【授業概要】 ・これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業についてグループで調べる。 ・収集した情報に基づいてグループごとに意見交換を行い、発表資料を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業について個人で調べ、資料を持参する。 グループで少なくとも1台ノートPCを持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第8回	<p>多様な文化とひとの作業②</p> <p>【key words】 作業、文化、社会、風習、価値観</p> <p>【授業概要】 ・前回まとめた資料に基づき地域の文化や風習、ひとの作業についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 様々な文化や風習、ひとの作業について復習し理解を深めること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>作業科学と作業療法</p> <p>【key words】 健康、作業療法、疾病予防、ヘルスプロモーション</p> <p>【授業概要】 ・作業療法の対象と定義の変遷</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病予防とヘルスプロモーション</li> <li>・作業と健康に関する学術論文の紹介</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.72-99，2017． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>作業療法の中核理論①</p> <p>【key words】 MOHO、CMOP-E</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法に関わる理論と枠組み</li> <li>・作業療法からみた評価・治療の視点</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第11回	<p>作業療法の中核理論②</p> <p>【key words】 MOHO、CMOP-E</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法に関わる理論と枠組み</li> <li>・作業療法からみた評価・治療の視点</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第12回	<p>作業分析とは</p> <p>【key words】 作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的作業分析</li> <li>・限定的作業分析について</li> <li>・適応と段階づけとは</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 【参考】中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第13回	<p>作業分析とは</p> <p>【key words】 作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体、精神、発達、作業遂行の視点からみた作業分析に関わる理論と分析方法</li> <li>・作業分析に関わる概念や用語について解説する</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第14回	<p>作業分析について体験する・考える(マクラメ体験)</p> <p>【key words】 包括的作業分析、adaptation、grading</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マクラメの作品を作る・運動、感覚機能、精神、認知機能に及ぼす効果・場の特性について配布資料を参考にしながら、理解する</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに、「包括的作業分析チェックリスト」の指定部分を仕上げ、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第15回	<p>学んだことの振り返り</p> <p>【key words】 作業科学、作業、健康、作業分析</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的作業分析チェックリストの確認</li> <li>・第1回から14回までのまとめ</li> <li>・試験範囲の伝達</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「包括的作業分析チェックリスト」の提出。 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	30分程度
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりとすること。</li> <li>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。</li> <li>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。</li> </ul> <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。</li> <li>・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。</li> </ul>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	金曜日13:00～14:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 小テスト 20% <input type="checkbox"/> プレゼンテーション資料（多様な文化） 30% <input type="checkbox"/> 提出課題 20%（授業内作品。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） <input type="checkbox"/> チェックリスト 30%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，2017
参考書	<p>①中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003．</p> <p>②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，2017．</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</li> <li>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/>その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(45)	必修
担当教員			
宮寺亮輔・古田常人・悴田敦子・野口直人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の治療で用いられることの多い作業活動の技法を習得し、それらを各種障害に対して治療的に応用していくための実践方法について学習します。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①作業活動の基礎技法を用いて作品を制作できる。 ②作業活動の特性を治療場面への応用について説明できる。 ③作業活動を提供するために必要な準備や道具の管理・提供方法を述べることができる。 ④作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択することができる。</p>		
授業の概要	<p>・作業療法入門や基礎作業療法学で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。 ・作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。</p>		
<p>■当科目の作業療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション／木工①</p> <p>【key words】 木工，製図</p> <p>【授業概要】 ・科目オリエンテーション。授業目的と各回の授業の進行について説明する。 ・個人作業。木工（製図）。 ・集成材を用いた作品の木取り図および完成図を方眼紙に書き出す 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 52-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 製図が終わらなかった者は次回までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第2回	<p>木工②</p> <p>【key words】 木工，製図，木取り，墨付け</p> <p>【授業概要】 ・木工作業で使用する道具およびその使用方法、手順等に関する説明。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 52-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>	
	第3回	<p>木工③</p> <p>【key words】 木工，製図，木取り，墨付け，切断</p> <p>【授業概要】 ・デザインに基づき、木取り、墨付け、木材の切断をする。 ・木工における適応・段階づけの説明。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 52-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

第4回	<p>切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分  木工④  <b>【key words】</b>  木工，木取り，墨付け，切断  <b>【授業概要】</b>  ・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。  ・木工における適応・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 52-57  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>木工⑤  <b>【key words】</b>  木工，加工，仮組，くぎ打ち  <b>【授業概要】</b>  ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う  ・木工における適応・段階づけの説明  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 52-57  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>木工⑥  <b>【key words】</b>  木工，加工，仕上げ  <b>【授業概要】</b>  ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。  ・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 52-57  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>木工⑦  <b>【key words】</b>  木工，加工，仕上げ  <b>【授業概要】</b>  ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。  ・段階づけの説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 52-57  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>作業特性の分析（木工）  <b>【key words】</b>  <b>【授業概要】</b>  ・完成作品を互いに鑑賞する。  ・木工作业における包括的作業分析チェックリストの作成。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 52-57  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  次回、エプロン・ジャージ・タオル持参、陶芸のデザインを考えてくる。次回までに、包括的作業分析チェックリストを作成しておく。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p>
第9回	<p>陶芸①  <b>【key words】</b>  陶芸，形成，土練り  <b>【授業概要】</b>  ・個人作業。陶芸を開始。  ・陶芸の進行の概要説明、用いられる道具や技法に関する説明。  <b>【教科書ページ・参考文献】</b>  ・教科書：pp. 71-85  <b>【課題・予習・復習・授業準備指示】</b>  粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。  <b>【予習復習に必要な想定時間】</b>  予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>陶芸②</p>

	<p>【key words】 陶芸, 高台作り, 装飾, 乾燥, 素焼き</p> <p>【授業概要】 ・各工程（土練り～形成）での作成方法。 ・作成のポイントについての説明、形成作業。 ・高台作り、装飾、修正について説明。 ・台作り、装飾、修正を行う。 ・素焼きをする上での注意点を説明する ・陶芸における適応・段階づけの説明。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 71-85</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第11回 モザイク①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・モザイクに関する道具・材料・作成方法の説明 ・モザイクの作品をデザインする ・タイルのカット</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 116-120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
	<p>第12回 モザイク②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定 ・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 116-120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
	<p>第13回 陶芸③</p> <p>【key words】 陶芸, 釉掛け, 本焼き</p> <p>【授業概要】 ・釉掛けについての説明と釉掛け。 ・本焼きについての説明。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 71-85</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。修正に使用する布巾を用意すること。素焼きと本焼きの際の温度管理について事前学習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
	<p>第14回 モザイク③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定 ・石膏を流し、作品を仕上げる ・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 116-120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
	<p>第15回 作業特性の分析（陶芸）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・完成作品を互いに鑑賞する。 ・陶芸作業における包括的作業分析チェックリストの作成。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 71-85</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p>
	<p>第16回 作業特性の分析（モザイク）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モザイクにおける包括的作業分析チェックリストの作成</li> <li>・モザイクにおける適応・段階づけの方法について補足説明</li> <li>【教科書ページ・参考文献】</li> <li>・教科書：pp. 116-120</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> </ul>
第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p> <p>革細工①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具、材料、工程、デザイン</li> <li>・革細工の道具やその使用方法、材料の説明 ・本のデザインを参考にし、作品(ハンコ入れ)のデザインをする</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 34-51</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> <li>【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること</li> </ul> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第18回	<p>革細工②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本のデザインを参考にし、作品(ハンコ入れ)のデザインをする</li> <li>・デザインを元に型紙づくりを行う</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 34-51</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> <li>【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること</li> <li>【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること</li> </ul> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第19回	<p>革細工③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 34-51</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> </ul>
第20回	<p>革細工④</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる</li> <li>・作品に染色、穴あけ、金具付け、レーシングを施す</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 34-51</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> </ul>
第21回	<p>作業特性の分析（革細工）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・革細工における包括的作業分析チェックリストの作成</li> <li>・革細工における適応・段階づけの方法について補足説明</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 34-51</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> </ul>
第22回	<p>織物①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・織物に用いる道具や織り機(織美絵)の使用方法について</li> <li>・織美絵のセッティング</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：pp. 143-1145</li> <li>【課題・予習・復習・授業準備指示】</li> <li>【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。</li> <li>【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること</li> </ul>

第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>織物②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・経糸のセッティング ・捨て織り糸・緯糸のセッティング ・織物における適応・段階づけの説明 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 143-145 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第24回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>織物③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・捨て織り糸・緯糸のセッティング ・捨て織り・織り ・織り、捨て織り、作品の仕上げ ・織物における適応・段階づけの説明 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 143-145 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第25回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>作業特性の分析（織物）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・織物における包括的作業分析チェックリストの作成 ・織物における適応・段階づけの方法について補足説明 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 143-145 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第26回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p> <p>エコクラフト①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・エコクラフト、籐細工に用いる道具・手順 ・編み方の説明・クラフトテープの計測とカット 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：pp. 86-96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。 【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第27回	<p>予習90分／復習90分</p> <p>エコクラフト②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・かこの底をねじり編みで編む ・カゴのサイドを素編み、追いかかけ編み、よろい編みで編む ・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明 【教科書ページ・参考文献】 ・配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第28回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>エコクラフト③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・かこの底をねじり編みで編む ・カゴのサイドを素編み、追いかかけ編み、よろい編みで編む ・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明 【教科書ページ・参考文献】 ・配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第29回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>作業特性の分析（エコクラフト）</p> <p>【key words】</p>



	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコクラフトにおける包括的作業分析チェックリストの作成</li> <li>・エコクラフトにおける適応・段階付けの方法について補足説明</li> </ul> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> </ul> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習180分/復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）</p> <p>第30回 授業のまとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> </ul> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習90分/復習90分</p>
<p>受講生に関わる情報および受講のルール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。</li> <li>・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。</li> <li>・作業中は周囲に十分注意を払い、服に汚れが付くこともある（学生ジャージ推奨）。</li> <li>・肩より髪の毛が長い場合はまとめる。アクセサリーは禁止。その他、汚れて困るものはロッカーなどへしまうこと。</li> <li>・毎回掃除を行い、道具の整理・管理を必ず行う。</li> <li>・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。</li> </ul>
<p>毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法</p>	<p>Webポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわる情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。</li> <li>・分からない箇所はそのままとせず、次の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。</li> </ul>
<p>オフィスアワー</p>	<p>月曜日17時～17時半。その他の曜日については要予約。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（論述・客観）60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%、総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。</p>
<p>教科書</p>	<p>古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版. 医歯薬出版株式会社</p>
<p>参考書</p>	<p>①中村隆一，他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版      ②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 新版. 三輪書店</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員が担当している</li> </ul> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</li> <li>■ディスカッション・ディベート</li> <li>■グループワーク</li> <li>■プレゼンテーション</li> <li>■実習、フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</li> </ul> <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</li> <li><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</li> <li><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</li> <li>■情報リテラシー教育は実施していない</li> </ul> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <p>その他の具体的内容</p>